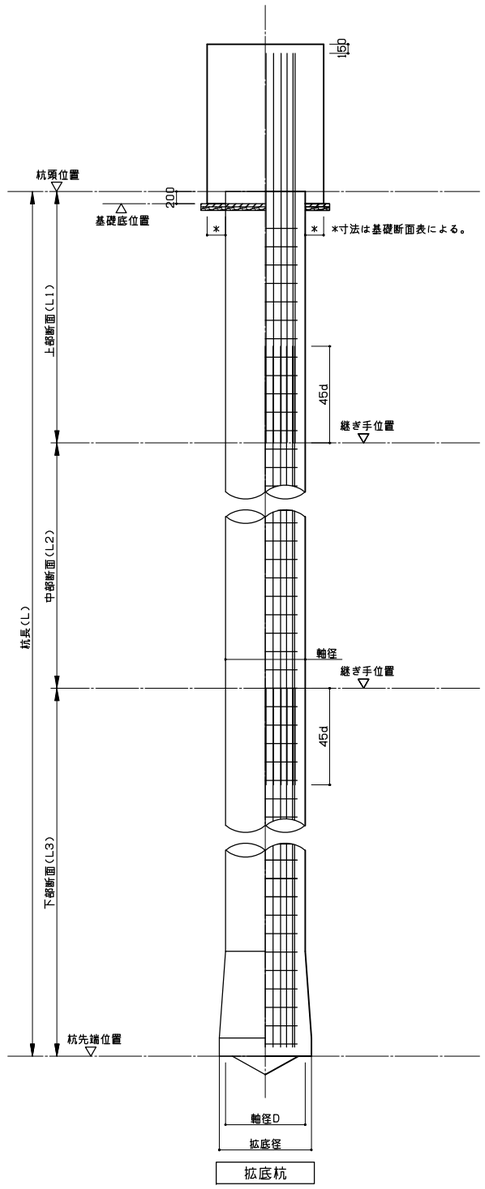
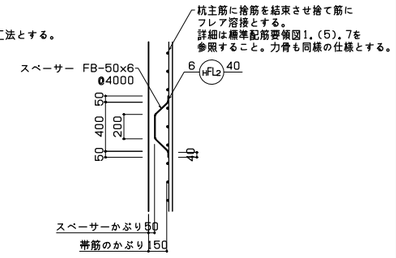
杭断面表

A1:1/50
A3:1/100

注記） 記入なき限り下記による。
1. ◎は帯筋を束ね筋とすることを示す。



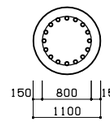
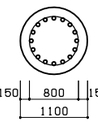
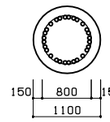
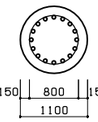
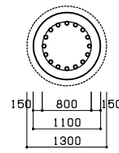
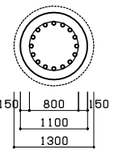


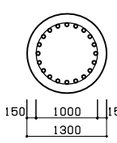
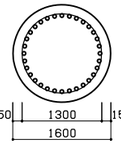
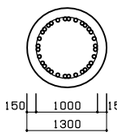
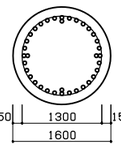
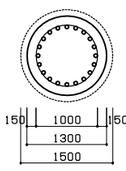
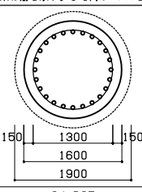
<杭における共通事項>
1. 杭種、工法は、場所打ちコンクリート杭、アースドリル工法とする。
2. 主筋の継手は重ね継手とし継手長さは45dとする。
3. 帯筋の継手は10d片面溶接とし主筋との組立は鉄線結束とする。
4. 力骨はFB-75x9(SS400) @3000とする。
5. コンクリートの余盛は500とする。
6. スペーサーはFB-50x6(SS400)とし一平面に4個所@4000以内に設ける。
7. 断面表杭径は設計径を示す。
8. スペーサーの取付け要領図
9. 杭頭レベル、杭先端位置については杭伏図による。
10. 施工時の地盤の状況等に応じて、杭長を長くする場合は中部の範囲で調整することとし、短くする場合は下部で調整すること。

基礎断面表

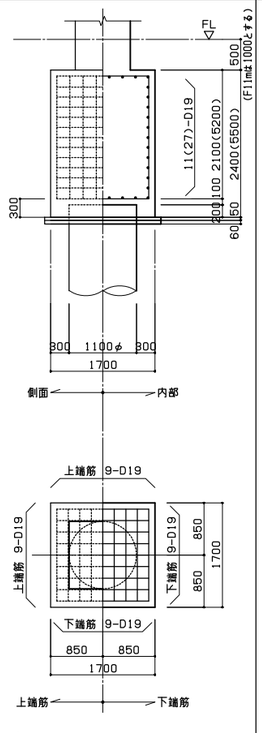
A1:1/50
A3:1/100

注記） 記入なき限り下記による。

符号	P11(P11s)[P11ss]	P11t
上部断面		
主筋	16-D35	16-D35
帯筋	◎-D16 @150	○-D16 @150
L 1	8000	6400
備考		
中部断面		
主筋	16+12-D35	16-D35
帯筋	○-D16 @150	○-D16 @150
L 2	8000	8000
備考	+12は束ね筋を示す。	
下部断面		
主筋	16-D35	16-D35
帯筋	○-D16 @300	○-D16 @300
L 3	11500(11500)[9300]	11500
備考	拡底杭。( )内はP11sを[ ]内はP11ssを示す。	拡底杭

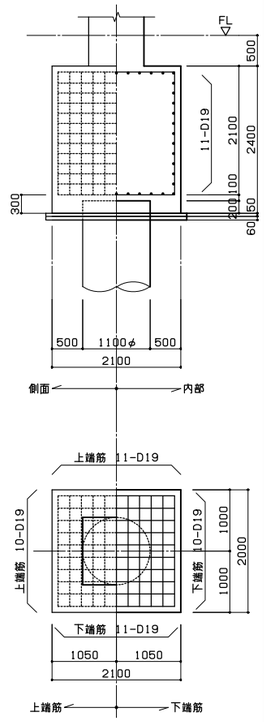
符号	P13(P13s)[P13ss]	P16(P16s)[P16a]
上部断面		
主筋	20-D35	32-D35
帯筋	◎-D16 @150	◎-D16 @150
L 1	8000	8000
備考		
中部断面		
主筋	20+12-D35	32+4-D35[32-D35]
帯筋	○-D16 @150	○-D16 @150
L 2	8000	8000
備考	+12は束ね筋を示す。	+4は束ね筋を示す。[ ]内はP16aを示す。
下部断面		
主筋	20-D35	24-D35
帯筋	○-D16 @300	○-D16 @300
L 3	11500(11500)[9300]	11500(11500)
備考	拡底杭。( )内はP13sを[ ]内はP13ssを示す。	拡底杭。( )内はP16sを示す。

F11, F11s, F11m, (F11l)



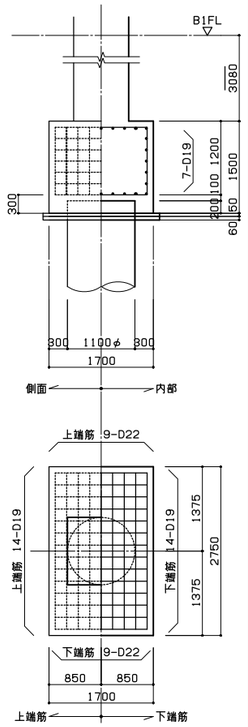
備考 ( )内はF11lを示す。

F11sa



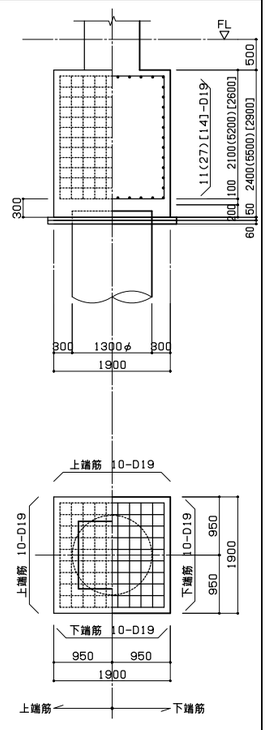
備考

F11t



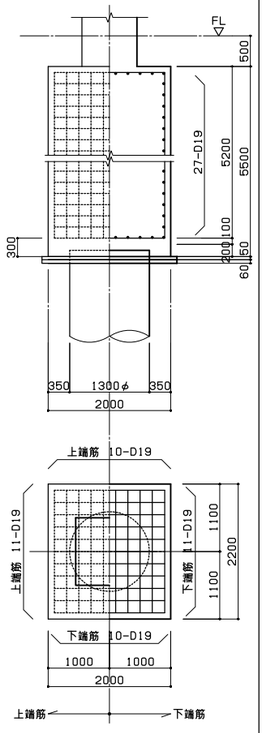
備考

F13, F13s, (F13l)[F13m]



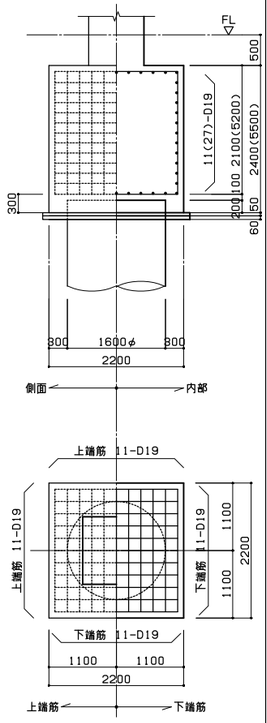
備考 ( )内はF13lを[ ]内はF13mを示す。

F13la



備考

F16, F16s, (F16l)

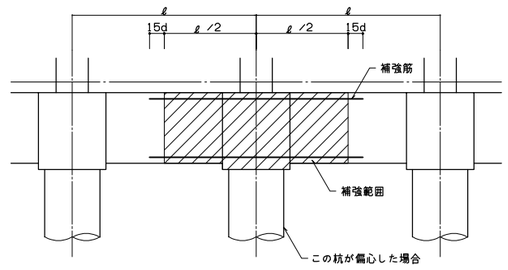


備考 ( )内はF16lを示す。

杭の偏心に対する基礎梁補強要領

施工時に設計図から100mmを超える杭の偏心が生じた場合は下記の補強筋(主筋)を偏心した方向の基礎梁の上下主筋にそれぞれ追加すること。
ただし、偏心量が100mmを超えかつSRC柱脚部と干渉して各種主筋が納まらない場合もしくは、基礎位置がずれることによってEVなどが納まらない場合には請負者の負担にて偏心した杭を引き抜いて新たな杭を打ち直すこと。ただし、新たな杭を打つ際には、撤去した杭孔に新設杭が逃げないような措置を施したうえで施工すること。
補強範囲は偏心した杭側の端部から中央+15dとする。

杭符号	偏心量(mm)	杭の偏心による追加主筋本数(本) 杭偏心方向に取り付く基礎梁が片側の場合 100mmを超え200mm以下	杭偏心方向に取り付く基礎梁が片側の場合 200mmを超え300mm以下	杭偏心方向に取り付く基礎梁が面側の場合 100mmを超え200mm以下	杭偏心方向に取り付く基礎梁が面側の場合 200mmを超え300mm以下
P11ss		5-D32	7-D32	3-D32	4-D32
P11s, P11		5-D32	8-D32	3-D32	4-D32
P13ss		6-D32	9-D32	3-D32	5-D32
P13s, P13		7-D32	10-D32	4-D32	5-D32
P16, P16a, P16s		9-D32	14-D32	5-D32	7-D32



書工	. .	. .	
校工	. .	. .	
監理		. .	
施工		. .	

高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026.06.30 検図者：山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

杭、基礎断面表

A1:1/50
A3:1/100

構 (通し番号 38)
5 － 1

No. J－240623－D

J240623D 623L-P-01.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

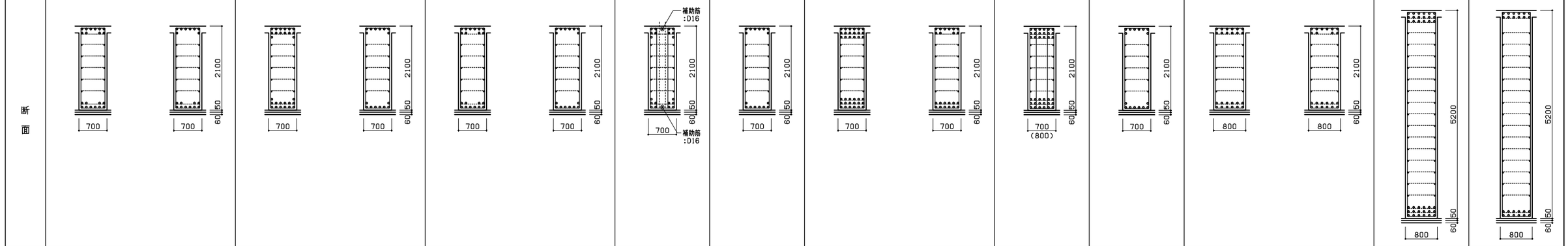
780×570

基礎梁断面表（1）

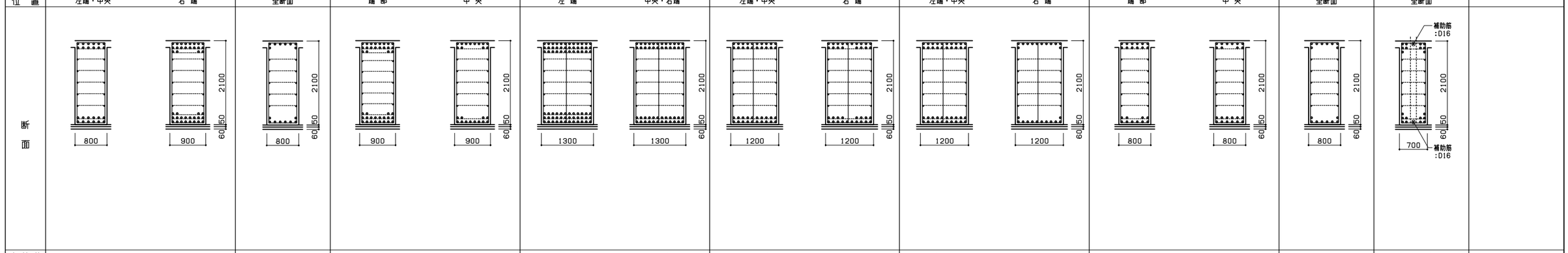
A1:1/50
A3:1/100

注記）　記入なき限り下記による。
1. 基礎梁側面に片側のみ土が接する場合はあばら筋の間隔を@100とし、腹筋は基礎内にL2定着とする。
2. 幅止め筋：D10@1000以内
3. 壁中の梁幅は取合い壁と同厚以上とする。
4. 補助筋の定着は、鉄骨柱面までとする。（取合わない場合はL2とする。）
5. あばら筋形状の数字表記の場合はあばら筋の本数を示す。例　4-D13@200 → Ⅲ-D13@200
6. SRC柱と取り合う部材は、図示がある場合を除き基礎梁上下に各々補助筋D13を設ける。

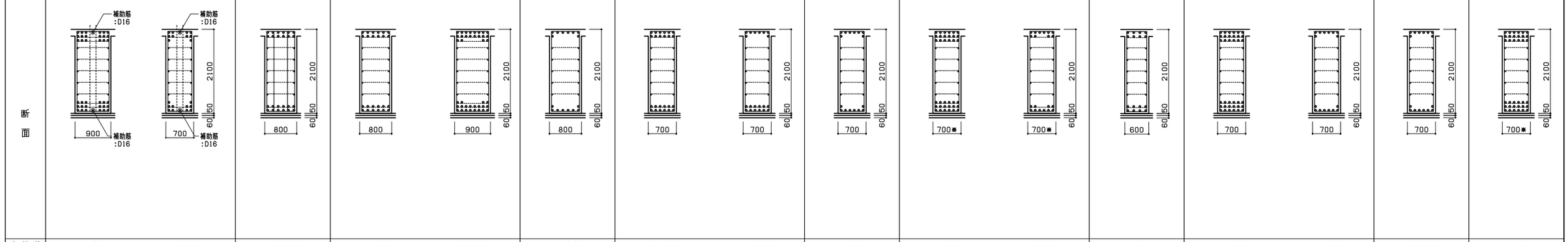
符号	FG1		FG1a		FG1b		FG1c	FG1w	FG2		FG2a・FG2aw	FG2w	FG3		FG3a	FG3aw
位置	端部	中央	左端	中央・右端	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	全断面	全断面
上端筋	10-D32	8-D32	14-D32	8-D32	10-D32	8-D32	10-D32	8-D32	18-D32	10-D32	18-D32	8-D32	12-D32	10-D32	18-D32	12-D32
下端筋	10-D32	10-D32	14-D32	8-D32	10-D32	8-D32	10-D32	8-D32	18-D32	12-D32	18-D32	8-D32	12-D32	12-D32	18-D32	12-D32
あばら筋	□-D16 @200		□-D16 @200		□-D16 @200		Ⅲ-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200		Ⅲ-D16 @200(100)	□-D16 @200	□-D16 @200		□-D16 @200	□-D16 @200
腹筋	10-D13		10-D13		10-D13		10-D13	10-D13	10-D13		10-D13	10-D13	10-D13		30-D13	30-D13
備考							補助筋2-D16				（ ）内はFG2awを示す。					



符号	FG3b		FG3w	FG4		FG4a		FG5		FG5a		FG5b		FG5w	FG6
位置	左端・中央	右端	全断面	端部	中央	左端	中央・右端	左端・中央	右端	左端・中央	右端	端部	中央	全断面	全断面
上端筋	12-D32	20-D32	8-D32	20-D32	12-D32	36-D32	24-D32	20-D32	18-D32	20-D32	12-D32	12-D32	10-D32	8-D32	10-D32
下端筋	12-D32	20-D32	8-D32	20-D32	12-D32	36-D32	24-D32	20-D32	18-D32	20-D32	12-D32	10-D32	12-D32	8-D32	10-D32
あばら筋	□-D16 @200		□-D16 @200	□-D16 @200		Ⅲ-D16 @200		Ⅲ-D16 @200		Ⅲ-D16 @200		□-D16 @200		□-D16 @200	(Ⅲ)□-D16 @200
腹筋	10-D13		10-D13	10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13		10-D13	10-D13
備考															（ ）内はY3通りX16-17間を示す。補助筋2-D16



符号	FG6a		FG6b	FG6c		FG6w	FG7		FG7w・FG7aw	FG11・FG11c		FG11a	FG11b		FG11w	FG12
位置	左端	中央・右端	全断面	左端・中央	右端	全断面	端部	中央	全断面	左端・中央	右端	全断面	左端・中央	右端	全断面	全断面
上端筋	18-D32	10-D32	12-D32	12-D32	20-D32	8-D32	12-D32	8-D32	8-D32	18-D32	10-D32	8-D32	18-D32	8-D32	8-D32	18-D32
下端筋	18-D32	10-D32	12-D32	12-D32	20-D32	8-D32	12-D32	12-D32	8-D32	18-D32	10-D32	8-D32	18-D32	8-D32	8-D32	18-D32
あばら筋	□-D16 @200		Ⅲ-D16 @200	□-D16 @200		□-D16 @200	□-D16 @200		(Ⅲ)□-D16 @200	(Ⅲ)□-D16 @200		□-D16 @200	□-D16 @200		□-D16 @200	□-D16 @200
腹筋	10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	10-D13		10-D13	10-D13
備考	通り芯より2000mmまでを端部断面とする。補助筋2-D16								（ ）内はFG7awを示す。	（ ）内はFG11cを示す。※X11-Y12，X13-Y10端部の梁幅は900とし、柱芯から1500の範囲とする。						※X13-Y9，X13-Y10，X14-Y9，X17-Y9端部の梁幅は900とし、柱芯から1500の範囲とする。



書工			
検工			
監理			
施工			

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

基礎梁断面表（1）　A1=1/50　A3=1/100

構　（通し番号　39）
5 － 2
No. J－240623－D

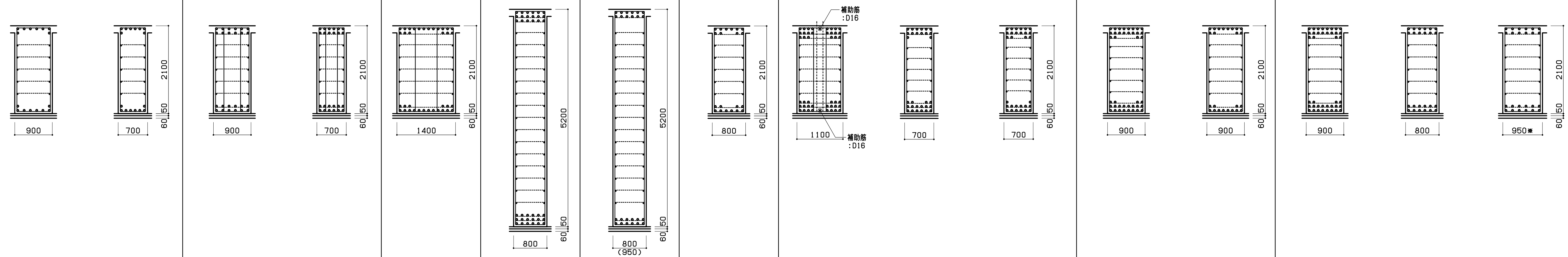
J240623D 623L-FG-01.DWG 26/03/17 <FNS>SNK0233
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

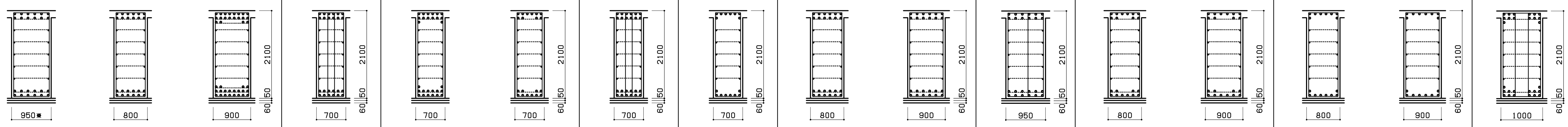
780×570

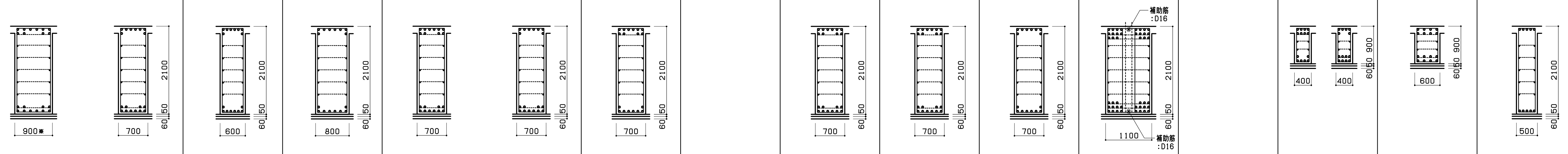
基礎梁断面表(2)

A1:1/50
A3:1/100

注記) 記入なき限り下記による。
1. 基礎梁側面に片側のみ土が接する場合はあばら筋の間隔を@100とし、腹筋は基礎内にL2定着とする。
2. 幅止め筋:D10@1000以内
3. 壁中の梁幅は取合い壁と同厚以上とする。
4. 補助筋の定着は、鉄骨柱面までとする。（取合わない場合はL2とする。）
5. あばら筋形状の数字表記の場合はあばら筋の本数を示す。 例 4-D13@200 → ▥-D13@200
6. SRC柱と取り合う部材は、図示がある場合を除き基礎梁上下に各々補助筋D13を設ける。

符号	FG12a		FG12aw		FG12b	FG12c	FG12cw	FG12w	FG13			FG14a		FG14b		
位置	左端	中央・右端	左端	中央・右端	全断面	全断面	全断面	全断面	左端	中央	右端	端部	中央	左端	中央	右端
断面																
上端筋	8-D32	8-D32	12-D32	12-D32	18-D32	18-D32	12-D32	10-D32	22-D32	14-D32	16-D32	20-D32	12-D32	20-D32	12-D32	12-D32
下端筋	8-D32	8-D32	12-D32	12-D32	18-D32	18-D32	12-D32	10-D32	22-D32	16-D32	14-D32	20-D32	12-D32	20-D32	12-D32	12-D32
あばら筋	□-D16 @200		▥-D16 @200		▥-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200	▥-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200		□-D16 @200		
腹筋	10-D13		10-D13		10-D13	30-D13	30-D13	10-D13	10-D13			10-D13		10-D13		
備考							( )内はX11通り上の梁幅を示す。		通り芯より5300mmまでを端部断面とする。左端部のみ補助筋2-D16					※X21-Y10通り端部の梁幅は800とする。		

符号	FG14c			FG14w	FG15		FG15a	FG15w	FG16		FG16a	FG16b		FG16w		FG17
位置	左端	中央	右端	全断面	端部	中央	全断面	全断面	左端・中央	右端	全断面	左端・中央	右端	左端・中央	右端	全断面
断面																
上端筋	12-D32	12-D32	20-D32	12-D32	14-D32	10-D32	12-D32	8-D32	12-D32	12-D32	12-D32	10-D32	10-D32	8-D32	8-D32	14-D32
下端筋	12-D32	12-D32	20-D32	12-D32	14-D32	10-D32	12-D32	8-D32	12-D32	12-D32	12-D32	10-D32	10-D32	8-D32	8-D32	14-D32
あばら筋	□-D16 @200			▥-D16 @200	□-D16 @200		▥-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200		◫-D16 @200	□-D16 @200		□-D16 @200		▥-D16 @200
腹筋	10-D13			10-D13	10-D13		10-D13	10-D13	10-D13		10-D13	10-D13		10-D13		10-D13
備考	※X21-Y2通り端部の梁幅は800とする。			※X23a-Y3, X23a-Y9通り端部の梁幅は900とし、柱芯から1500の範囲とする。			X5-7間はあばら筋を@100とする。									

符号	FG18		FG18a	FG18w	FG19		FG19w		CFG18	CFG19	CFG7	CFG13		FB1		FB1A	FB2
位置	端部	中央	全断面	全断面	端部	中央	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面		端部	中央	全断面	全断面
断面																	
上端筋	10-D32	8-D32	8-D32	8-D32	10-D32	8-D32	10-D32		10-D32	10-D32	8-D32	22-D32		8-D19	6-D19	8-D22	5-D32
下端筋	10-D32	10-D32	8-D32	8-D32	10-D32	10-D32	8-D32		10-D32	10-D32	8-D32	22-D32		6-D19	8-D19	8-D22	5-D32
あばら筋	□-D16 @200		□-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200		□-D16 @200		□-D16 @200	□-D16 @200	□-D16 @200	▥-D16 @200		□-D10 @200		□-D16 @200	□-D16 @200
腹筋	10-D13		10-D13	10-D13	10-D13		10-D13		10-D13	10-D13	10-D13	10-D13		4-D13		4-D13	10-D13
備考	※Y0通り端部の梁幅は700とする。											補助筋2-D16					

着工	. .	. .
竣工	. .	. .
監理		. .
		. .
施工		. .
		. .

高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026. 06. 30 検図者: 山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事(建築)

基礎梁断面表(2) A1=1/50 A3=1/100

構 (通し番号 40)
5 - 3

No. J - 240623 - D

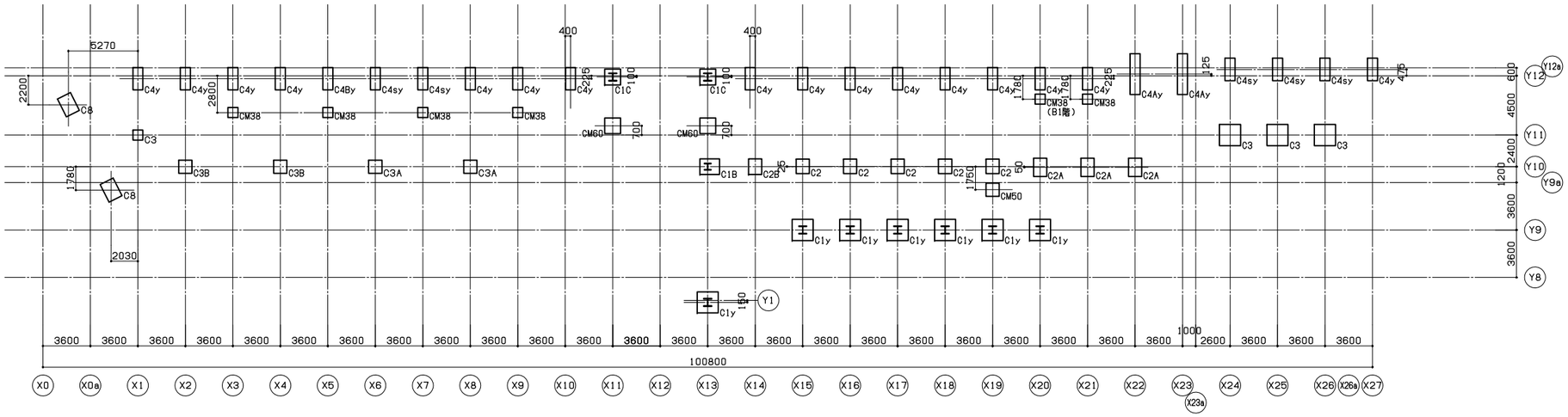
780×570

J240623D 623L-FG-02.DWG 26/03/17 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

B1階柱位置図

A1:1/100, 1/200
A3:1/200, 1/400

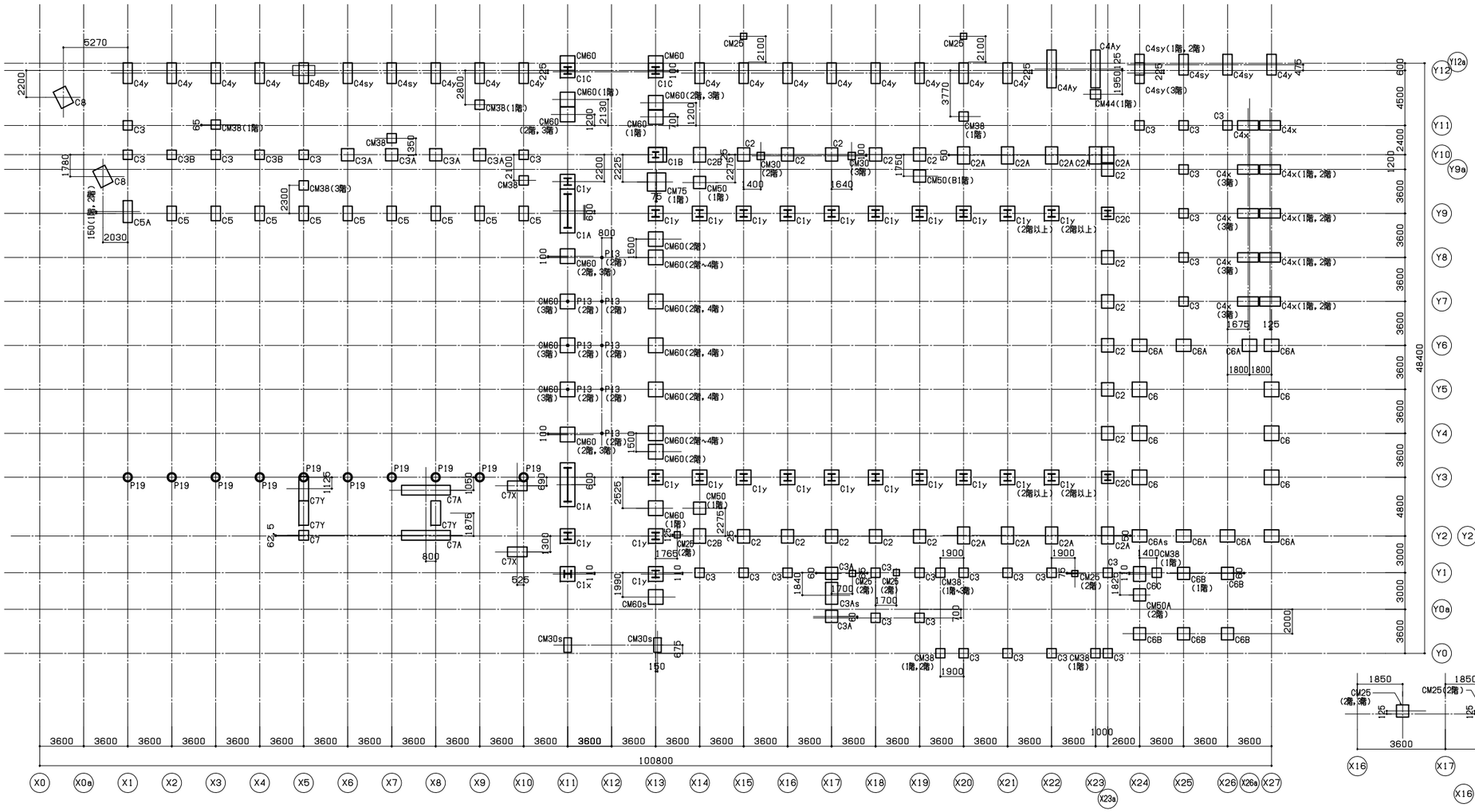
注記） 記入なき限り下記による。
1. 柱芯＝通り芯

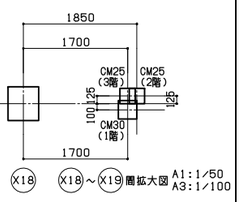


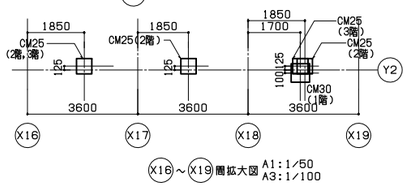
1階～PH階柱位置図

A1:1/100, 1/200
A3:1/200, 1/400

注記） 記入なき限り下記による。
1. 柱芯＝通り芯







善工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
施工		. .	

高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026.06.30 検図者：山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

柱位置図 A1=1/200 A3=1/400

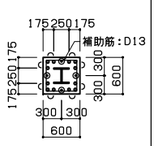
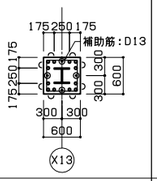
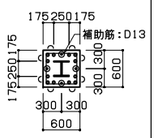
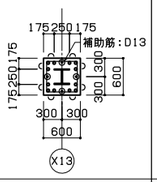
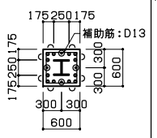
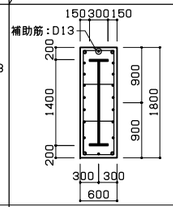
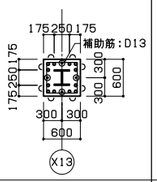
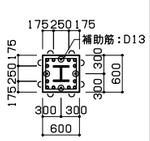
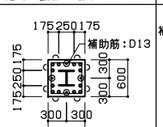
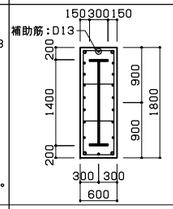
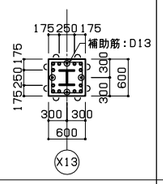
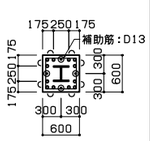
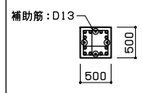
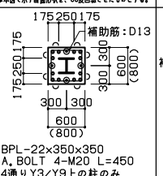
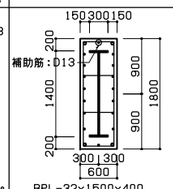
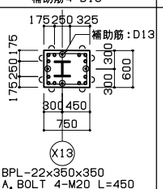
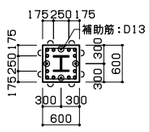
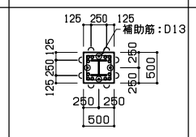
構 （通し番号 41）
5 － 4
No. J－240623－D

J240623D 623L-C-02.DWG 26/06/26 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/200 A1YFPC

柱断面表（1）

A1:1/50
A3:1/100

注記）　記入なき限り下記による。
1. 使用鋼材の材質区分表記　　□印表示：SN490B（鋼板・型鋼）
　　無印表示：SN400B（鋼板・型鋼）
2. 板厚が40mmを超える鋼材はTMCP鋼とする。
3. A.BOLTの鋼材：SN400B JIS規格品とする。
4. ◠：印は寄せ筋を示す。
5. 帯型形状の数値表記の場合は［X方向帯筋数］［Y方向帯筋数］を示す。
　例：42-D13●100 → 田-D12●100
6. SRC柱の下部ベースPL下端レベルは、最下レベルに取り合う基礎梁天端-1100以下とする。
　内部鉄骨の柱頭レベルは、取り合うSRC大梁の内部鉄骨天端レベルまでとする。

符号	C1y・C1X	C1A	C1B	C1C	C2・(C2B)	C2A	C2C	C3[C3B]	C3A	C3As	C4x	C4y・C4sy	
PH階													
鉄骨 X方向													
鉄骨 Y方向	WH-250×250×16×16		WH-250×250×16×16										
主筋	12-D19		12-D19		20-D19	22-D19	12-D19						
帯筋	□-D10 ●100		□-D10 ●100		田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100						
補助筋													
備考	C1xは本図で示す断面形状を、90度回転させたものとする。		補助筋4-D13		（ ）内はC2Bを示す。								
4階													
鉄骨 X方向													
鉄骨 Y方向	WH-250×250×16×16		WH-250×250×16×16										
主筋	12-D19		12-D19		20-D19	22-D19	12-D19					14-D19	
帯筋	□-D10 ●100		□-D10 ●100		田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100					田-D10 ●100	
補助筋													
備考	C1xは本図で示す断面形状を、90度回転させたものとする。		補助筋4-D13		（ ）内はC2Bを示す。								
3階													
鉄骨 X方向													
鉄骨 Y方向	WH-250×250×16×16	WH-1400×300×22×25	WH-250×250×16×16	WH-250×250×16×16									
主筋	12-D19	4-D19	12-D19	12-D19	20-D19	22-D19	12-D19	12-D19	16-D19		20-D19	20-D19	
帯筋	□-D10 ●100	目-D10 ●100	□-D10 ●100	□-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100		26-D13 ●100	目-D10 ●100	
補助筋		16-D13											
備考	C1xは本図で示す断面形状を、90度回転させたものとする。		補助筋4-D13	補助筋4-D13	（ ）内はC2Bを示す。								
2階	 X14通りY3/Y9上の柱のみ 鉄骨フランジ板厚を36mmとする。 （ ）内はB1階での寸法を示す。												
鉄骨 X方向													
鉄骨 Y方向	WH-250×250×16×16	WH-1400×300×22×25	WH-250×250×16×16	WH-250×250×16×16									
主筋	12-D19	4-D19	12-D19	12-D19	20-D19	22-D19	12-D19	12-D19	16-D19	22-D19	20-D19	20-D19	
帯筋	□-D10 ●100	目-D10 ●100	□-D10 ●100	□-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	63-D10 ●100	26-D13 ●100	目-D10 ●100	
補助筋		16-D13					4-D13						
備考	C1xは本図で示す断面形状を、90度回転させたものとする。		補助筋4-D13	補助筋4-D13	（ ）内はC2Bを示す。								
1・B1階	 BPL-22×350×350 A.BOLT 4-M20 L=450 X14通りY3/Y9上の柱のみ 鉄骨フランジ板厚を36mmとする。 （ ）内はB1階での寸法を示す。	 BPL-32×1500×400 A.BOLT 4-M24 L=550	 BPL-22×350×350 A.BOLT 4-M20 L=450				 BPL-19×300×300 A.BOLT 4-M20 L=450	 X1通りY11通り上のC3柱のみ、 B1階でも1階断面と同断面とする。					
鉄骨 X方向													
鉄骨 Y方向	WH-250×250×16×16	WH-1400×300×22×25	WH-250×250×16×16	WH-250×250×16×16			H-250×250× 9×14						
主筋	12-D19	4-D19	12-D19	12-D19	20-D19	22-D19	12-D19	(24)12-D19	16-D19	22-D19	20-D19	20-D19	
帯筋	□-D10 ●100	目-D10 ●100	□-D10 ●100	□-D10 ●100	田-D10 ●100	田-D10 ●100	□-D10 ●100	（田）田-D10 ●100	田-D10 ●100	63-D10 ●100	26-D13 ●100	目-D10 ●100	
補助筋		16-D13											
備考	C1xは本図で示す断面形状を、90度回転させたものとする。		補助筋4-D13	補助筋4-D13	（ ）内はC2Bを示す。		補助筋4-D13	()[]内はB1階での寸法とし、C38は[]内の寸法とする。		柱脚部のみ帯筋を●75とする。		C4syは1階柱頭部のみ帯筋を83-D13●100とする。	

書工	. .	. .	
検工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

柱断面表（1）　A1=1/50　A3=1/100

構　（通し番号　42）
5 － 5

No. J－240623－D

J240623D 623L-C-01.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS-NS-構造A1（統一ルール） 1/50 A1YFPC

780×570

柱断面表（2）

A1:1/50
A3:1/100

注記） 記入なき限り下記による。
1. 使用鋼材の材質区分表記　口印表示：SN490B（鋼板・型鋼）　無印表示：SN400B（鋼板・型鋼）
2. 板厚が40mmを超える鋼材はTMCP鋼とする。
3. A.BOLTの鋼材：SN400B JIS規格品とする。
4. ⌒：印は寄せ筋を示す。
5. 帯型形状の数値表記の場合は［X方向帯筋数］［Y方向帯筋数］を示す。
例：42-D13@100 → 目-D12@100
6. SRC柱の下部ベースPL下端レベルは、最下レベルに取り合う基礎梁天端-1100以下とする。
内部鉄骨の柱頭レベルは、取り合うSRC大梁の内部鉄骨天端レベルまでとする。

符号	C4Ay	C4By	C5・（C5A）	C6	C6A・（C6As）	C6B・（C6C）	C7X	C7Y	C7	C7A	C8
PH階											
鉄骨 X方向											
鉄骨 Y方向											
主筋											
帯筋											
補助筋											
備考											
4階				600 × 600	600 × 500						
鉄骨 X方向											
鉄骨 Y方向											
主筋				24-D22	20-D19						
帯筋				田-D10 @100	田-D10 @100(D13@100)						
補助筋											
備考					( )内はC6Asを示す。						
3階	380 / 650 200 / 850 / Y12	900 × 400	Y9 / 300 300 / 600 / 380	600 × 600	600 × 500	500 × 500 (600)					
鉄骨 X方向											
鉄骨 Y方向			WH -300× 80×19×28								
主筋	20-D19	20-D19	12-D19	24-D22	20-D19	16-D19					
帯筋	田-D10 @100	田田-D10 @100	目-D10 @100	田-D10 @100	田-D10 @100(D13@100)	(田)田-D10 @100					
補助筋											
備考			BPL-28x400x180 A.BOLT 4-M20 L=450		( )内はC6Asを示す。	( )内はC6Cを示す。					
2階	380 / 900 650 / 1550 / Y12	380 × 850	Y9 / 300 300(600) / 600 (900) / 380	600 × 600	600 × 500	500 × 500 (600)					650 × 750
鉄骨 X方向											
鉄骨 Y方向											
主筋	28-D19	20-D19	(20)16-D19	24-D22	20-D19	16-D19					26-D22
帯筋	93-D10 @100	田-D10 @100	田-D10 @100(73-D10 @100)	田-D10 @100	(田)田-D10 @100(D13@75)	(田)田-D10 @100					田-D13 @100
補助筋											
備考			( )内はC5Aを示す。		( )内はC6Asを示す。	( )内はC6Cを示す。					
1・B1階	380 / 900 650 / 1550 / Y12	380 × 850	Y9 / 300 300(600) / 600 (900) / 380	600 × 600	600 × 500	500 × 500 (600)	800 × 400	400 × 1000	400 × 400	2000 × 400	650 × 750
鉄骨 X方向											
鉄骨 Y方向											
主筋	28-D19	20-D19	(20)16-D19	24-D22	20-D19	16-D19	20-D22	28-D22	12-D22	26-D22	26-D22
帯筋	93-D10 @100	田-D10 @100	田-D10 @100(73-D10 @100)	田-D10 @100	田-D10 @100(D13@100)	(田)田-D10 @100	田-D13 @100	目-D13 @100	□-D13 @100	田田田-D13 @100	田-D13 @100
補助筋											
備考			( )内はC5Aを示す。		( )内はC6Asを示す。	( )内はC6Cを示す。					

着工 . .　. .
竣工 . .　. .
監理 . .
施工 . .

高橋 央　一級建築士
小板橋 裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野 悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

柱断面表（2）　A1=1/ 50　A3=1/100

構　（通し番号 43）
5 － 6

No. J － 240623 － D

780×570

J240623D 623L-C-03.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1（統一ルール） 1/50 A1YFPC

大梁断面表（1）

A1:1/50
A3:1/100

注記） 記入なき限り下記による。
1.鋼材品質： 無印 SS400、□印 SN490B、○印 SM490A
（板厚40mmを超える場合は、TMCP鋼とする。）
2.幅止め筋：D10@1000以内
3.壁中の梁幅は取合い壁と同厚以上とする。
4.補助筋の定着は、鉄骨柱面までとする。
（取合わない場合はL2とする。）
5.あばら筋形状の数字表記の場合はあばら筋の本数を示す。
例 4-D13@200 → ◫◫-D13@200
6.せいが380mmの柱に梁主筋を定着させる場合は折り曲げ定着とし、折り曲げ終点を定着起点と見なしてL2hを確保する。ただし、最上階においては、標準配筋要領図(3)図3.3による。
7.主筋本数の表記が以下の場合は例に倣う配筋とする。
例 5,5,2 → 1段目5本 2段目5本 3段目2本

PHR・PH階

符号	G1・G1C・CG1	G1W・G1WA	G1A・G1AW	G1B	G2・G2W	G2A	G2B	G2C	G2D	G3	G3A	G4	G4A・G4AA	G4B	G4C
位置	全断面	全断面													
断面	600, 500	600, 600													
鉄骨															
上端筋	10-D22	4-D22													
下端筋	10-D22	4-D22													
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200													
腹筋	2-D13	2-D13													
備考	CG1はG1と同断面とする。														

4階

符号	G1・G1C・CG1	G1W・G1WA	G1A・G1AW	G1B	G2・G2W	G2A	G2B	G2C	G2D	G3	G3A	G4	G4A・G4AA	G4B	G4C
位置	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面			端部 / 中央		全断面	全断面	全断面	端部 / 中央
断面	600, 500	600, 600	補助筋：D13, 180, 300, 120, 600, 300 300, 600		600, 380	600, 400	600, 380			380 / 700, 380		900, 500	600, 500	600, 380	600 / 900, 600
鉄骨			WH-300×250× 9×16												
上端筋	10-D22	4-D22	4-D22		(4)8-D22	8-D22	8-D22			8-D22 / 4-D22		8-D22	10-D22	8-D22	12-D22 / 10-D22
下端筋	10-D22	4-D22	2-D22		(4)8-D22	8-D22	8-D22			4-D22 / 8-D22		8-D22	10-D22	8-D22	10-D22 / 12-D22
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13			2-D13		4-D13	2-D13	2-D13	4-D13
備考			補助筋 2-D13		( )内はG2Wを示す。										

3階

符号	G1・G1C・CG1	G1W・G1WA	G1A・G1AW	G1B	G2・G2W	G2A	G2B	G2C	G2D	G3	G3A	G4	G4A・G4AA	G4B	G4C
位置	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	端部 / 中央		端部 / 中央	全断面	全断面	全断面	全断面	端部 / 中央
断面	600, 500	600, 600	補助筋：D13, 180, 300, 120, 600, 300 300, 600		600, 380	600, 400	600, 380	380 / 1100, 380		840, 380 / 750, 380	900, 380	900, 500	600, 500	600, 380	600 / 900, 600
鉄骨			WH-300×250× 9×16												
上端筋	10-D22	4-D22	4-D22		(4)8-D22	8-D22	8-D22	8-D22 / 6-D22		8-D22 / 4-D22	8-D22	8-D22	10-D22	8-D22	12-D22 / 10-D22
下端筋	10-D22	4-D22	2-D22		(4)8-D22	8-D22	8-D22	6-D22 / 8-D22		4-D22 / 8-D22	8-D22	8-D22	10-D22	8-D22	10-D22 / 12-D22
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13	4-D13		2-D13	4-D13	4-D13	2-D13	2-D13	4-D13
備考			補助筋 2-D13		( )内はG2Wを示す。										

2階

符号	G1・G1C・CG1	G1W・G1WA	G1A・G1AW	G1B	G2・G2W	G2A	G2B	G2C	G2D	G3	G3A	G4	G4A・G4AA	G4B	G4C
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端部 / 中央		全断面	全断面	全断面	
断面	600 (900), 500	600 (400), 600 (650)	補助筋：D13, 180, 300 (600), 600 (900), 120, 300 300, 600	補助筋 :D13, 180, 244, 176, 600, 300 300, 600	600, 380	600, 400	450, 380	900, 380	600, 850	840, 380 / 750, 380		600, 500	600 (900), 500	600, 380	
鉄骨			WH-300×250× 9×16 (WH-600×250×22×22)	WH-244×175× 7×11											
上端筋	(5,5,2)10-D22	(5)4-D22	4-D22	4-D22	(4)8-D22	8-D22	4-D22	8-D22	8-D22	8-D22 / 4-D22		6-D22	10-D22	8-D22	
下端筋	(5,5,2)10-D22	(5)4-D22	2-D22	2-D22	(4)8-D22	8-D22	4-D22	8-D22	8-D22	4-D22 / 8-D22		6-D22	10-D22	8-D22	
あばら筋	□-D13 @200	(◫)□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	◫-D13 @200	◫-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	◫-D13 @200	□-D13 @200	
腹筋	(4)2-D13	2-D13	(4)2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	4-D13	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13	
備考	( )内はG1Cを示す。	( )内はG1WAを示す。	( )内はG1AWを示す。補助筋 2-D13	補助筋 2-D13	( )内はG2Wを示す。								( )内はG4AAを示す。		

1階

符号	G1・G1C・CG1	G1W・G1WA	G1A・G1AW	G1B	G2・G2W	G2A	G2B	G2C	G2D	G3	G3A	G4	G4A・G4AA	G4B	G4C
位置	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面		全断面	端部 / 中央		全断面	全断面	全断面	
断面	600, 500	600, 600	補助筋：D13, 180, 300, 120, 600, 300 300, 600		600, 380	600, 400	600, 380		600, 850	380 / 700, 380		600, 500	600, 500	600, 380	
鉄骨			WH-300×250× 9×16												
上端筋	10-D22	4-D22	4-D22		(4)8-D22	8-D22	8-D22		8-D22	8-D22 / 4-D22		6-D22	10-D22	8-D22	
下端筋	10-D22	4-D22	2-D22		(4)8-D22	8-D22	8-D22		8-D22	4-D22 / 8-D22		6-D22	10-D22	8-D22	
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		◫-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	◫-D13 @200	□-D13 @200	
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13	
備考					( )内はG2Wを示す。										

着工 . .
竣工 . .
監理
施工

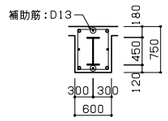
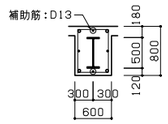
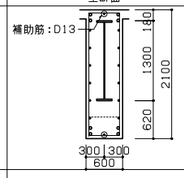
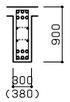
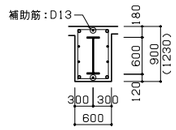
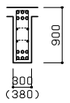
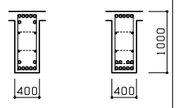
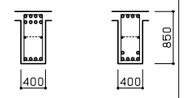
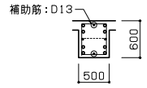
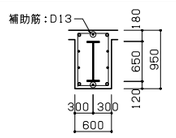
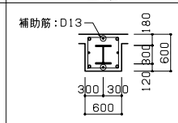
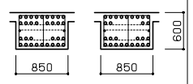
高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計
2026.06.30 検図者： 山本 裕
木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）
大梁断面表（1） A1=1/ 50 A3=1/100
構 （通し番号 44）
5 － 7
No. J－240623－D
780×570
J240623D 623L-G-01.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

大梁断面表（2）

A1:1/50
A3:1/100

注記）　記入なき限り下記による。
1.鋼材品質：　無印 SS400、□印 SN490B、○印 SM490A
（板厚40mmを超える場合は、TMCP鋼とする。）
2.幅止め筋：D10@1000以内
3.壁中の梁幅は取合い壁と同厚以上とする。
4.補助筋の定着は、鉄骨柱面までとする。
（取合わない場合はL2とする。）
5.あばら筋形状の数字表記の場合はあばら筋の本数を示す。
例　4-D13@200 → □□-D13@200
6.せいが380mmの柱に梁主筋を定着させる場合は折り曲げ定着とし、折り曲げ終点を定着起点と見なして
L2hを確保する。ただし、最上階においては、標準配筋要領図(3)図3.3による。
7.主筋本数の表記が以下の場合は例に倣う配筋とする。
例 5,5,2 → 1段目5本 2段目5本 3段目2本

符号	G5	G5A・G5AA	G5B	G5C	G5D	G6	G6A	G11	G12	G13(G13A)	G14	
位置								全断面	全断面	全断面		
PHR・PH階												
鉄骨								(WH)-1600×300×16×36		H-450×200× 9×14		
上端筋									4-D22	2-D22		
下端筋									4-D22	2-D22		
あばら筋									□-D13 @200	□-D13 @200		
腹筋									2-D13	2-D13		
備考										補助筋2-D13		
位置	全断面	全断面	全断面	全断面				全断面	全断面	全断面	全断面	
4階												
鉄骨								(WH)-1600×300×16×28		WH-500×200×12×19	WH-1300×250×12×22	
上端筋	6-D22	8-D22	4-D22	8-D22					4-D22	2-D22	4-D22	
下端筋	4-D22	8-D22	4-D22	8-D22					4-D22	2-D22	4-D22	
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200					□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13					2-D13	2-D13	12-D13	
備考										補助筋2-D13	補助筋2-D13	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面				全断面	全断面	全断面	
3階												
鉄骨										H-600×200×11×17 (WH-950×200×16×16)	WH-1300×250×12×22	
上端筋	6-D22	8-D22	4-D22	6-D22	12-D25				4-D22	2-D22	4-D22	
下端筋	4-D22	8-D22	4-D22	6-D22	8-D25				4-D22	2-D22	4-D22	
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□□-D13 @200				□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13	4-D13	4-D13				2-D13	4-D13(6-D13)	12-D13	
備考				( )内はX10-11圏を示す。						補助筋2-D13,( )内はG13Aを示す。	補助筋2-D13	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面		端部　中央	端部　中央		全断面	全断面	全断面	
2階												
鉄骨										WH-650×200×12×16	WH-300×250× 9×16	
上端筋	6-D22	8-D22	4-D22	6-D22		7-D19　5-D19	8-D19　4-D19		4-D22	2-D22	2-D22	
下端筋	4-D22	8-D22	4-D22	6-D22		7-D19　9-D19	4-D19　6-D19		4-D22	2-D22	2-D22	
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	
腹筋	2-D13	(4)2-D13	2-D13	4-D13		4-D13	2-D13		2-D13	4-D13	2-D13	
備考		( )内はG5AAを示す。		( )内はX10-11圏を示す。					補助筋2-D13	補助筋2-D13	補助筋2-D13	
位置	全断面	全断面	全断面		端部　中央				全断面			
1階												
鉄骨												
上端筋	6-D22	8-D22	4-D22		17-D22　13-D22				4-D22			
下端筋	4-D22	8-D22	4-D22		15-D22　15-D22				4-D22			
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□□-D13 @200				□-D13 @200			
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13		2-D13				2-D13			
備考												

審査	. .	. .
現場	. .	. .
監理		. .
		. .
施工		. .

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

大梁断面表（2）　A1=1/50　A3=1/100

構　（通し番号　45）
5 － 8

No. J－240623－D

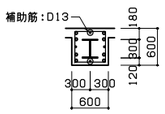
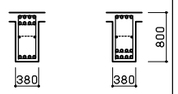
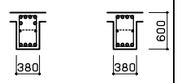
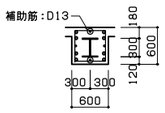
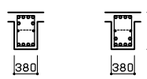
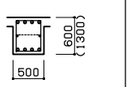
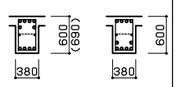
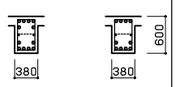
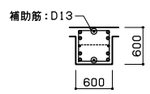
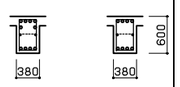
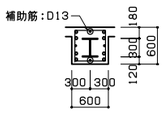
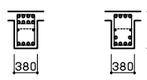
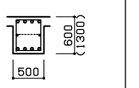
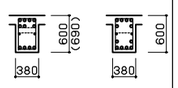
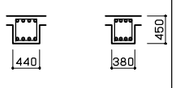
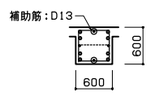
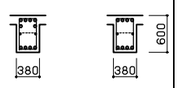
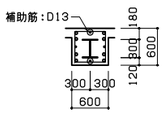
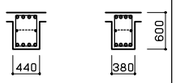
J240623D 623L-G-02.DWG 26/07/07 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

780X570

大梁断面表（3）

A1:1/50
A3:1/100

注記）　記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質：　無印 SS400、□印 SN490B、○印 SM490A
（板厚40mmを超える場合は、TMCP鋼とする。）
2. 幅止め筋：D10@1000以内
3. 壁中の梁幅は取合い壁と同厚以上とする。
4. 補助筋の定着は、鉄骨柱面までとする。
（取合わない場合はL2とする。）
5. あばら筋形状の数字表記の場合はあばら筋の本数を示す。
例　4-D13@200 → □□-D13@200
6. せいが380mmの柱に梁主筋を定着させる場合は折り曲げ定着とし、折り曲げ終点を定着起点と見なして
L2hを確保する。ただし、最上階においては、標準配筋要領図(3)図3.3による。
7. 主筋本数の表記が以下の場合は例に倣う配筋とする。
例　5,5,2 → 1段目5本　2段目5本　3段目2本

符号	G21・G21B	G21A・G21AA	G21C	G22	G22A・G22AA	G22B	G22C	G22W	G22WA	G31・G31A		CG22
位置	全断面											
PHR・PH階												
鉄骨												
上端筋	8-D22											
下端筋	8-D22											
あばら筋	□-D13 @200											
腹筋	2-D13											
備考												
位置	全断面	全断面		端部　中央		端部　中央	全断面			全断面		元端　先端
4階												
鉄骨		WH-300×250× 9×19(22)										
上端筋	8-D22	4-D22		6-D22　4-D22		8-D22　4-D22	8-D22			8-D22		6-D22　4-D22
下端筋	8-D22	4-D22		4-D22　6-D22		4-D22　8-D22	8-D22			8-D22		4-D22　4-D22
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200			□-D13 @200		□-D13 @200
腹筋	2-D13	2-D13		2-D13		2-D13	2-D13			2-D13		2-D13
備考	（ ）内はG21Bを示す。	（ ）内はG21AAを示す。										
位置	全断面	全断面		端部　中央	全断面	端部　中央	端部　中央	全断面	全断面	全断面		元端　先端
3階												
鉄骨		WH-300×250× 9×19										
上端筋	8-D22	4-D22		6-D22　4-D22	4-D22	6-D22　4-D22	6-D22　4-D22	4-D22	4-D22	8-D22		6-D22　4-D22
下端筋	8-D22	4-D22		4-D22　6-D22	4-D22	4-D22　6-D22	6-D22　6-D22	4-D22	4-D22	8-D22		4-D22　4-D22
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200
腹筋	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13		2-D13
備考					（ ）内はG22AAを示す。	（ ）内はY10通り側を示す。			補助筋2-D13	（ ）内はG31Aを示す。		
位置	全断面	全断面	端部　中央	端部　中央	全断面	端部　中央	Y10通り端部　Y12通り端部・中央	全断面	全断面	全断面		元端　先端
2階												
鉄骨		WH-300×250× 9×19										
上端筋	(2,2)8-D22	4-D22	8-D22　4-D22	8-D22　4-D22	4-D22	7-D22　6-D22	4-D22　4-D22	4-D22	4-D22	8-D22		6-D22　4-D22
下端筋	(2,2)8-D22	4-D22	4-D22　8-D22	4-D22　6-D22	4-D22	4-D22　6-D22	4-D22　4-D22	4-D22	4-D22	8-D22		4-D22　4-D22
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200
腹筋	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	2-D13		2-D13
備考	（補助筋2-D13）（ ）内はG21Bを示す。				（ ）内はG22AAを示す。	（ ）内はY10通り側を示す。			補助筋2-D13	（ ）内はG31Aを示す。		
位置	全断面	全断面		端部　中央			Y10通り端部　Y12通り端部・中央			全断面		
1階												
鉄骨		WH-300×250× 9×19										
上端筋	8-D22	4-D22		6-D22　4-D22			4-D22　4-D22			8-D22		
下端筋	8-D22	4-D22		4-D22　6-D22			4-D22　4-D22			8-D22		
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200		□-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200		
腹筋	2-D13	2-D13		2-D13			2-D13			2-D13		
備考												

審査	. .	. .	
検査	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生　悟

日建設計

2026.06.30　　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

大梁断面表（3）　A1=1/50　A3=1/100

構　（通し番号　46）
5 － 9
No. J－240623－D

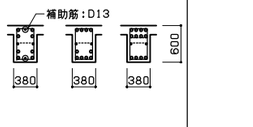
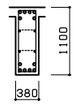
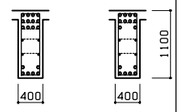
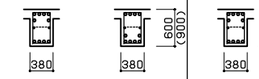
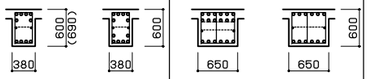
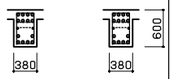
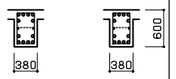
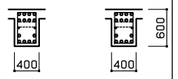
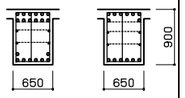
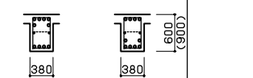
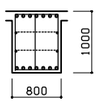
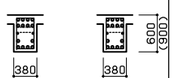
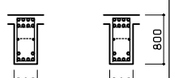
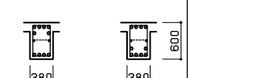
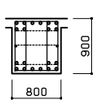
J240623D 623L-G-03.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

780×570

大梁断面表（4）

A1:1/50
A3:1/100

注記）　記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質：　無印 SS400、□印 SN490B、○印 SM490A
（板厚40mmを超える場合は、TMCP鋼とする。）
2. 幅止め筋：D10@1000以内
3. 壁中の梁幅は取合い壁と同厚以上とする。
4. 補助筋の定着は、鉄骨柱面までとする。
（取合わない場合はL2とする。）
5. あばら筋形状の数字表記の場合はあばら筋の本数を示す。
例　4-D13@200 → ⊞-D13@200
6. せいが380mmの柱に梁主筋を定着させる場合は折り曲げ定着とし、折り曲げ終点を定着起点と見なして
L2hを確保する。ただし、最上階においては、標準配筋要領図(3)図3.3による。
7. 主筋本数の表記が以下の場合は例に倣う配筋とする。
例　5, 5, 2 → 1段目5本　2段目5本　3段目2本

符号	G41・G41A	G51・G51C	G51A	G51B	G61・CG61	G61A	CG2・CG2C	CG4	CG5	CG31	CG51	CG51A
位置												
PHR・PH階												
鉄骨												
上端筋												
下端筋												
あばら筋												
腹筋												
備考												
位置	全断面	Y9通り端　中央　Y10通り端	全断面						元端　先端		元端　先端	
4階												
鉄骨												
上端筋	4-D22	4-D22　4-D22　8-D22	6-D22						12-D22　10-D22		8-D22　8-D22	
下端筋	4-D22	4-D22　6-D22　4-D22	6-D22						6-D22　6-D22		6-D22　6-D22	
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200						□-D13 @200		□-D13 @200	
腹筋	2-D13	2-D13	4-D13						4-D13		2-D13	
備考		補助筋 2-D13										
位置	全断面	端部　中央	端部　中央	Y12通り端　中央・他端			元端　先端			元端　先端	元端　先端	元端　先端
3階												
鉄骨												
上端筋	4-D22	(4, 4)6-D22　(4, 2)4-D22	6-D22　6-D22	12-D22　6-D22			8-D22　8-D22			6-D22　6-D22	8-D22　8-D22	12-D25　8-D25
下端筋	4-D22	(4, 2)4-D22　(4, 4)6-D22	4-D22　6-D22	6-D22　6-D22			6-D22　6-D22			6-D22　6-D22	6-D22　6-D22	8-D25　6-D25
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	⊞-D13 @200			□-D13 @200			□-D13 @200	□-D13 @200	⊞-D13 @200
腹筋	(2)4-D13	(4)2-D13	2-D13	2-D13			2-D13			2-D13	2-D13	2-D13
備考	(　)内はG41Aを示す。	(　)内はG51Cを示す。	(　)内はY10通り側を示す。									
位置	全断面	端部　中央		全断面	全断面	全断面	元端　先端	元端　先端		元端　先端	元端　先端	
2階												
鉄骨												
上端筋	4-D22	(4, 4)6-D22　(4, 2)4-D22		6-D22	4-D19	7-D19	8-D22　8-D22	8-D22　6-D22		8-D22　8-D22	8-D22　8-D22	
下端筋	4-D22	(4, 2)4-D22　(4, 4)6-D22		6-D22	4-D19	7-D19	6-D22　6-D22	4-D22　4-D22		6-D22　6-D22	6-D22　6-D22	
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200		⊞-D13 @200	□-D13 @200	⊞-D13 @200	□-D13 @200	⊞-D13 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	
腹筋	2-D13	(4)2-D13		2-D13		4-D13	(4)2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	
備考		(　)内はG51Cを示す。					(　)内はCG2Cを示す。					
位置	全断面	端部　中央	全断面	全断面	全断面							
1階												
鉄骨												
上端筋	4-D22	6-D22　4-D22	8-D22	6-D22	10-D19							
下端筋	4-D22	4-D22　6-D22	8-D22	6-D22	10-D19							
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	⊞-D13 @100	⊞-D13 @200	⊞-D13 @200							
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13							
備考					CG61はG61と同断面とする。							

書工	. .	. .	
検工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
絹生　悟

日建設計

2026. 06. 30　　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

大梁断面表（4）　A1=1/50　A3=1/100

構　（通し番号　47）
5 － 10
No. J－240623－D

J240623D 623L-G-04.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

78 0X570

床スラブ配筋表

注記） 記入なき限り下記による。
1. 主筋方向：短辺方向を示す。
2. 各符号は次の仕様を示す。DS：捨て型枠デッキフラットスラブ FS：基礎スラブ

符号	厚さ	位置	短辺方向配筋（主力筋） A部 端部	A部 中央	B部 端中共	長辺方向配筋（配力筋） A部 端部	A部 中央	B部 端中共	備考
S15 DS15	150	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D10, D13 @200	D10, D13 @200	D10, D13 @200	DS：捨型枠デッキフラットタイプを示す。
		下端筋	D10 @200	D10, D13 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	
S15A	150	上端筋	D10, D13 @100	D13 @200	D13 @200	D10, D13 @100	D10, D13 @200	D10, D13 @200	
		下端筋	D13 @200	D10, D13 @100	D13 @200	D10 @200	D10, D13 @100	D10 @200	
S20 DS20	200	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	
S25	250	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	CS25と接続する箇所においては長辺方向上端筋
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16@100とする。
S25A DS25A	250	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	DS：捨型枠デッキフラットタイプを示す。
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
S30	300	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	

片持ちスラブ配筋表

注記） 記入なき限り下記による。
1. 主筋方向：短辺方向を示す。
2. 各符号は次の仕様を示す。DS：捨て型枠デッキフラットスラブ FS：基礎スラブ

符号	厚さ	位置	主力筋 元端	主力筋 先端	配力筋 全断面	備考
CS15	150	上端筋	D13 @100	D13 @200	D10 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D10 @200	
CS20	200	上端筋	D13, D16 @100	D13 @200	D10, D13 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D10, D13 @200	
CS30	300	上端筋	D16 @100	D16 @200	D13 @200	
		下端筋	D16 @200	D16 @200	D13 @200	
CS35 CFS35	350	上端筋	D19 @100	D19 @200	D13, D16 @200	
		下端筋	D19 @200	D19 @200	D13, D16 @200	
CS40a	400	上端筋	D16 @200	D16 @200	D19 @200	
		下端筋	D16 @200	D16 @200	D19 @200	
CS40b	400	上端筋	D19 @200	D19 @200	D16 @200	
		下端筋	D19 @200	D19 @200	D16 @200	
CS25 CFS25	250	上端筋	D16 @100	D16 @200	D13 @200	
		下端筋	D16 @200	D16 @200	D13 @200	
CS25A CDS25A	250	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	DS：捨型枠デッキフラットタイプを示す。
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
CS35A	350	上端筋	D16 @100	D16 @200	D16 @200	配力筋のX13～X13+1800までの範囲の上端筋は
		下端筋	D16 @100	D16 @200	D16 @200	D16@100とする。

壁配筋表

注記） 記入なき限り下記による。
1. 幅止め筋 D13@1000×1000以内

符号 耐震壁	符号 一般壁	厚さ	壁配筋 たて筋	壁配筋 よこ筋	開口補強筋 開口長辺 ≦ 1000 たてよこ筋	開口長辺 ≦ 1000 ななめ筋	開口長辺 ＞ 1000 たてよこ筋	開口長辺 ＞ 1000 ななめ筋	備考
EW18	W18	180	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	2-D13	鉄筋格子 D10@75シングル	4-D13	鉄筋格子 D10@75シングル	PW18は、構7-1に示すパラペット配筋要領図による。
EW20	W20	200	D13 @200 ダブル	D13 @200 ダブル	2-D13	鉄筋格子 D10@75シングル	4-D13	鉄筋格子 D10@75シングル	
EW25	W25	250	D16 @200 ダブル	D16 @200 ダブル	2-D16	1-D16	4-D16	2-D16	
EW30	W30	300	D16 @200 ダブル	D16 @200 ダブル	2-D16	1-D16	4-D16	2-D16	
EW30A	−	300	D16 @100 ダブル	D16 @100 ダブル	2-D16	1-D16	4-D16	2-D16	
EW35	W35	350	D16 @200 ダブル	D16 @200 ダブル	2-D16	1-D16	4-D16	2-D16	
EW38	W38	380	D19 @200 ダブル	D19 @200 ダブル	2-D19	1-D19	4-D19	2-D19	
EW40	W40	400	D19 @200 ダブル	D19 @200 ダブル	2-D19	1-D19	4-D19	2-D19	
EW40A	−	400	D16, D19 @100 ダブル	D16, D19 @100 ダブル	2-D19	1-D19	4-D19	2-D19	
EW45	W45	450	D19 @200 ダブル	D19 @200 ダブル	2-D19	1-D19	4-D19	2-D19	
EW50	W50	500	D22 @200 ダブル	D22 @200 ダブル	2-D22	1-D22	4-D22	2-D22	
EW60	W60	600	D22 @200 ダブル	D22 @200 ダブル	2-D22	1-D22	4-D22	2-D22	
EW65	W65	650	D22 @200 ダブル	D22 @200 ダブル	2-D22	1-D22	4-D22	2-D22	
EW70	W70	700	D19 @100 ダブル	D19 @100 ダブル	3-D19	2-D19	5-D19	3-D19	

地下外壁配筋表

注記） 記入なき限り下記による。
1. 幅止め筋 D13@1000×1000以内

符号	厚さ	位置	たて筋 上部	たて筋 中央	たて筋 下部	よこ筋 端部	よこ筋 中央	備考
BW38	380	外側	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	
		内側	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	

床スラブ配筋表

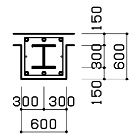
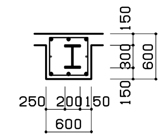
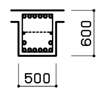
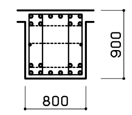
注記） 記入なき限り下記による。
1. 主筋方向：短辺方向を示す。
2. 各符号は次の仕様を示す。DS：捨て型枠デッキフラットスラブ FS：基礎スラブ

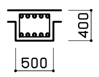
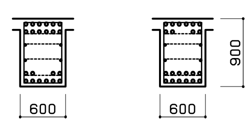
符号	厚さ	位置	短辺方向配筋（主力筋） A部 端部	A部 中央	B部 端中共	長辺方向配筋（配力筋） A部 端部	A部 中央	B部 端中共	備考
S40	400	上端筋	D19 @100	D19 @200	D19 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	
		下端筋	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	
S40a	400	上端筋	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	S40と接続する箇所においては
		下端筋	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	A部上端筋をD19@100とすること。
FS20	200	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	
FS20A	200	上端筋	D13 @100	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @100	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
FS25	250	上端筋	D13, D16 @100	D13 @200	D13, D16 @100	D13, D16 @100	D13 @200	D13 @200	
		下端筋	D13 @200	D13, D16 @100	D13, D16 @100	D13 @200	D13, D16 @100	D13 @200	
FS25A	250	上端筋	D16 @100	D16 @100	D16 @100	D16 @100	D16 @100	D16 @100	
		下端筋	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	D16 @200	
FS30	300	上端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
		下端筋	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	D13 @200	
FS40	400	上端筋	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D19 @200	
		下端筋	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D19 @200	D19 @200	

RC小梁断面表

A1:1/50
A3:1/100

注記） 記入なき限り下記による。
1. 幅止め筋 D13@1000　　2. 鋼材材質 無印：SS400(H形鋼, 鋼板)
○印：SM490A(H形鋼, 鋼板)

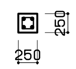
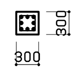
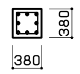
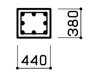
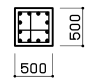
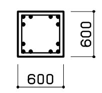
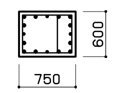
符号	B1		B2・B2a	B3	B4	B5
位置	端部	中央	全断面	全断面	全断面	全断面
断面	350	350 600	 150 300 150 600 300 300 600 継手要領 タイプ：C フランジ 4-M20@60(8-M20@60) SPL-9x200x290(SPL-9x300x440) SPL-12x80x290(2SPL-12x110x440) ウェブ 3-M20@60(3-M20@60) 2SPL-9x170x200(2PL-9x170x200)	 150 300 150 600 250 200 150 600 継手要領 タイプ：C フランジ 8-M20@60 SPL-12x200x410 2SPL-16x80x410 ウェブ 4-M20@60 SPL-9x140x290	 600 500	 900 800
鉄骨			H-294x200x 8x12 (H-300x300x 10x15)	WH-300x200 x 9x 16		
上端筋	6-D19	4-D19	3-D19	3-D19	6-D19	10-D19
下端筋	4-D19	4-D19	3-D19	3-D19	8-D19	10-D19
あばら筋	□-D10 @200		□-D13 @200	□-D13 @200	□-D13 @200	田-D13 @200
腹筋	2-D10		2-D13	2-D13	2-D13	2-D13
備考			( )内はB2aを示す。	腹筋は柱にL2定着とする。		

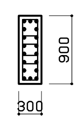
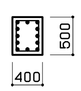
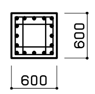
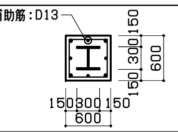
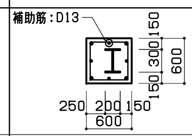
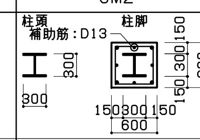
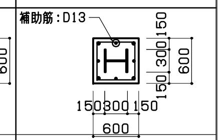
符号	B6	B7	
位置	全断面	端部	中央
断面	 400 500	 600	600 900
鉄骨			
上端筋	5-D19	12-D22	10-D22
下端筋	5-D19	10-D22	12-D22
あばら筋	□-D13 @200	□-D13 @200	
腹筋		4-D13	
備考			

間柱断面表

A1:1/50
A3:1/100

注記） 記入なき限り下記による。

符号	CM25	CM30	CM38	CM44	CM50	CM60	CM75
断面	 250 250	 300 300	 380 380	 380 440	 500 500	 600 600	 600 750
主筋	4-D19	8-D19	8-D19	8-D19	12-D19	12-D19	12-D19
帯筋	□-D10 @100	□-D10 @100	□-D10 @100	□-D10 @100	田-D10 @100	□-D13 @100	田-D13 @100
補助筋							4-D13
備考							

符号	CM30s	CM50A	CM60s	CM1	CM1A	CM2	CM2A
断面	 900 300	 500 400	 600 600	 補助筋：D13 150 300 150 600 150 300 150 600	 補助筋：D13 150 300 150 600 250 200 150 600	 柱頭 柱脚 補助筋：D13 300 300 150 300 150 600 150 300 150 600	 補助筋：D13 150 300 150 600 150 300 150 600
鉄骨				H-300x300x10x15	WH-300x200x9x16	H-300x300x10x15	H-300x300x10x15
主筋	18-D19	12-D19	16-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19
帯筋	目-D10 @100	□-D13 @100	田-D13 @100	□-D10 @100	□-D10 @100	□-D10 @100	□-D10 @100
補助筋				4-D13	4-D13	4-D13	4-D13
備考						柱頭は溶融亜鉛めっき部材とする。	

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	
		. .	

高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

構 （通し番号 48）
5 − 11

2026.06.30 検図者： 山本 裕

スラブ・耐圧版・壁・RC小梁断面表 A1=1/50 A3=1/100

No. J − 240623 − D

J240623D 623L-SWB-01.DWG 26/06/30 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

780×570

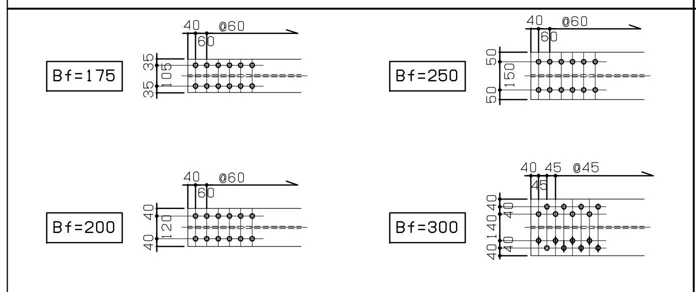
鉄骨部材断面表・継手表

注記） 記入なき限り下記による。
1. 鋼材材質　無印：SS400（H形鋼，鋼板）　□印：SN490B（H形鋼，鋼板）
○印：SM490A（H形鋼，鋼板）

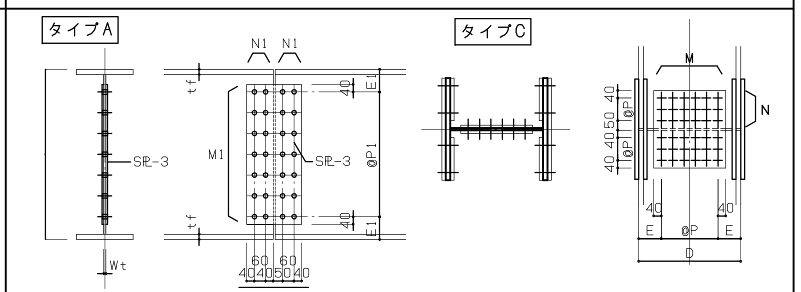
符号		部材断面	鉄骨材質	タイプ	ウェブ 高力ボルト	N	M	P	D	SPL-1	PL-a	フランジ 高力ボルト	P	SPL-2	SPL-3	PL-b	備考
15A	I	H-150x150x 7x10	SS400	A	4-M16	2	2	40	55		9						
				C	2-M20	2	1	60	75	2PL-9x290x 80	-	4-M20	60	PL-9x150x290	2PL-12x 60x290		
20A	I	H-200x200x 8x12	SS400	A	4-M20	2	2	60	70		12						
				C	2-M20	1	2	60	70	2PL-9x170x140	9	6-M20	60	PL-9x200x410	2PL-12x 80x410		
20B	I	H-194x150x 6x 9	SS400	B	2-M20	1	2	60	67	2PL-9x170x140	9						BPL-16x244x200 ABOLT4-M20 L=450mm
25D	I	WH-250x350x 9x19	SN400B	B	2-M20	1	2	60	95	2PL-9x170x140							
				C	2-M20	1	2	60	95	2PL-9x170x140		12-M20	40	PL-12x350x570	2PL-16x140x570		
30B	I	H-294x200x 8x12	SS400	A	6-M20	2	3	60	87		12						
40C	I	H-400x200x 8x13	SS400	A	6-M20	2	3	110	90		9						
45B	I	H-440x300x 11x18	SS400	B	5-M20	1	5	60	100	2PL-9x170x320	16						
				C	5-M20	1	5	60	100	2PL-9x170x320	16	10-M20	45	PL-12x300x530	2PL-16x110x530		
45C	I	H-450x200x 9x14	SS400	B	4-M20	1	4	80	105	2PL-12x170x320	9						
60C	I	H-600x200x 11x17	SS400	B	6-M20	1	6	80	100	2PL-9x170x480	12						BPL-22x650x250 ABOLT14-M24 L=600mm
CM15A	I	H-150x150x 7x10	SS400	F	3-M16	1	3	60	75	2PL-9x200x170	12	4-M16	60	PL- 9x150x290	2PL-12x 60x290		
				E	3-M16	1	3	60	75	2PL-9x 80x410	9						
CM30A	I	WH-300x300x 12x22	SN400B	F	6-M20	2	3	60	90	2PL-9x200x290	19	12-M20	45	PL-12x300x620	2PL-16x110x620		
15AZ	I	H-150x150x 7x10	SS400	A	4-M16	2	2	50	50		9						溶融亜鉛めっき F8T
20AZ	I	H-200x200x 8x12	SS400	A	4-M20	2	2	60	70		12						溶融亜鉛めっき F8T
				C	4-M20	2	2	60	70	2PL- 9x290x140	9	6-M20	60	PL-9x200x410	2PL- 9x 75x410		溶融亜鉛めっき F8T
20BZ	I	H-194x150x 6x 9	SS400	A	4-M20	2	2	60	67		9						溶融亜鉛めっき F8T
30AZ	I	H-300x300x 10x15	SS400	B	4-M20	2	2	110	95	2PL- 9x290x190	12						溶融亜鉛めっき F8T
				C	4-M20	2	2	110	95	2PL- 9x290x190		12-M20	45	PL-9x300x620	2PL-12x110x620		溶融亜鉛めっき F8T
30BZ	I	H-294x200x 8x12	SS400	B	4-M20	2	2	110	95	2PL- 9x290x190							溶融亜鉛めっき F8T
				C	4-M20	2	2	110	95	2PL- 9x290x190		6-M20	60	PL-9x200x410	2PL-12x 80x410		溶融亜鉛めっき F8T
30CZ	I	H-298x149x5.5x 8	SS400	B	3-M20	1	3	60	89	2PL- 9x170x260	9						溶融亜鉛めっき F8T
CM30BZ	I	H-294x200x 8x12	SS400	F	6-M20	2	3	60	87	2PL- 9x290x200	12	6-M20	60	PL-9x200x410	2PL-12x 80x410		溶融亜鉛めっき F8T
50BZ	I	H-500x300x 12x19	SS400	C	8-M22	2	4	100	100	2PL- 9x290x380		12-M22	45	PL-12x300x620	2PL-16x160x620		溶融亜鉛めっき F8T
35CZ	I	H-350x175x 7x11	SS400	B	4-M20	1	4	60	85	2PL- 9x290x260	9						溶融亜鉛めっき F8T
70DZ	I	WH-700x300x 12x32	SN400B	B	9-M22	1	9	60	110	2PL- 9x170x560	12						溶融亜鉛めっき F8T
				C	9-M22	1	9	60	110	2PL- 9x170x560		38-M22	45	PL-36x300x1790	2PL-40x110x1790		溶融亜鉛めっき F8T
G80D	I	WH-800x300x 16x32	SN400B	C	10-M22	1	10	60	130	2PL-12X170X620	16	14-M22	45	PL-19x300x710	2PL-22x110x710		
80E	I	WH-800x400x 16x32	SN400B	B	10-M22	2	5	100	200	2PL-16X290X480	22	20-M22	60	PL-19x400x650	2PL-22x170x650		
				C	10-M22	1	10	60	130	2PL-12X170X620	-	20-M22	60	PL-19x400x650	2PL-22x170x650		
P13	○	○-130.0x28	STKN400	—													
P19	○	○-190.7x40	STKN490	—													溶融亜鉛めっき F8T
CT15Z	T	CT-150x150x6.5x 9	SS400	H	6-M20	2	3	60			9						溶融亜鉛めっき F8T
L75Z	Γ	2L- 75x 75x 6	SS400	G	4-M20	4	1	60			9						溶融亜鉛めっき F8T

鉄骨大梁・柱継手表

フランジ面のボルト配列



ウェブ面のボルト配列



Bf	Ft	高力ボルト	SPL-1（外側）	SPL-2（内側）	SPL-L	備考
175	11	6-M16	PL-12x175	2PL-16x 70	410	
200	14	6-M20	PL- 9x200	2PL-12x 80	410	
	16	6-M20	PL- 9x200	2PL-12x 80	410	
	17	6-M20	PL- 9x200	2PL-12x 80	410	
	19	8-M20	PL-12x200	2PL-12x 80	530	
250	16	8-M20	PL-12x250	2PL-16x 90	530	
	19	8-M20	PL-12x250	2PL-16x 90	530	
	22	10-M20	PL-12x250	2PL-16x 90	650	
300	25	12-M22	PL-16x300	2PL-22x110	620	
	28	12-M22	PL-16x300	2PL-22x110	620	
	36	22-M22	PL-22x300	2PL-25x110	1070	

GH	Wt	継手タイプ	高力ボルト	N1xM1	P	E1	SPL-3	備考
244	7	C	4-M16	2 x 2	80	82	2PL- 9x 290x 160	
294	7	C	4-M16	2 x 2	60	92	2PL- 9x 270x 130	
250	16	F	6-M20	3 x 2	100	75	2PL- 9x 180x 410	
300	9	C	3-M20	1 x 3	60	90	2PL- 9x 170x 200	
450	9	C	4-M20	1 x 4	90	90	2PL- 9x 170x 350	
500	12	C	6-M20	1 x 6	60	50	2PL- 9x 170x 380	
600	11	C	6-M20	1 x 6	80	100	2PL- 9x 170x 480	
	22	C	12-M20	2 x 6	80	100	2PL-16x 290x 480	
650	12	C	8-M20	1 x 8	60	80	2PL- 9x 170x 500	
1300	12	C	15-M20	1 x 15	80	90	2PL- 9x 170x1200	
1400	22	F	40-M22	2 x 20	60	130	2PL-12x1220x 290	
1600	16	C	28-M22	2 x 14	140	170	2PL-12x 290x1380	

継手要領図

注記） 記入なき限り下記による。

1 継手に於ける基本事項

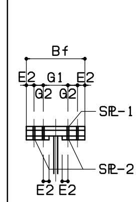
1. 継手表に示すﾎﾞﾙﾄ本数は，継手片側について示す。
2. 継手部の母材間ｸﾘｱﾗﾝｽは10mmとする。
3. 継手部に於いて，母材の板厚差が1mmを超える場合は，ﾌｨﾗｰﾌﾟﾚｰﾄにて板厚差を調整する。
4. 継手表に明記無き場合は，詳細図による。
5. 継手表と詳細図が異なる場合は，詳細図を優先する。
6. 継手部のｽﾌﾟﾗｲｽﾌﾟﾚｰﾄの鋼材品質は，母材の鋼材品質と同等とする。但し，ﾌｨﾗｰﾌﾟﾚｰﾄの品質はSS400とする。
7. 鋼材品質
　○印 ：SM490A（鋼板、形鋼）
　無印 ：SS400
　□印 ：SN490B（H形鋼、鋼板）

2 高力ボルトの標準規定

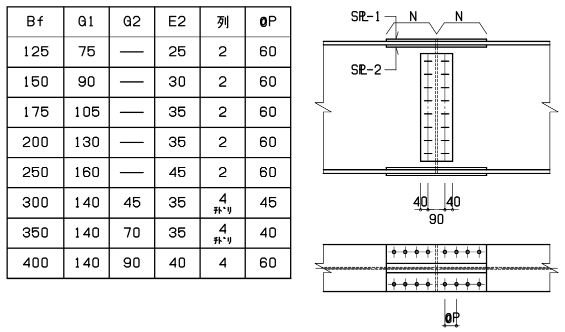
呼径	ピッチ:P1 標準	ピッチ:P1 最小	はしあき:E1 標準	はしあき:E1 *1	孔径
M22	60	55	40	55	24.0φ
M20	60	50	40	50	22.0φ
M16	60	40	35	40	18.0φ

（注記）記入なき限り下記による。
1. はしあき＊1印寸法については，加力方向にﾎﾞﾙﾄ配列が　2本以下の場合に適用する。
2. 高力ﾎﾞﾙﾄの品質は非めっき部でS10Tとし、めっき部ではF8Tとする。

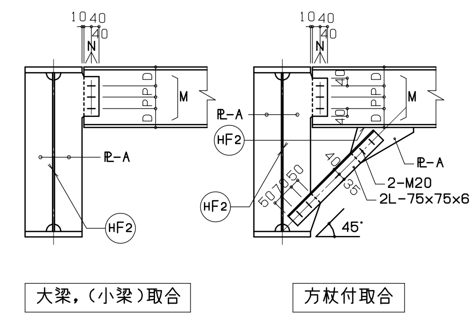
3 ﾌﾗﾝｼﾞ面のﾎﾞﾙﾄ配列



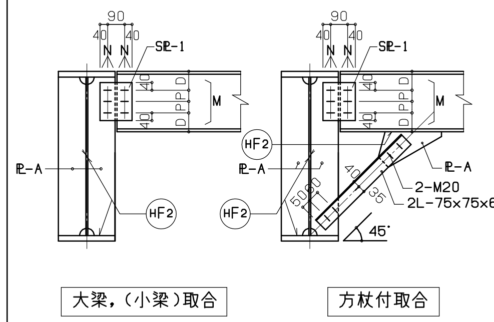
Bf	G1	G2	E2	列	@P
125	75	—	25	2	60
150	90	—	30	2	60
175	105	—	35	2	60
200	130	—	35	2	60
250	160	—	45	2	60
300	140	45	35	4 ﾁﾄﾞﾘ	45
350	140	70	35	4 ﾁﾄﾞﾘ	40
400	140	90	40	4	60



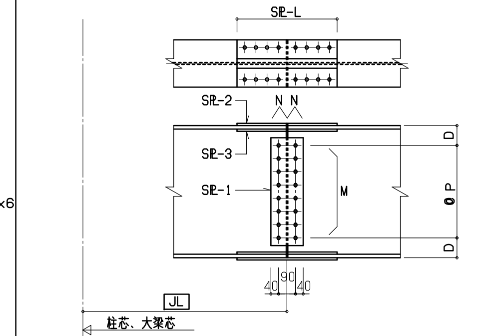
A 大梁，柱（小梁）取合



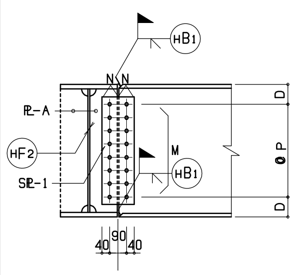
B 大梁，柱（小梁）取合



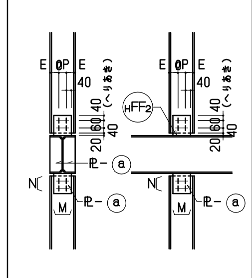
C 剛接合



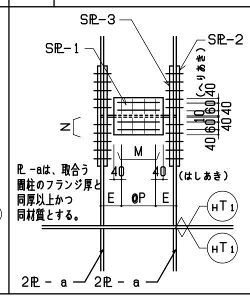
D 大梁，柱（小梁）取合



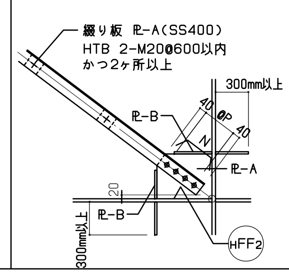
E 柱ピン接合



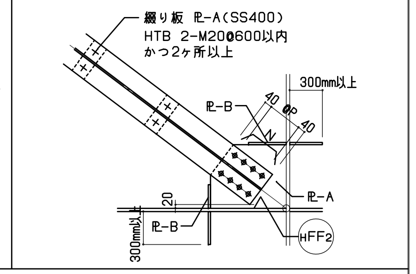
F 柱剛接合



G Lタイプ



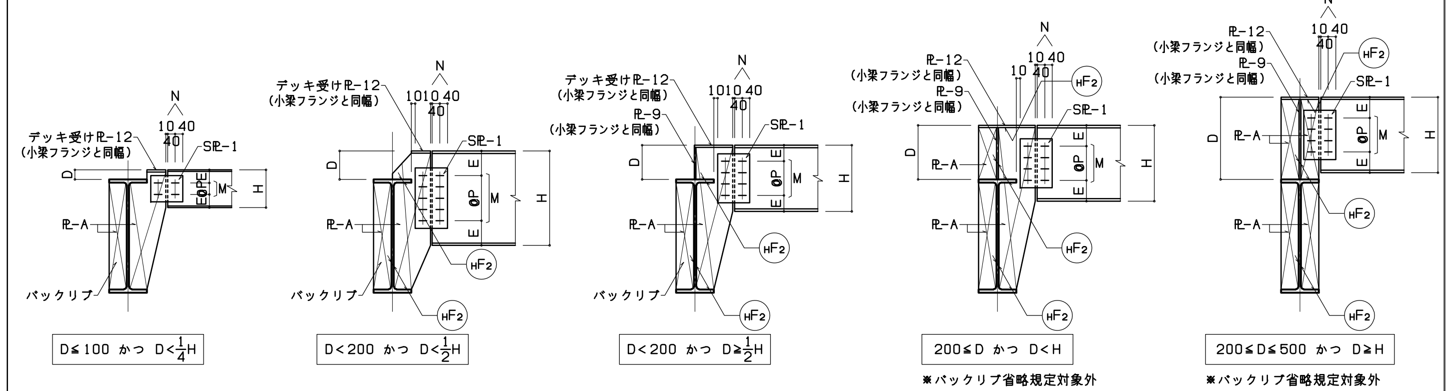
H CTタイプ



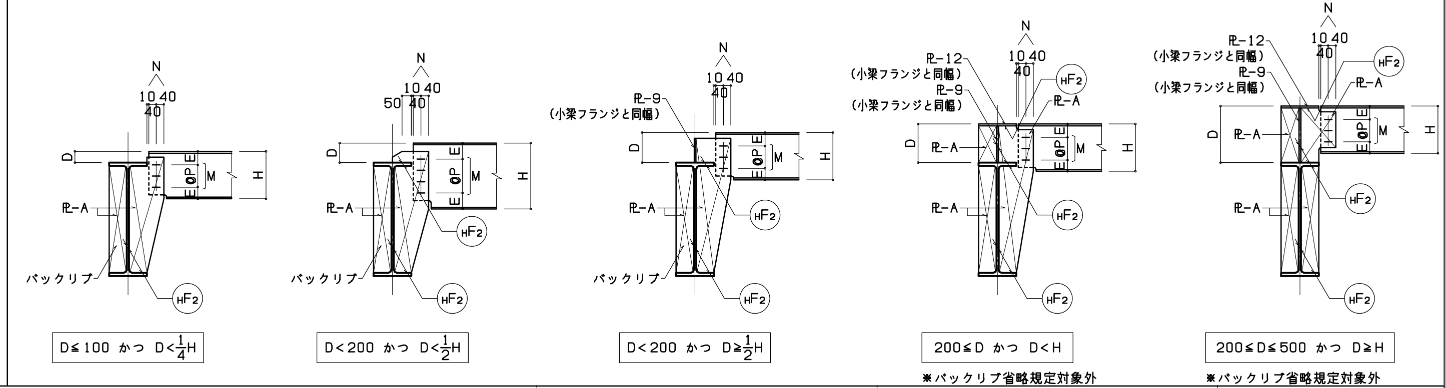
1 鉄骨梁の段差部接合要領図

注）1. バックリブの省略規定は別図による。
2. PL-**の材質はPL-Aと同材質とする。

ダブルシアの場合



シングルシアの場合



着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	
		. .	

高橋 央　一級建築士
小板橋 裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野 悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

構　（通し番号 49）
5 －12

2026. 06 . 30　検図者： 山本 裕

鉄骨部材断面表・継手表・鉄骨標準要領図(1)　A1=1/20　A3=1/40

No. J － 240623 － D

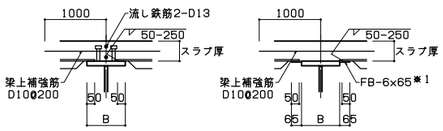
780×570

J240623D 623DSJ-01.DWG 26/05/20 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/20 A1YFPC

2 フラットデッキスラブ取付要領

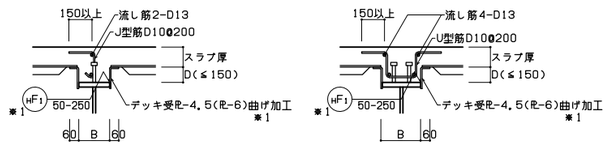
注）1.＊1を付したデッキ受プレートの板厚・材質並びにリブプレートの板厚・材質及びそれらの溶接については参考扱いとし、施工者にて決定し監理者の承認を得る。
2.水勾配等によりデッキプレートの折れ部直下に受け材が必要な場合は、施工者にて適切な部材を設ける。
3.梁上のスタッドについては「鉄骨梁スタッド取付要領」による。

1 一般部



梁端部及び継手部

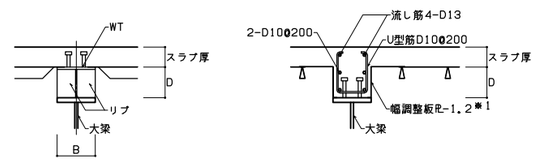
2，3 梁上端とスラブ下端の段差 D≦150



2 B≦200　　3 B>200

（注）（ ）内板厚は、100<D≦150の場合に用いる。

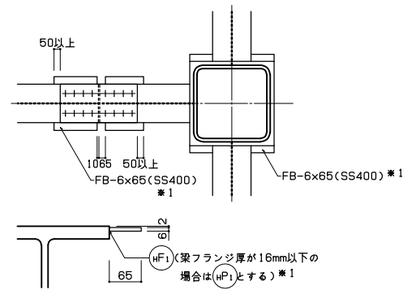
4，5 梁上端とスラブ下端の段差 150<D≦500



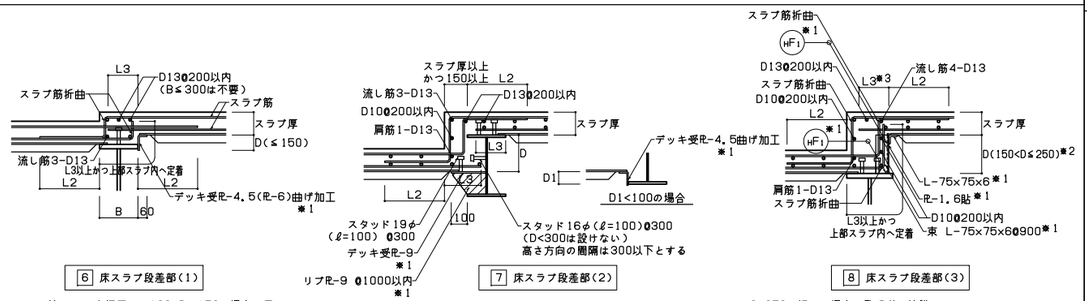
4 デッキ支持方向　　5 デッキ幅方向

・WT及びリブの仕様は「鉄骨梁のかさ上げ要領」による。

柱廻り及び梁継手部捨型枠デッキ受取付要領



6，7，8 スラブ段差部



6 床スラブ段差部(1)　　7 床スラブ段差部(2)　　8 床スラブ段差部(3)

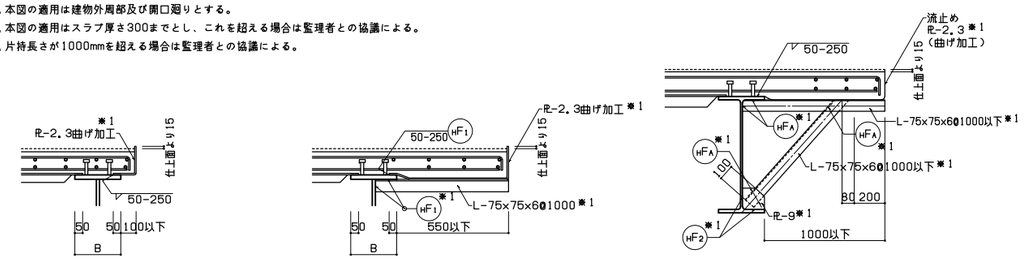
（注）（ ）内板厚は、100<D≦150の場合に用いる。

＊2 250を超える場合は監理者と協議による。
＊3 水平定着でL3確保出来ない場合は、曲げ下げしてL3確保する。

3 フラットデッキスラブコンクリート流れ止め及び片持部要領

注）1.＊1を付したデッキプレートの板厚・材質並びにアンゲル材の板厚・寸法等及びそれらの溶接については参考扱いとし、施工者にて決定し監理者の承認を得る。

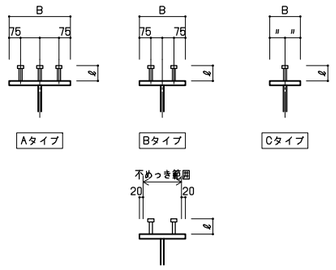
（注）1.本図の適用は建物外周部及び開口廻りとする。
2.本図の適用はスラブ厚さ300までとし、これを超える場合は監理者との協議による。
3.片持長さが1000mmを超える場合は監理者との協議による。



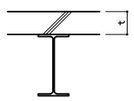
梁フランジ端面より床スラブの片持長さが100以下　　梁フランジ端面より床スラブの片持長さが550以下　　梁フランジ端面より床スラブの片持長さが1000以下

4 鉄骨梁スタッド取付要領

注）1.本図は横補剛なし構法を採用した大梁には適用しない。横補剛なし構法を採用した梁へのスタット打ちは別図による。



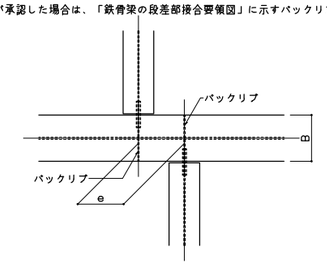
梁	タイプ	梁フランジ幅(B)	スタッド径	スタッドピッチP	スタッド長さ(ℓ)
大梁	A	B ≧ 400	19φ	200	160≧t　ℓ=(＊100・　)
	B	400>B≧250	19φ	200	
	C	B < 250	19φ	200	160<t　ℓ=(＊130・　)
小梁	A	B ≧ 400	19φ	300	160≧t　ℓ=(＊100・　)
	B	400>B≧250	19φ	300	
	C	B < 250	19φ	300	160<t　ℓ=(＊130・　)



（注）1.使用スタッドはJISB1198（頭付スタッド）に規定するものとする。
2.スタッドの取付範囲は鉄骨梁で床スラブが取付く梁とする。
3.溶融亜鉛めっき部材でスタッド現場打ちの場合、上フランジ面の端から20mm内側を不めっき処理すること。

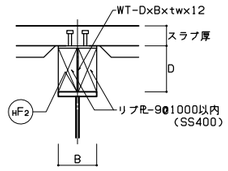
5 バックリブの省略規定

（注）1.横補剛材が取合う部位には、本規定は適用しない。
2.梁端ウェブ補剛工法の適用部位には本規定は適用しない。
3.下図に示すバックリブとガセットプレートの内法寸法eが150以下かつ(B/2)以下で監理者が承認した場合は、「鉄骨梁の段差部接合要領図」に示すバックリブを省略出来る。



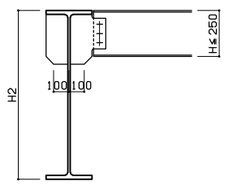
6 鉄骨梁のかさ上げ要領

（注）1.鉄骨梁天とスラブ下端のレベル差Dが150<D≦500の場合に本図を適用する。Dが150以下の場合はフラットデッキ取付要領による。
2.WTの鋼材材質は母材と同材質とする。
3.twは特記なき限り大梁の場合はウェブ板厚と同厚、小梁の場合はPL-9とする。
4.かさ上げ材に設けるスタッド配置は母材のそれと同等とし、別図「鉄骨梁スタッド取付要領」による。



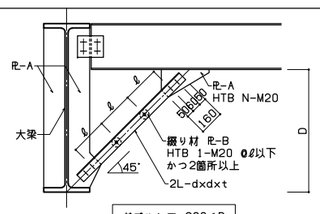
7 ガセットプレートせいの短縮規定

（注）1.「鉄骨梁の段差部接合要領図」に示すガセットプレートについて以下を全て満足する場合は、監理者の承認のうえで下図を適用することが出来る。
・横補剛材が取合う部位には本規定は適用しない。
・梁端ウェブ補剛工法の適用部位には本規定は適用しない。
・H2が1000を超える。
・小梁が大梁せい内に納まる。
・Hが250以下。

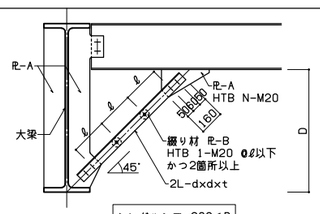


8 大梁横補剛要領

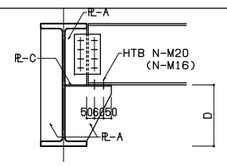
（注）1.梁伏図で ═══ 印のある箇所に以下要領を適用する。
2.横補剛材取合部においては、バックリブの省略規定対象外とする。
3.山形鋼(アングル)断面及びボルト本数N、綴り材間隔ℓは表による。
4.D<300の場合のボルト本数Nは下表による。
5.PL-Bは材厚をPL-Aと同厚とし、材質はSS400とする。
6.PL-Cは材厚を12mmとし、材質はPL-Aと同材質とする。



ダブルシア 300≦D



シングルシア 300≦D



D<300かつ小梁フランジ幅≧150

（ ）内は小梁フランジ幅が150の場合とする。
小梁フランジ幅が150未満の場合は本図は適用しない。
継手表においてシングルシアの場合はシングルシアとする。

300≦Dの場合のアングル断面表
特記なき限り＊による。○印が有る場合は○印による。

	アングル断面	ボルト本数(N)	綴り材間隔ℓ (mm)	備考
＊	L-75x75x6(SS400)	2	600以下	D>600について綴材を設ける
・				

D<300の場合のボルト本数表
特記なき限り＊による。○印が有る場合は○印による。

	ボルト本数(N)	備考
＊	4	
・		

着工	・・	・・	
竣工	・・	・・	
監理		・・	
		・・	
施工		・・	
		・・	

高橋 央　一級建築士
小板橋 裕一　一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野 悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生 悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

鉄骨標準要領図(2)　A1=1/20 A3=1/40

構　（通し番号 50）
5 － 13

No. J－240623－D

J240623D 623DSJ-02.DWG 26/05/19 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/20 A1YFPC
＊24.08.31 金属研標準要領図編集委員会 作成

標準配筋要領図（1）

注）1．図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2．図中の㊫は本標準配筋要領図を示す。（例えば㊫0．3「組立」は、標準配筋要領図0．3「組立」の項を示す。）
3．図中の㊕は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、㊕表5．3．2は、標準仕様書の表5．3．2を示す）

0節　鉄筋の加工及び組立

0．1　一般事項

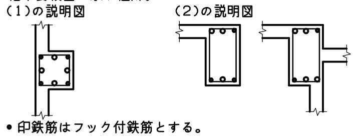
（a）鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
（b）有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
（c）コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
（d）鉄筋には、点付け溶接を行わない。また、アークストライクを起こしてはならない。
（e）本要領図の適用範囲は、表0．1による。

表0．1　適用範囲

1．コンクリート	普通 Fc=18N/mm² 以上60N/mm² 以下 軽量 Fc=18N/mm² 以上36N/mm² 以下 SD390の鉄筋を使用する場合はFc=21N/mm² 以上 SD490の鉄筋を使用する場合はFc=24N/mm² 以上 SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートを用いない。	
2．鉄筋	規格番号	JIS G 3112
	規格名称	鉄筋コンクリート用棒鋼
	種類の記号	SD295，SD345，SD390，SD490
	異形鉄筋はD41以下とする。	
3．溶接金網及び鉄筋格子	溶接金網及び鉄筋格子は、JIS G 3551（溶接金網及び鉄筋格子）に適合するものを使用する。	

0．2　加工

（a）鉄筋の切断は、シャーカッター又はのこ等によって行う。
ただし、現場でやむを得ない場合は、ガス切断とすることができる。
（b）異形鉄筋の末端部には、次の場合にフックを付ける。（下図参照）
（1）柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合。
（2）梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合。
ただし、基礎梁を除く。
（3）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む。）
（4）杭基礎のベース筋。ただし、㊫ 1．1により上端筋とL2重ねる場合は不要とする。
（5）帯筋、あばら筋及び幅止め筋。
（6）その他本要領図に示す個所。



（注）•印鉄筋はフック付鉄筋とする。
図0．1　異形鉄筋のフック位置

（c）鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用個所は、表0．2による。

表0．2　鉄筋の折曲げ形状及び寸法
（㊕表5．3．1）

端部フックの折曲げ角度	折曲げ図	鉄筋の種類 / 呼び名	SD295，SD345 D16以下	SD295，SD345 D19～D41	SD390 D41以下	SD490 D41以下
180°	4d以上		3d以上	4d以上	5d以上	*1
135°	6d以上		3d以上	4d以上	5d以上	*1
90°	8d以上		3d以上	4d以上	5d以上	D25以下：5d以上 D29～D41：6d以上
135° 及び 90°（幅止め筋）	4d以上 / 4d以上		3d以上	4d以上	5d以上	

中間部での折曲げ角度	折曲げ図	鉄筋の種類	D16以下	D19～D25	D29～D41
90° 以下		SD295，SD345	4d以上	6d以上	8d以上
		SD390，SD490	5d以上	6d以上	8d以上

（注）1．片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2．SD490の鉄筋を90° を超える角度で折り曲げ加工する場合（*1）は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障ないことを確認したうえで監理者の承認を得る。

0．3　組立

（a）鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0．8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にバーサポート・スペーサー・吊金物等を使用して行う。
なお、バーサポート・スペーサーは、転倒及び作業荷重等に耐えられるものとする。
材質は設計図により、コンクリートに有害な影響を与えないものとする。

表0．3　バーサポート・スペーサーの標準配置要領

部位	スラブ	梁・基礎梁	柱
種類	鋼製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
配置	間隔は上端筋の下側及び下端筋の下側の全数を支えるように1200以内 端部は100以内	間隔は1500程度 端部は500程度以内	上端は第一段目の帯筋の位置 中間の間隔は1500以内 柱幅D≦1000 2個以上 柱幅D＞1000 3個以上
備考	連続バーサポート	上又は下と側面に設置	

部位	基礎・基礎スラブ 厚さ300以上の床スラブ	壁・地下外壁
種類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
配置	上端筋、下端筋それぞれに1．5個／m² 以内。スラブ厚300以上には上下連結筋（スラブ筋と同径，D16以上の時はD16）を1ケ所／m²に入れる。	上端、側端は第一段目の壁筋 中間の間隔は縦、横共1500以内
備考	上下筋を連結筋で結束している場合は上端筋のサポート不要	
注記	1．バーサポート、スペーサーは打込まれるコンクリートと同等以上の剛性、強度、耐久性を有すること。 2．梁、柱、基礎梁の各側面及び壁、地下外壁のスペーサーはプラスチック製でも可。 3．鋼製のバーサポート、スペーサーは最小かぶり厚さの範囲に防錆処理を施したものとする。 4．上記数量・間隔・種類は表0．8のかぶりを確保するための標準を示すものである。同等の性能が確保できる方法で監理者の承認を得た場合は、上記以外の方法とすることができる。	

・組立に関する注意事項
1）コンクリート打込み後の差し筋は行わない。
2）鉄筋の台直しは原則として行わない。やむを得ず台直しを行う場合は、鉄筋周囲のコンクリートをはつり取り、勾配が1/6以下のできるだけ長い距離で修正する。
・捨コンクリートの上に直接設置する仮設金物には、防錆処置を施すと共に、当該金物の下には止水処理を施す。
・最小かぶり厚さの範囲内に設ける段取り筋については、防錆処置を行う。

0．4　継手及び定着

（a）鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧接継手または特殊な鉄筋継手とし、適用は特記による。
（b）製造者の異なる鉄筋、形状が著しく異なる場合及び鉄筋径の差が5mmを超える場合は、原則としてガス圧接としない。配筋状況などから重ね継手とできず、やむを得ずガス圧接とする場合は、圧接性の試験を行う。
（c）鉄筋重ね継手は、次による。なお、径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（1）柱、梁の主筋の重ね継手長さは、表0．4による。
*欄に記入なき場合は、その他の鉄筋の重ね継手長さによる．
（2）（1）以外の鉄筋（耐力壁の鉄筋を含む）の重ね継手長さは、表0．4による。
（3）隣り合う継手の位置は、表0．5による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一個所に設ける場合は、特記による。

表0．4　鉄筋の重ね継手の長さ
（㊕表5．3．2）

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	L1（フックなし）* 柱、梁の主筋の重ね継手長さ	L1（フックなし）その他の鉄筋（耐力壁の鉄筋を含む）の重ね継手長さ	L1h（フックあり）* 柱、梁の主筋の重ね継手長さ	L1h（フックあり）その他の鉄筋（耐力壁の鉄筋を含む）の重ね継手長さ
SD295	18	（　）d	45d	（　）d	35d
	21	（　）d	40d	（　）d	30d
	24，27	（　）d	35d	（　）d	25d
	30～36	（　）d	35d	（　）d	25d
	39～45	（　）d	30d	（　）d	20d
	48～60	（　）d	30d	（　）d	20d
SD345	18	（　）d	50d	（　）d	35d
	21	（　）d	45d	（　）d	30d
	24，27	（　）d	40d	（　）d	30d
	30～36	（　）d	35d	（　）d	25d
	39～45	（　）d	35d	（　）d	25d
	48～60	（　）d	30d	（　）d	20d
SD390	21	（　）d	50d	（　）d	35d
	24，27	（　）d	45d	（　）d	35d
	30～36	（　）d	40d	（　）d	30d
	39～45	（　）d	40d	（　）d	30d
	48～60	（　）d	35d	（　）d	25d
SD490	24，27	（　）d	55d	（　）d	40d
	30～36	（　）d	50d	（　）d	35d
	39～45	（　）d	45d	（　）d	35d
	48～60	（　）d	40d	（　）d	30d

（注）1．主筋とは 柱、梁の主筋を示す。
2．L1，L1h：重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
3．フックありの場合のL1hは、図0．2に示すようにフック部分ℓを含まない。
4．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えた継手の長さとする。
なお、鉄筋の下に300mm以上の軽量コンクリートを打ち込む部材の上端部の重ね継手はフック付きとする。

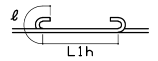


図0．2　フックありの場合の重ね継手の長さ
（㊕図5．3．1）

表0．5　隣り合う継手の位置
（㊕表5．3．3）

継手の種類		図
重ね継手	フックありの場合	L1h、a、a=0．5L1h ／ L1h a L1h、a≧0．5L1h
重ね継手	フックなしの場合	L1、a、a=0．5L1 ／ L1 a L1、a≧0．5L1
あき重ね継手		L1の0．2倍かつ150以下、L1 適用にあたっては監理者の承認を得る。
圧接継手		圧接継手、a、a≧400mm
溶接継手		片面の場合：d、≧10d+4d、≧2d ≧10d ≧2d、d/2 d/2、d d 両面の場合：d、≧5d+4d、≧2d ≧5d ≧2d、d/2 d/2、d d、d/2 d/2
機械式継手		カップラー、b、a、a≧400mm、かつ、a≧（b+40）mm

（注）A級継手の認定を取得している機械式継手を使用する場合は、全数継手としてよい。ただし、適用箇所は設計図による。

（d）鉄筋の定着は、次による。
（1）鉄筋の定着の長さは、表0．6による。

表0．6　鉄筋の定着の長さ
（㊕表5．3．4）

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	直線定着の長さ L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	フックありの定着の長さ L1h	L2h	L3h 小梁	L3h スラブ
SD295	18	45d	40d	20d <25d>	10d かつ 150mm以上 <25d>	35d	30d	10d	—
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30～36	35d	30d			25d	20d		
	39～45	30d	25d			20d	15d		
	48～60	30d	25d			20d	15d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30～36	35d	30d			25d	20d		
	39～45	35d	30d			25d	20d		
	48～60	30d	25d			20d	15d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30～36	40d	35d			30d	25d		
	39～45	40d	35d			30d	25d		
	48～60	35d	30d			25d	20d		
SD490	24，27	55d	45d			40d	35d		
	30～36	50d	40d			35d	30d		
	39～45	45d	40d			35d	30d		
	48～60	40d	35d			30d	25d		

（注）1．L1，L1h：2．から4．まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ。
2．L2，L2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ。
3．L3 ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。なお、片持小梁、片持スラブ及び片持スラブ形階段の場合は、< >内の定着の長さとする。
4．L3h：小梁の下端筋のフックありの定着の長さ。
5．フックありの定着の場合は、図0．3に示すようにフック部分ℓを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6．軽量コンクリート場合は、表の値に5dを加えたものとする。

（2）定着の方法は、図0．3、図0．4による。
なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表0．6のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表0．6に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表0．7に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、上端筋の場合柱せいの4/5倍以上、下端筋の場合柱せいの3/4倍以上）をのみ込ませる。

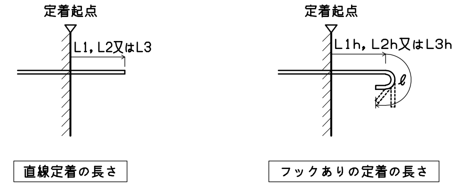
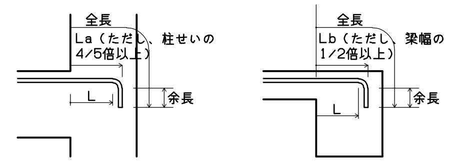


図0．3　直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
（㊕図5．3．2）



※0．4（d）の長さを全長で確保する。

梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ　　小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

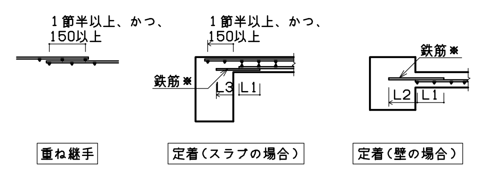
図0．4　折曲げ定着の方法
（㊕図5．3．3）

表0．7　投影定着長さ
（㊕表5．3．5）

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc(N/mm²)	La	Lb
SD295	18	※20d（　）	※15d（　）
	21	※15d（　）	※15d（　）
	24，27	※15d（　）	※15d（　）
	30～36	※15d（　）	※15d（　）
	39～45	※15d（　）	※15d（　）
	48～60	※15d（　）	※15d（　）
SD345	18	※20d（　）	※20d（　）
	21	※20d（　）	※20d（　）
	24，27	※20d（　）	※15d（　）
	30～36	※15d（　）	※15d（　）
	39～45	※15d（　）	※15d（　）
	48～60	※15d（　）	※15d（　）
SD390	21	※20d（　）	※20d（　）
	24，27	※20d（　）	※20d（　）
	30～36	※20d（　）	※15d（　）
	39～45	※15d（　）	※15d（　）
	48～60	※15d（　）	※15d（　）
SD490	24，27	※25d（　）	—
	30～36	※25d（　）	—
	39～45	※20d（　）	—
	48～60	※20d（　）	—

（注）1．La：梁主筋の柱内曲げ定着の投影定着長さ
（基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。）
2．Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
（片持小梁及び片持スラブを除く。）
3．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
4．（　）内に記入なき場合は、※の値による。

（e）その他の鉄筋の継手及び定着は、次による。
（1）溶接金網の継手及び定着は、図0．5による。なお、L1は表0．4に、L2及びL3は表0．6による。



※鉄筋径はD10とし、間隔は溶接金網と同間隔とする。

図0．5　溶接金網の継手及び定着
（㊕図5．3．4）

（2）スパイラル筋の継手及び定着は、図0．6による。

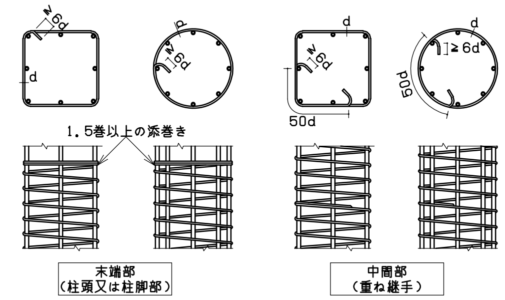


図0．6　スパイラル筋の継手及び定着
（㊕図5．3．5）

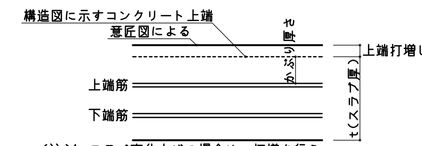
0．5　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ及び設計用かぶり厚さは、表0．8による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合の主筋のかぶり厚さは（g）による。

表0．8　鉄筋の最小かぶり厚さ及び設計用かぶり厚さ

構造部分の種別				最小かぶり厚さ	設計用かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ	仕上げあり		20	⊙25 ・30
		仕上げなし		30	⊙35 ・40
	柱 梁 壁	屋内	仕上げあり	30	40
			仕上げなし	30	40
		屋外	仕上げあり	30	40
			仕上げなし	40	50
	擁壁、耐圧スラブ			40	50
土に接する部分	スラブ			*40	⊙45 ・50
	柱、梁、壁			*40	50
	基礎、擁壁、耐圧スラブ			*60	70
煙突等高熱を受ける部分				60	70

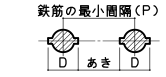
（注）1．上表のうち、スラブの設計用かぶり厚さについては、○印で示す値を適用する。
2．*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、10mmを加えた数値とし、打増により確保する。
3．「仕上げあり」とは、外壁の屋外に面する部位にタイル貼り、モルタル塗り、外断熱工法による仕上げ、その他これらと耐久性において同等以上の性能を有する処理を示す。
4．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
5．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭上端からとする。
6．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記仕様書による。
7．ひび割れ誘発目地等については最小かぶり厚さを満足させる。
8．スラブ直仕上げの場合は図0．7による。



（注）1．スラブ直仕上げの場合は、打増を行う。
2．打増寸法は意匠図による。

図0．7　鉄筋のかぶり厚さ（スラブ直仕上げの場合）

（b）鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、設計用かぶり厚さによる。
（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（d）鉄筋相互のあきは、図0．8により、次の値のうち最大のもの以上とする。
ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、設計図による。（表0．9参照）
（1）粗骨材の最大寸法の1．25倍。
（2）25mm
（3）隣り合う鉄筋の平均径の1．5倍。



Dは、鉄筋の最大外径

図0．8　鉄筋相互のあき

表0．9　鉄筋の最小間隔

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
P(mm)	42*	45*	49*	52*	58	66	77	84	93	100	108

*印は粗骨材最大寸法25mmの場合

着工	. .	. .
竣工	. .	. .
監理		. .
		. .
施工		. .
		. .

本標準配筋要領図に使用される記号

記号	内容	記号	内容	記号	内容	記号	内容
B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E，F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx，ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h，L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ				

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生　悟

日建設計

2026．06．30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

標準配筋要領図（1）

㊮（通し番号 51）
6 － 1

No. J－240623－D

J240623D 623SDR-01．DWG 25/11/05 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1（統一ルール）1/1 A1YFPC

'25．05．21 RC・PC研究会 作成

780×570

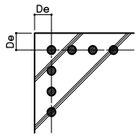
標準配筋要領図（2）

注）1．図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2．図中の（要）は本標準配筋要領図を示す。（例えば（要）0．3「組立」は、標準配筋要領図0．3「組立」の項を示す。）
3．図中の（標）は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、（標）表5．3．2は、標準仕様書の表5．3．2を示す）

0節　鉄筋の加工及び組立

0．5　鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

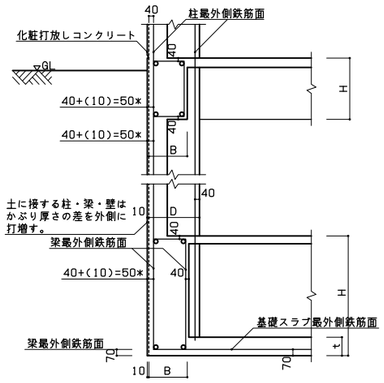
（e）SRC造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、（d）による。
（f）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、（c）による。
（g）柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋の最小かぶり厚さを径の呼び名の数値の1．5倍として定める。この場合の構造体面から主筋中心までの距離は、図0．9による。本図及び最外鉄筋（帯筋・あばら筋など）に対する最小かぶり厚さから決まる値のいずれか大きい方に対し、10mmを加えた値を設計用の主筋位置とする。

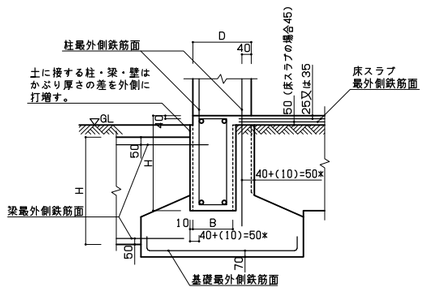


呼び径＼部位	De 最小値
D29	60
D32	67
D35	73
D38	79
D41	85

図0．9　太径鉄筋の最小かぶり厚さを満足する鉄筋中心～構造体面の距離

（h）標準的な設計用かぶり厚さを図0．10に示す。





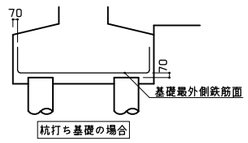


図0．10　標準的な設計用かぶり厚さ

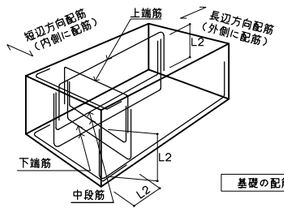
0．6　鉄筋の保護

（a）鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡し、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
（b）コンクリート打込みによる鉄筋の乱れは、なるべく少なくする。特に、かぶり厚さ、上端筋の位置及び間隔の保持に努める。

1節　杭・基礎及び基礎梁の配筋

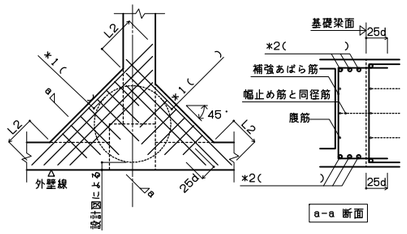
1．1　杭基礎

杭、杭基礎の配筋及び杭頭部の補強要領は、次による。
（1）既製コンクリート杭の杭頭部の補強要領は、設計図による。
（2）基礎の配筋は下記による。



1．1．1　場所打ちコンクリート杭

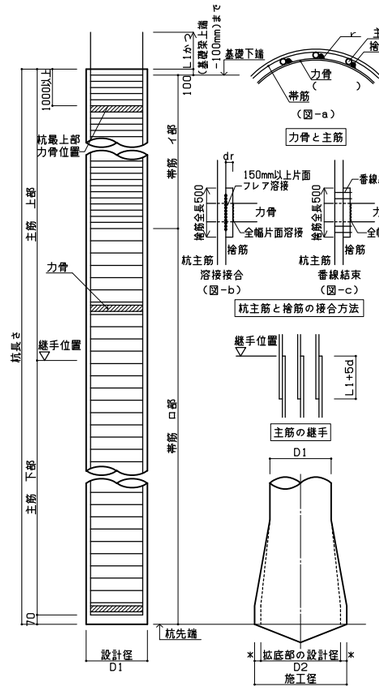
（4）場所打ちコンクリート杭がある場合の基礎梁水平ハンチ部の補強要領は図1．4による。



（注）1．この項で扱う基礎梁の水平ハンチとは場所打ちコンクリート杭がある場合で基礎梁断面表に記入がなく伏図にのみ示される水平ハンチをいう。
2．水平ハンチ部の腹筋及び補強あばら筋はX・Y方向基礎梁の規定鉄筋の大きい方と同径・同間隔とする。
3．*1印寸法は、記入がなければ250とする。
4．*2印鉄筋は、記入がなければD19 @200とする。

図1．4　場所打ちコンクリート杭がある場合の基礎梁水平ハンチ部の補強要領

（5）場所打ちコンクリート杭及び杭頭部の配筋要領は、図1．5による。

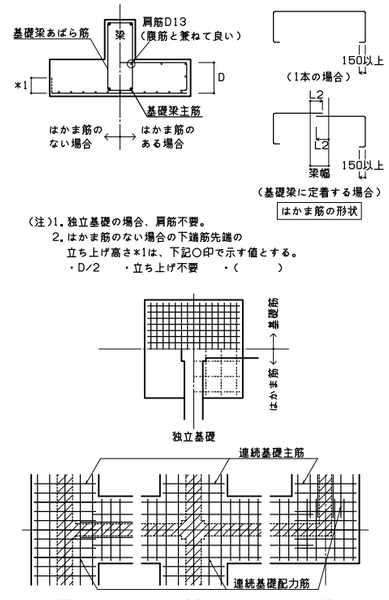


（注）1．帯筋の継手は溶接継手とし、溶接個所が上下で同一個所とならないようにする。溶接長は（要）0．4［継手及び定着］による。
2．杭頭の余盛は（　　）とする。記入がなければ無水掘りの場合は500、それ以外は800とする。
3．主筋と帯筋は、溶接しない。主筋と帯筋の交差部は径0．8以上の鉄線で結束し、内側に折り曲げる。
4．*印寸法（施工径）は、採用する工法により指定性能評価機関の評定書に基づき決定する。
5．力骨は（　　）とする。記入がなければ、形状維持ができ、建て方時の安全性を確保できる力骨を受注者が選定する。
6．主筋上部長さ、及び、帯筋イ部長さは杭断面表による。
記入がなければ主筋上部長さ・帯筋イ部長さ共5D1とする。
7．力骨、スペーサーは、杭主筋に直接溶接をしない。
スペーサーを溶接して取付ける場合は、力骨や捨筋（D16程度）に溶接する。
8．杭最上部力骨の位置は、設計杭上端レベルより1000以深を厳守する。
9．力骨と杭主筋は、図-aのように杭主筋と同数の捨筋（鉄筋径は杭主筋径の1サイズダウン）を介して接合する。
①杭最上部力骨及び各鉄筋かごユニットの最上部力骨においては、杭主筋と捨筋の接合は仮受け部・吊り込み部近傍については溶接接合（図-b）とし、その他の主筋については番線結束（図-c）とする。溶接接合と番線結束のそれぞれの本数は各々主筋本数の50%ずつとするが、施工条件により監理者と協議して定める。
②上記以外の力骨における杭主筋と捨筋の接合は全て番線結束とする。
10．杭主筋と捨筋の溶接、帯筋の溶接、力骨と捨筋の溶接においては下記を厳守する。
①気温が0℃以下の場合、原則として溶接を行ってはならない。
②鉄表面の水分，汚れ等溶接作業に支障となるものは、溶接前に完全に除去する。
③風が強い場合は、防風対策を施し、溶接部近傍で風速を10m/s以下（CO_2の場合2m/s以下）とする。
④手溶接の溶接棒は低水素系溶接棒（最大径5mmφ以下）を用い、溶接棒はつねに低湿度の場所に保管し、乾燥設備により乾燥させる。
⑤溶接技能者は、下記の技術者又は同等の技量を有する者とする。
（1）手溶接の場合には JIS Z 3801 によるA-2P・N-2P・A-2H・A-3H・N-2H・N-3Hのいずれかの有資格者。
（2）半自動溶接を使用する場合は JIS Z 3841 によるSA-2P・SN-2P・SA-2H・SA-3H・SN-2H・SN-3Hのいずれかの有資格者。
11．組立てた鉄筋には、孔周壁と鉄筋の間隔を保つために必要なスペーサーを付ける。スペーサーは、ケーシングチューブを用いる場合は13φ以上の鉄筋とし、ケーシングチューブを用いない場合で、杭径1．2m以下の場合は鋼板6．0×38、1．2mを超える場合は鋼板6．0×50程度のものとする。
12．鉄筋かごを無溶接工法とする場合は、「場所打ちコンクリート杭の鉄筋かご無溶接工法設計・施工に関するガイドライン」（（社）日本基礎建設協会）（最新版）による他、上記の1～4、6、及び、下記の13、14による。
13．補強リングと金物により主筋を固定する。補強リングと金物は、前述のガイドライン及び各メーカーの金物耐力を参考に、形状維持ができ、建て方時の安全性を確保できるものを受注者が選定する。
14．フック付きのスペーサーを使用することを原則とし、スペーサーの取り付け位置等の詳細は無溶接ガイドラインによる。また、金物のかぶりに留意する。

図1．5　場所打ちコンクリート杭の配筋要領

1．2　直接基礎

直接基礎（独立基礎，連続基礎）の場合の配筋要領は、図1．6による。

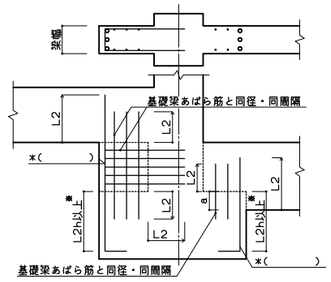


（注）1．独立基礎の場合、肩筋不要。
2．はかま筋のない場合の下端筋先端の立ち上げ高さ*1は、下記○印で示す値とする。
・D/2　・立ち上げ不要　・（　　）

図1．6　直接基礎の配筋要領

1．3　基礎接合部の補強

基礎梁と基礎の接合部の補強要領は、設計図による。
直接基礎で、設計図に記載のない場合は、図1．7による。



（注）1．*印鉄筋は記入がなければD16 @200とする。
2．スパン中間に基礎を設けた場合も上図による。
3．a：300未満の場合に*印鉄筋を入れる。
＊ L2hを確保できない場合は、（要）0．4(d)(2)によることができる。

図1．7　基礎接合部の補強配筋

1．4　基礎梁

（a）一般事項
（1）上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる。
（2）梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図1．8による。
（3）梁筋を柱内に定着する場合は、梁筋は図1．9、図1．10、図1．11に従い定着する。
（4）次項（b）、（c）、（d）の適用は、（　　）とする。記入がなければ監理者と協議の上決定する。
（5）上記の適用が（b）または（c）の場合の、下端1段筋曲げ上げ余長*1は、下記○印で示す値とする。
・8d　・L2　・（　　）

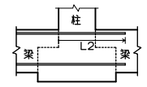
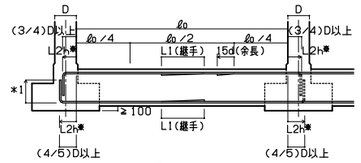


図1．8　梁筋の基礎梁内への定着

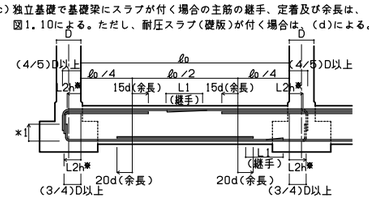
（b）独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1．9による。



（注）1．図示のない事項は、（要）3．1による。
2．═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．柱せいDが小さい場合において上図の（4/5）D以上又は（3/4）D以上が満足できないときは、柱の中心軸を超えてから縦に定着する。
＊ L2hを確保できない場合は、（要）0．4(d)(2)によることができる。

図1．9　主筋の継手、定着及び余長（その1）

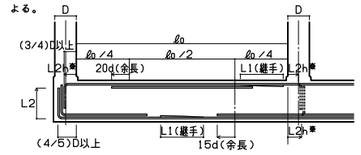
（c）独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1．10による。ただし、耐圧スラブ（礎版）が付く場合は（d）による。



（注）1．図示のない事項は、（要）3．1による。
2．═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．柱せいDが小さい場合において上図の（4/5）D以上又は（3/4）D以上が満足できないときは、柱の中心軸を超えてから縦に定着する。
＊ L2hを確保できない場合は、（要）0．4(d)(2)によることができる。

図1．10　主筋の継手、定着及び余長（その2）

（d）連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図1．11による。



（注）1．図示のない事項は、（要）3．1による。
2．═══ 印は、継手及び余長位置を示す。
3．破線は、柱内定着の場合を示す。
4．柱せいDが小さい場合において上図の（4/5）D以上又は（3/4）D以上が満足できないときは、柱の中心軸を超えてから縦に定着する。
5．基礎梁下端と基礎下端が同じ場合の鉄筋の定着は、本要領に倣う。
＊ L2hを確保できない場合は、（要）0．4(d)(2)によることができる。

図1．11　主筋の継手、定着及び余長（その3）

着工			
竣工			
監理			
施工			

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	壁厚・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン		
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン		
E，F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx，ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン		
H	リストに示す梁せい	L2h，L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ		
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ						

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026．06．30　　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

標準配筋要領図（2）

（構）（通し番号　52）
6 － 2

No. J－240623－D

標準配筋要領図（3）

注）1．図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2．図中の（要）は本標準配筋要領図を示す。（例えば（要）0．3「組立」は、標準配筋要領図0．3「組立」の項を示す。）
3．図中の（標）は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、（標）表5．3．2は、標準仕様書の表5．3．2を示す）

1節　杭・基礎及び基礎梁の配筋

1．4　基礎梁

（e）基礎小梁及び片持基礎梁の主筋の定着は図1．12による。
主筋の継手及び余長は（b）~（d）により、適用は（　　）とする。記入がなければ監理者と協議の上決定する。
片持基礎梁及び片持基礎小梁には継手を設けない。
※ L2hを確保できない場合は、（要）0．4(d)(2)によることができる。

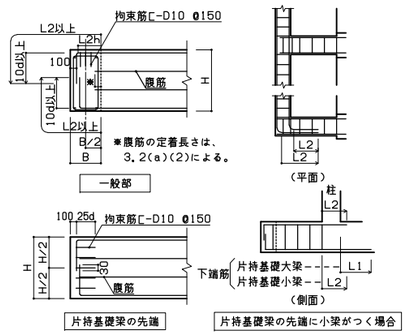


図1．12　基礎小梁及び片持基礎梁の主筋の定着

1．5　基礎梁のあばら筋等

（a）あばら筋
（1）あばら筋の径及び間隔は、断面表による。
（2）あばら筋組立の形及びフックの位置は、（要）3．2による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1．5m以上の場合は図1．13によることができる。

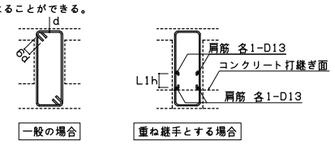
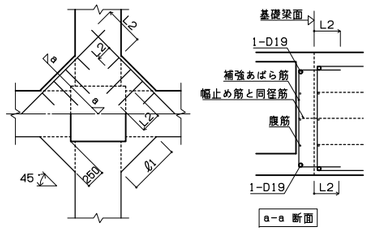


図1．13　あばら筋組立の形及びフックの位置

（b）腹筋及び幅止め筋は、（要）3．2(a)(2)から(4)及び（要）3．2(d)による。
（c）あばら筋の割付けは、（要）3．2(c)による。

1．6　基礎梁の補強

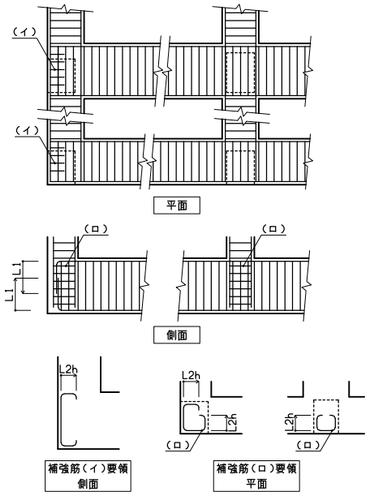
（a）打増し補強筋は、各部配筋詳細図(3)による。
（b）土間スラブ等の打継ぎ補強筋は、（要）5．3(c)による。
（c）基礎梁水平ハンチ部の補強要領は図1．14による。
場所打ちコンクリート杭がある場合は図1．4による。



（注）1．この項で扱う基礎梁の水平ハンチとは基礎梁断面表に特記がなく伏図のみに示される水平ハンチをいう。
2．水平ハンチ部の腹筋及び補強あばら筋はX・Y方向基礎梁の規定鉄筋の大きい方と同径・同間隔とする。
3．ℓ_1が200以下の場合は補強筋不要。

図1．14　基礎梁水平ハンチ部の補強要領

（d）柱幅が梁幅よりも小さい場合の補強要領は図1．15による。



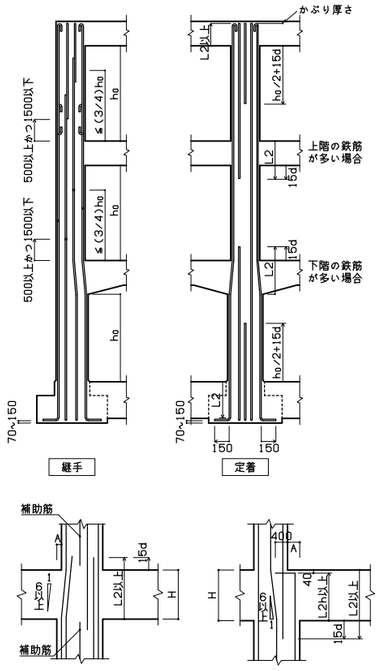
（注）1．X，Y両方向の梁幅＞柱幅に適用する。
2．柱を梁に定着する考えとする。柱筋の定着は（要）2．1による。
3．あばら筋は、X方向梁幅とY方向梁幅の大きい方を優先させる。
4．梁内の柱帯筋は、不要。ただし、隅柱、側柱には補強筋（ロ）を帯筋と同径とし1．5倍間隔に入れる。柱幅内のあばら筋間隔は、規定のあばら筋間隔の1．5倍とする。
5．補強筋（イ）は、同方向側梁あばら筋と同径・同間隔とする。

図1．15　柱幅が梁幅よりも小さい場合の補強要領

2節　柱の配筋

2．1　柱

柱主筋の継手及び定着は次による。
（1）継手及び圧接中心位置は、梁上端から500以上、1500以下、かつ（3/4)ho（hoは柱の内法高さ）以下とする。
（2）重ね継手長さはL1とし、定着及び余長は図2．1による。なお、柱頭定着長さはL2以上かつ柱頭かぶり厚さまでとする。柱頭定着長さL2が確保できない場合は柱内に折り曲げL2を確保する。



（注）1．（要）0．2[加工](b)(1)で定めた鉄筋には、フックをつける。
2．隣り合う継手の位置は、（要）0．5[隣り合う継手の位置]による。
3．継手、定着は、すべての階に適用できる。
4．柱補助筋の継手長さは150とする。

図2．1　柱主筋の継手、定着及び余長

（3）柱主筋は原則として等間隔に配筋する。ただし、主筋の隅寄せは柱断面表に表示のある場合のみとし、図2．2による。

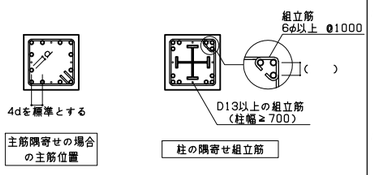


図2．2　柱主筋の隅寄せ

2．2　帯筋

（a）帯筋の種類及び間隔は、断面表による。
（b）帯筋組立の形は図2．3により、適用は設計図による。記入なければ、次による。
（1）H形とする。
（2）H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-I形とする。
（3）溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
（4）帯筋のフック及び電気抵抗溶接の継手の位置は上下同一個所に集中しないように割り付ける。
（5）135°フックの余長は6d以上とする。フックは先曲げとする。

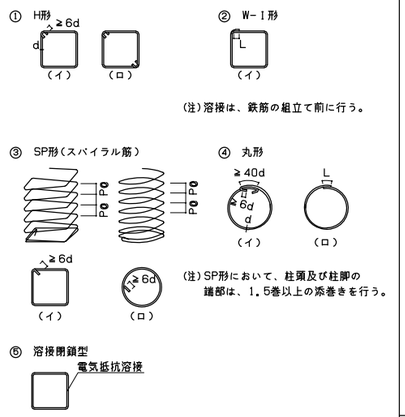
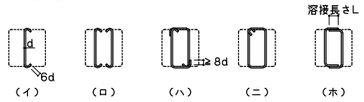


図2．3　帯筋組立の形

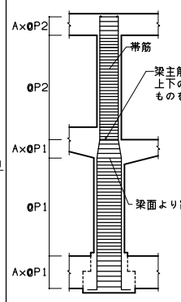
（c）副帯筋の形状は図2．4により、副帯筋が2本以上の場合の適用は（　二　）とする。



（注）フック形状及び位置、フレア溶接する場合の溶接長さLは、(b)による。

図2．4　副帯筋の形状

（d）フック及び継手の位置は、交互とする。
（e）帯筋の割付けは、断面表による。記入がなければ図2．5による。



（注）1．図示のない事項については、一般の場合に同じ。
2．柱に取り付く梁に段差がある場合の、仕口部の範囲は（f）に示す。
3．仕口部の帯筋間隔Ax@P1，Ax@P2におけるAは下記○印で示す値とする。
⊙1．5　・1．0　・（　　）
なお、@P1，@P2は、設計図に記入された帯筋の間隔を示す。

図2．5　帯筋の割付け

（f）柱の仕口部（柱・梁接合部）は次による。
（1）柱の仕口部の範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付く全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。（図2．6）

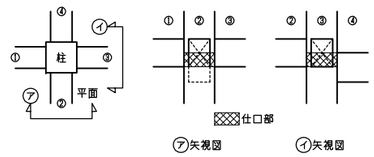
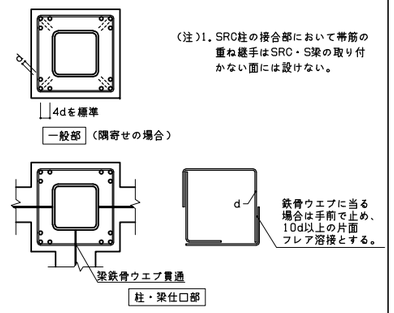


図2．6　柱の仕口部の範囲

（g）SRC柱の配筋要領は図2．7による。

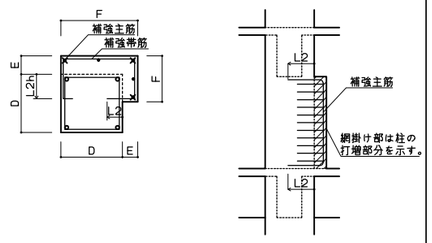


（注）1．SRC柱の接合部において帯筋の重ね継手はSRC・S梁の取り付かない面には設けない。

図2．7　SRC柱の配筋要領

2．3　柱の打増補強

柱の打増補強筋は図2．8による。
なお、梁，壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増部分を除いて算定する。



打増寸法	補強主筋	打増寸法	補強主筋
F≦300	2-D16	E≦300	1-D16
300＜F≦600	3-D16	300＜E≦600	2-D16

（注）1．打増部分が70未満の場合は補強筋不要。ただし、70未満の打増部分に壁が取り合う場合は図2．9によるものとし、壁筋（縦筋、横筋共）を延長して補強筋とする。
2．補強帯筋は、柱帯筋と同径・同間隔とする。
3．補強主筋の定着は原則としてL2とする。
4．1．~3．の場合、壁筋がD19以上の場合の補強筋は上表にかかわらず壁筋と同径筋を使用する。
5．×印筋は打増寸法E及び打増寸法Fで決まる補強筋を兼ねるものとする。

図2．8　柱の打増補強要領

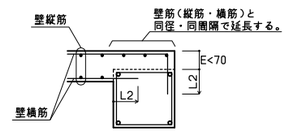


図2．9　柱の打増補強要領（70未満で壁と取合う場合）

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの間口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E，F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx，ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h，L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ				

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計
2026．06．30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

標準配筋要領図（3）

（通し番号　53）
6 － 3
No. J－240623－D

J240623D 623SDR-03.DWG 26/02/26 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1（統一ルール）1/1 A1YFPC
*25.05.21 RC・PC研究会 作成

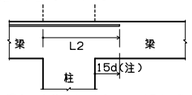
標準配筋要領図（4）

注）1. 図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2. 図中の (要) は本標準配筋要領図を示す。（例えば (要) 0.3「組立」は、標準配筋要領図0.3「組立」の項を示す。）
3. 図中の (標) は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、(標) 表5.3.2は、標準仕様書の表5.3.2を示す）

3節　梁の配筋

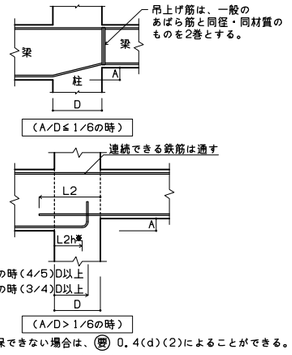
3.1　大梁

(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
(1) 継手中心位置は、次とする。
上端筋：中央　$\ell_0/2$以内
下端筋：柱面より梁せい（H）以上離し、$\ell_0/4$を加えた範囲以内
(2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は、図3.3及び図3.4による。
(3) 梁主筋は、原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、図3.1による。



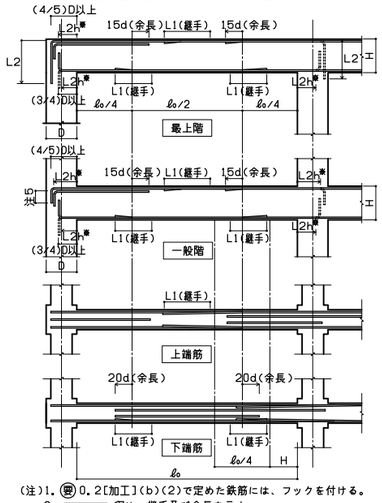
（注）上階に柱がある場合の定着長さはL2とし、15dは省略できる。
図3.1　梁主筋の梁内定着

(4) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、次による。
なお、定着の方法は、(要) 0.4(d)(2)による。
上端筋　：曲げ降ろす。
下端筋　：曲げ上げる。ただし、やむを得ない場合は、監理者の承認を得て、曲げ降ろすことができる。
(5) 梁にハンチをつける場合、その傾斜は断面表による。記入がなければ1:4とする。
(6) 段違い梁は、図3.2によることができる。



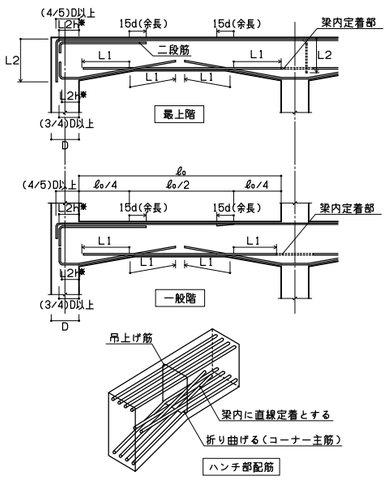
＊ L2hを確保できない場合は、(要) 0.4(d)(2)によることができる。
図3.2　段違い梁

(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図3.3による。



（注）1. (要) 0.2[加工](b)(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。
2. ━━━ 印は、継手及び余長を示す。
3. 破線は、柱内定着の場合を示す。
4. 柱せいDが小さい場合において、図3.3の(4/5)D以上又は(3/4)D以上が満足できないときは柱の中心軸を超えてから上向きに定着する。
＊ L2hを確保できない場合は、(要) 0.4(d)(2)によることができる。
5. せいが400mm以下の柱に梁主筋を定着させる場合は折り曲げ定着とし、折り曲げ終点を定着起点と見なしてL2を確保する。
ただし、最上階においては図3.3による。
図3.3　大梁の重ね継手、定着及び余長

(c) ハンチのある場合の定着及び余長は、図3.4による。



（注）1. (要) 0.2[加工](b)(2)で定めた鉄筋には、フックを付ける。
2. ━━━ 印は、継手及び余長を示す。
3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、┆┆┆┆ のように引通すことができる。
4. 破線は、柱内定着を示す。
5. 柱せいDが小さい場合において、図3.4の4/5D以上又は3/4D以上が満足できないときは柱の中心軸を超えてから上向きに定着する。
＊ L2hを確保できない場合は、(要) 0.4(d)(2)によることができる。
6. 吊上げ筋は、折り曲げた主筋のすべてにかける。
吊上げ筋はあばら筋とは別途設け、仕様は設計図による。設計図に記載なき場合は、一般のあばら筋と同径・同材質のものを2巻とする。
図3.4　ハンチのある大梁の定着及び余長

3.2　あばら筋等

(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項
(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、断面表による。
(2) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、（　　）とする。記入がなければ150mm程度とする。
腹筋の定着長さは（　　）とする。記入がなければ30mm程度とする。
(3) 壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L2とする。
(4) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10@1000程度とする。
(5) 最上階の柱・梁仕口部内には、Π型拘束筋を配筋する。
Π型筋は端部あばら筋と同径・同間隔とする。
柱頭部の拘束筋は梁が交差する場合は、梁幅の大きい方のΠ型拘束筋のみ配筋する。
(6) 充腹型鉄骨を有するSRC梁については幅止め筋は不要とする。

(b) あばら筋組立ての形及びフックの位置
(1) 形は、図3.5(イ)とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。

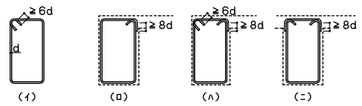
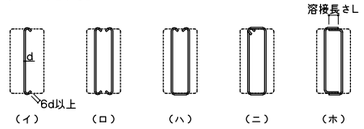


図3.5　あばら筋組立の形

(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。
なお、(ハ)の場合は、スラブの付く側を90°折曲げとする。
(3) 副あばら筋の形状は図3.6により、副あばら筋が2本以上の場合の適用は（　二　）とする。

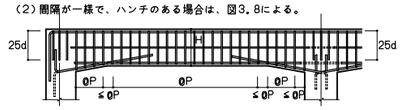


（注）1. 135°フックの余長は6d以上とする。フックは先曲げとする。
2. フックの位置は、(ニ)の場合は交互とする。
3. 溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とする。
図3.6　副あばら筋の形状

(c) あばら筋の割付け
(1) 間隔が一様で、ハンチのない場合は、図3.7による。

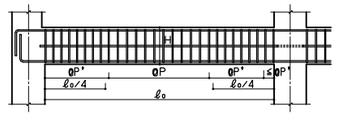
（注）1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中の0Pは、記入されたあばら筋の間隔を示す。
図3.7　あばら筋の割付け（その1）

(2) 間隔が一様で、ハンチのある場合は、図3.8による。



（注）1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中の0Pは、記入されたあばら筋の間隔を示す。
図3.8　あばら筋の割付け（その2）

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図3.9による。



（注）1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中の0P，0P'は、記入されたあばら筋の間隔を示す。
図3.9　あばら筋の割付け（その3）

(d) 腹筋及び幅止め筋
(1) 一般の梁は、断面表による。記入がなければ図3.10による。

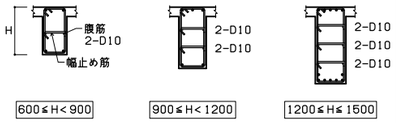
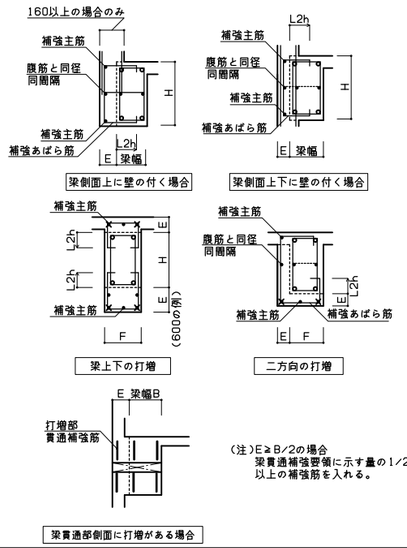


図3.10　腹筋及び幅止め筋（その1）

(2) 壁梁の場合は、断面表による。

3.3　梁の打増補強

梁の打増補強筋は図3.11による。
なお、小梁、壁及びスラブの鉄筋の定着長さは、打増部分を除いて算定する。



（注）E≧B/2の場合
梁貫通補強要領に示す量の1/2以上の補強筋を入れる。

打増寸法	補強主筋	打増寸法	補強主筋
F≦300	2-D16	E≦300	1-D16
300<F≦600	3-D16	300<E≦600	2-D16

（注）1. 打増部分が70未満の場合は補強筋不要。ただし、70未満の打増部分に壁が取り合う場合は、壁筋（縦筋、横筋共）を延長して補強筋とする。
2. 補強あばら筋は、梁あばら筋と同径・同間隔とする。
3. 補強主筋の定着は原則としてL2とし、図3.12による。
4. 1.～3. の場合、壁筋がD19以上の場合の補強主筋は上表にかかわらず壁筋と同径筋を使用する。
5. ×印筋は打増寸法E及び打増寸法Fで決まる補強主筋を兼ねるものとする。
図3.11　梁の打増補強要領

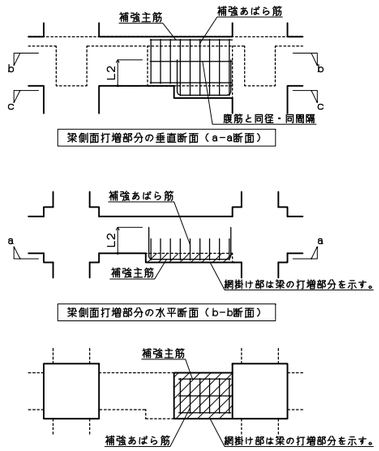
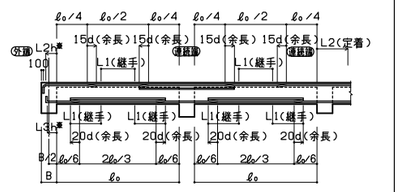


図3.12　梁打増部分の補強主筋の定着

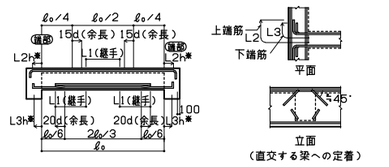
3.4　小梁

(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長
(1) 連続小梁の場合は、図3.13による。



（注）1. ━━━ 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、(要) 1.4及び(要) 3.1による。
＊ L2h、L3hを確保できない場合は、(要) 0.4(d)(2)によることができる。
図3.13　小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

(2) 単独小梁の場合は、図3.14による。



（注）1. ━━━ 印は、余長位置を示す。
2. 図示のない事項は、(要) 1.4及び(要) 3.1による。
＊ L2h、L3hを確保できない場合は、(要) 0.4(d)(2)によることができる。
図3.14　小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

(b) あばら筋は、(要) 3.2による。
(c) 打増補強筋は、(要) 3.3による。
(d) 梁幅が小さく (要) 0.4(d)(2)を満足できない場合は、図3.15による。

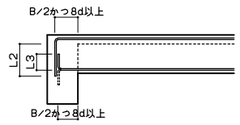
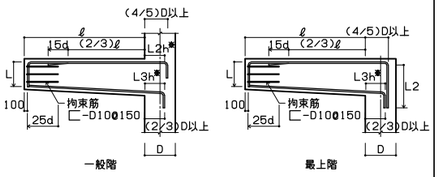


図3.15　定着する梁幅Bが小さい場合の小梁主筋の定着

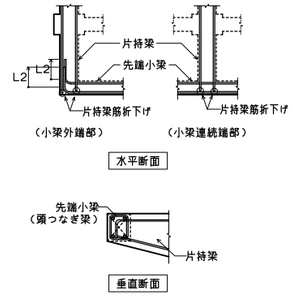
3.5　片持梁

(a) 片持梁主筋の定着及び余長
(1) 先端に小梁のない場合は、図3.16による。



（注）1. 梁主筋は原則として柱をまたいで引き通すものとする。
図示のない事項は、(要) 3.1による。
2. ━━━ 印は、余長位置を示す。
3. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
4. 主筋には継手を設けないこと。
5. 拘束筋は梁あばら筋の内側に定着する。
＊ L2h、L3hを確保できない場合は、(要) 0.4(d)(2)によることができる。
図3.16　片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁のない場合）

(2) 先端に小梁がある場合は、図3.17による。



（注）1. 図示のない場合は、(1)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。
図3.17　片持梁主筋の定着（先端に小梁がある場合）

(b) あばら筋は、(要) 3.2による。
(c) 打増補強筋は、(要) 3.3による。

着工			
竣工			
監理			
施工			

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの間口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E, F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h, L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ				

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
嗣生　悟

日建設計
2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

標準配筋要領図（4）

(構)　（通し番号　54）
6 － 4
No. J－240623－D

J240623D 623SDR-04.DWG 26/03/31 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC
*25.05.21 RC・PC研究会 作成

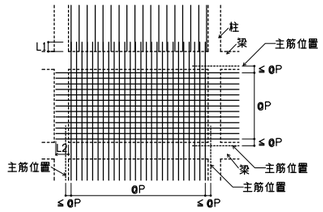
標準配筋要領図（5）

注）1．図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2．図中の（要）は本標準配筋要領図を示す。（例えば（要）0.3「組立」は、標準配筋要領図0.3「組立」の項を示す。）
3．図中の（標）は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、（標）表5.3.2は、標準仕様書の表5.3.2を示す）

4節　壁、その他の配筋

4．1　壁

（a）一般事項
（1）壁配筋の重ね継手長さはL1、定着の長さはL2とする。
（2）壁符号の頭にEW記号のつく壁は耐震壁扱いとする。
（3）重ね継手及び定着の長さが取れない場合は、監理者と協議する。
（4）幅止め筋は、縦横ともD10 @1000程度とする。
（5）一般部壁の配筋は、図4.1による。



（注）図中の@Pは、壁断面表に記入された壁筋の間隔を示す。

図4.1　壁の配筋

（6）壁筋の継手位置は図4.2の斜線部分の範囲とする。

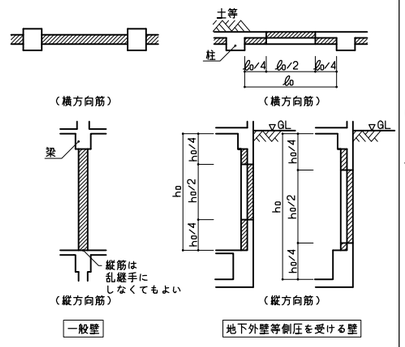
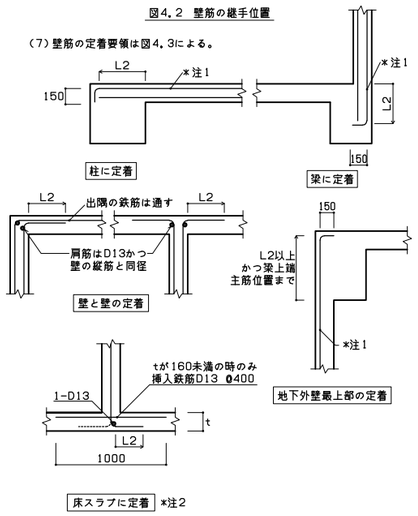


図4.2　壁筋の継手位置

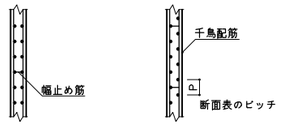
（7）壁筋の定着要領は図4.3による。



（注）1．梁及び柱主筋の外側に定着される場合は150折り込む。（＊印）
2．スラブの下側に壁が付く場合も適用する。
3．地下外壁は図4.6も参照のこと。

図4.3　壁筋の定着

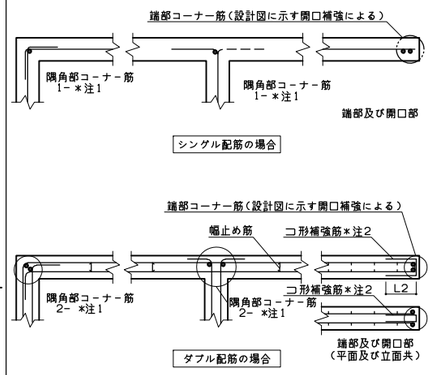
（b）壁の配筋は壁リストによる。
記入なき限り、縦筋を外側に配筋する。



（注）1．ダブル配筋の場合は、1m²に1箇所以上幅止め筋にて内外筋を連結する。
2．壁筋がD10のみの場合は、縦筋のみ5本毎にD13を入れる。

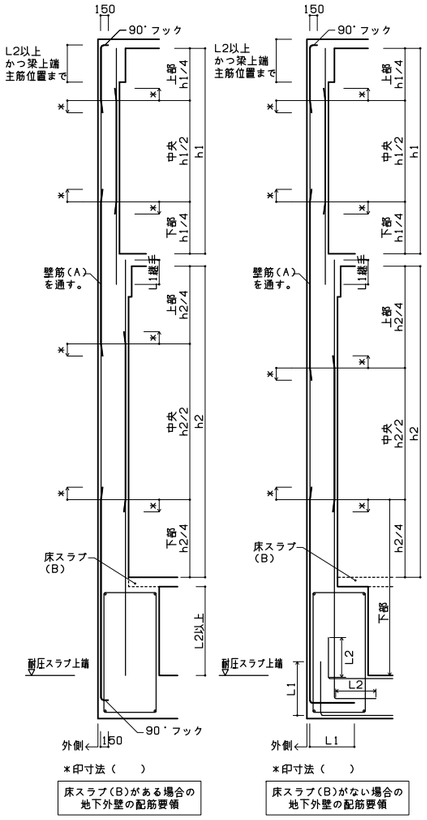
図4.4　壁の配筋要領

（c）壁の交差部及び端部の配筋は図4.5による。

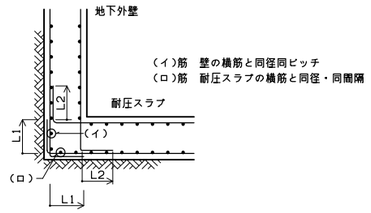


（注）1．＊印　隅角部コーナー筋は壁筋と同径筋とし、壁筋D13以下の場合はD13とする。
2．＊印　コ形補強筋は壁筋と同径筋とし、壁筋D16以上の場合はD16とする。定着長さはL2とする。ただし、壁厚160以下は不要とする。

図4.5　壁の交差部及び端部の配筋要領



（注）1．地下外壁縦筋（A）を通すことを原則とする。但し施工上梁内に定着する場合は監理者と協議する。
2．地下外壁の壁筋は縦筋を外側に配筋する。
3．＊印はトップ筋の止める位置を示す。＊印の寸法の記入がない場合は15dとする。



＊2重スラブでなく、地下外壁厚さと基礎梁幅が同じ場合も同様とする。

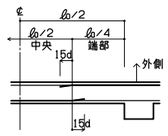
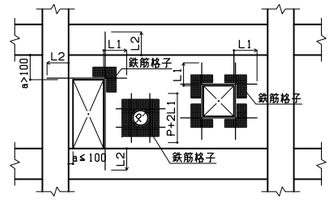


図4.6　地下外壁の配筋要領

4．2　壁の補強

（a）壁開口部の補強
（1）壁開口部の補強筋は壁断面表による。
壁の開口補強要領は図4.7及び図4.8による。



（注）1．壁厚200以下の壁開口に適用する。
2．開口最大寸法が200以下の場合は補強筋不要。
3．a寸法が100以下の場合は補強筋不要。
4．補強筋は壁断面表による。
5．補強筋は規定壁配筋以外に入れる。
6．開口ピッチは、3×(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
7．開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL2定着する。

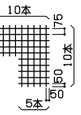
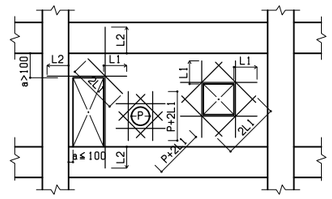


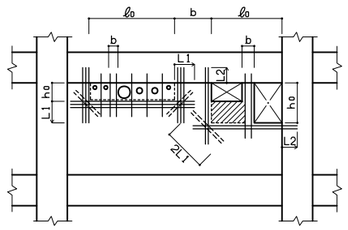
図4.7　壁の開口補強要領（鉄筋格子の場合）



（注）1．壁厚200を超える壁開口に適用する。
2．開口最大寸法が200以下の場合は補強筋不要。
3．a寸法が100以下の場合は補強筋不要。
4．補強筋は壁断面表による。
5．補強筋は規定壁配筋以外に入れる。
6．開口ピッチは、3×(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
7．開口高さが階高の0.4倍を超える場合、縦補強筋は梁内にL2定着する。

図4.8　壁の開口補強要領（鉄筋の場合）

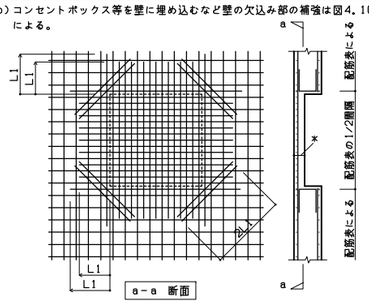
（2）設備開口の補強要領は図4.9による。



（注）1．ℓo ho寸法を開口寸法とし、補強筋は壁断面表による。
ただし壁厚200以下の場合は、鉄筋格子による補強とせず壁断面表に示す縦、横補強筋を50%増とする。
2．隣合う開口間のb寸法は100以上かつ、1組の壁筋を配筋し設計用かぶり厚さが確保できる寸法とする。
3．b寸法500以上の場合は別開口として、個別に開口補強を行う。
b寸法500未満の場合は、必要なかぶりを確保の上、規定の壁筋と同径筋を@150以下で配筋する。
4．▨印部分は規定の壁配筋を行う。
5．補強筋の定着要領は図4.7及び図4.8による。

図4.9　壁の設備開口補強要領

（b）コンセントボックス等を壁に埋め込むなど壁の欠込み部の補強は図4.10による。



（注）1．＊が180未満かつ90以上の場合は、壁配筋表と同径筋を1/2間隔にてシングル配筋とする。
2．＊が180以上の場合は、同径・同間隔でダブル配筋とする。
但し、配筋がD16以上の場合は、監理者の指示による。
3．開口補強材は壁断面表による。

図4.10　壁欠込み部補強要領

（c）壁の打増補強配筋
壁の打増補強配筋は、図4.11により、打増厚さaが70以上、かつ、200以下の場合に適用する。200を超える場合は、縦筋、横筋をD13@200とする。

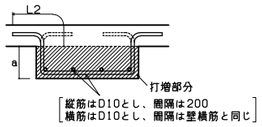


図4.11　壁の打増補強要領

着工	. .	. .		本標準配筋要領図に使用される記号									
竣工	. .	. .		B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン		
		. .		D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン		
監理		. .		E, F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx, ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン		
		. .		H	リストに示す梁せい	L2h, L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ		
施工		. .		L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ						

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

標準配筋要領図（5）

（構）（通し番号　55）
6 － 5
No. J－240623－D

J240623D 623SDR-05.DWG 26/12/02 <FNS>SNK0231
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC

＊25.05.21 RC・PC研究会 作成

780×570

標準配筋要領図（6）

注）1．図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2．図中の（要）は本標準配筋要領図を示す。（例えば（要）0.3「組立」は、標準配筋要領図0.3「組立」の項を示す。）
3．図中の（標）は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、（標）表5.3.2は、標準仕様書の表5.3.2を示す）

5節　スラブの配筋

5.1　スラブ

スラブ配筋は、次による。
（1）スラブの配筋要領は下記による。

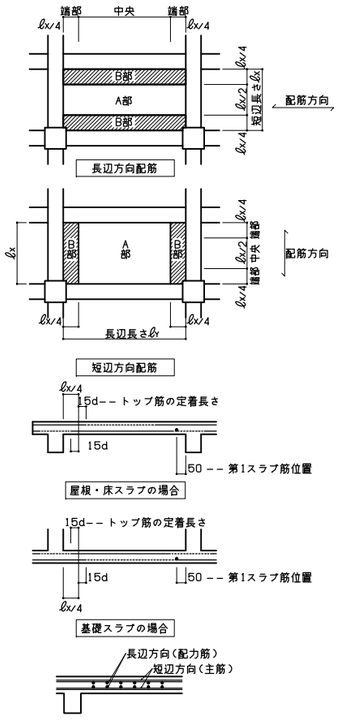


図5.1　スラブの配筋

（2）配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
（3）鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。継手位置要領は下記による。

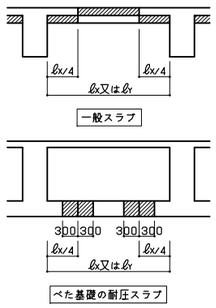


図5.2　スラブ筋の継手位置

（4）定着長さ及び受け筋は、図5.3による。ただし、直線定着長さを確保できない場合は、図5.4により梁内に定着する。
（5）スラブ筋を梁内に定着する場合は、梁の中心軸を超えてから梁内に定着する。

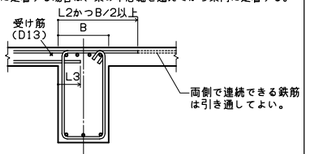
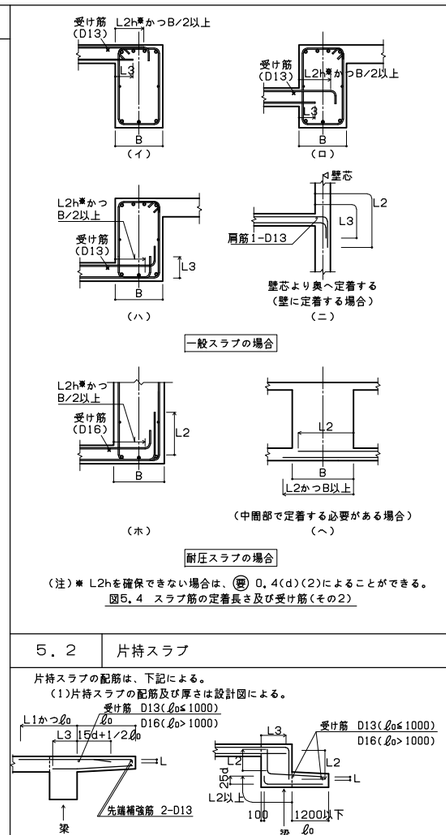


図5.3　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）



（注）＊ L2hを確保できない場合は、（要）0.4(d)(2)によることができる。

図5.4　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）

5.2　片持スラブ

片持スラブの配筋は、下記による。
（1）片持スラブの配筋及び厚さは設計図による。

（注）1．先端の折曲げ長さしは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図5.5　片持スラブの配筋

（2）先端に壁が付く場合の配筋は、図5.6による。

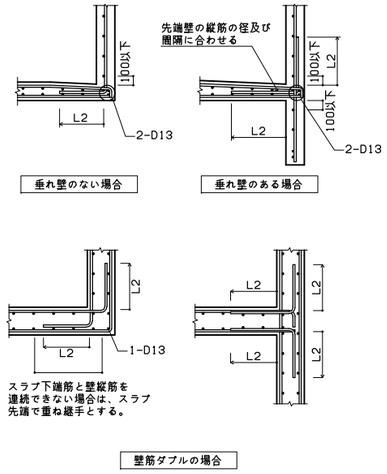
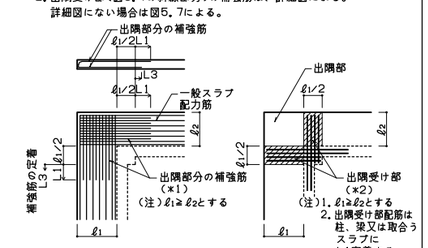


図5.6　先端に壁が付く場合の配筋

（3）出隅部
1．補強の配筋は、詳細図による。詳細図にない場合は下記表による。
配筋方法は、図5.7による。
2．出隅受け部（図5.7の斜線部分）の補強筋は、詳細図による。
詳細図にない場合は図5.7による。



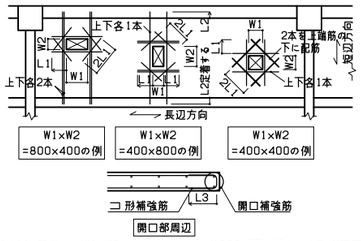
出隅部分補強配筋　　出隅受け部配筋

ℓ1	補強筋		備　考
	出隅部(*1)	出隅受け部(*2)	
1200以下	D13 @200	D13 @100	スラブ先端部にバラペット、手すり等の重量がかからない場合に限る。
1200<ℓ≦2000	D16 @200	D13,D16 @200	
2000<ℓ≦3000	D16 @200	D16 @100	
3000<ℓ≦3500	D19 @200	D19 @100	

図5.7　片持スラブ出隅部の補強配筋

5.3　スラブ等の補強

（a）スラブ開口部の補強
スラブ開口部の補強は詳細図による。詳細図がなければ次により、開口によって切断されるスラブ筋本数と同数を開口両側に均等に分けて配筋することを原則とする。



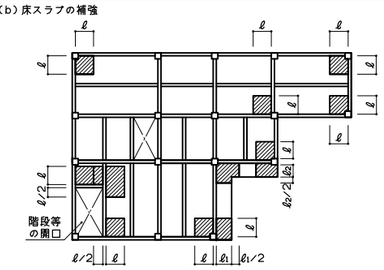
（注）1．開口寸法W1，W2の大きい方の寸法が200以下の場合は補強筋不要とする。ただし、開口周隔は、3×(隣接する開口寸法の平均)以上を原則とする。
開口周隔がこれ以下の場合は、全体を1つの開口として補強筋を設け、個々の開口についても補強筋を設ける。
2．開口寸法W1，W2が1000を超える場合は、監理者と協議の上補強する。
3．開口寸法W1，W2の大きい方の寸法が400を超える場合、短辺方向補強筋は梁内にL2定着する．
4．補強筋表
（床スラブ筋がD13@200程度の場合は下表によってよい。）

開口の大きさ	短辺方向補強筋	斜め補強筋
開口寸法　W1，W2≦　400	上下各1-D13	2-D13
開口寸法　W1，W2≦　800	上下各2-D13	2-D13
開口寸法　W1，W2≦ 1000	上下各3-D13	2-D13

5．コ 形補強筋は床スラブ筋と同径・同間隔とする。ただし、スラブ厚さが200未満の場合は不要とする。
6．鉄骨柱（CFT柱も含む）はスラブ開口とみなし本補強を行う。

図5.8　スラブ開口部の補強

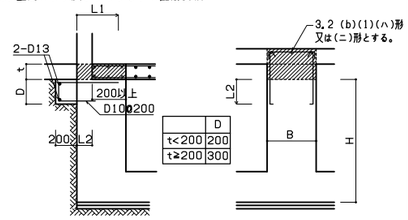
（b）床スラブの補強



（注）1．▨部分の床スラブは上端筋の周隔が@100以下となる様に床スラブ筋と同径筋により補強する。
2．ℓは3m又は床スラブの短辺内法スパンの小なる方とする。
3．床面積100 m² 以下の階は補強不要とする。
4．下記○印で示す範囲に適用する。
⊙　2階以上の階
・（　　）

図5.9　床スラブの補強

（c）土間スラブ及びブラケットの配筋要領

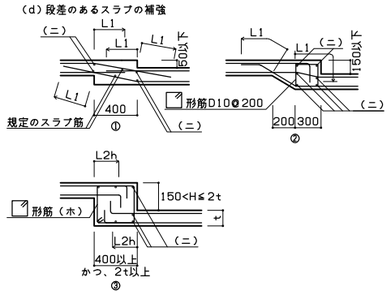


	D
t<200	200
t≧200	300

（注）1．土間スラブにおいて▨部分は梁の打増とみなし、打増補強筋を（要）3.3により配筋する。

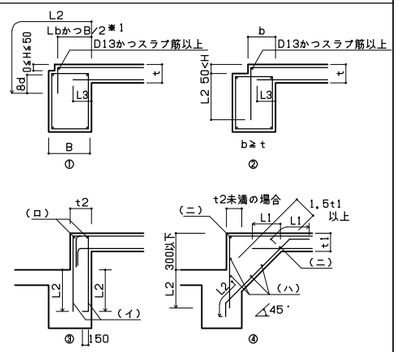
図5.10　置きスラブ及びブラケットの配筋要領

（d）段差のあるスラブの補強



（注）1．（ニ）配筋はスラブ筋と同径かつD13以上とする。
2．（ホ）配筋は（　　）とする。
記入がなければD13@200とする。

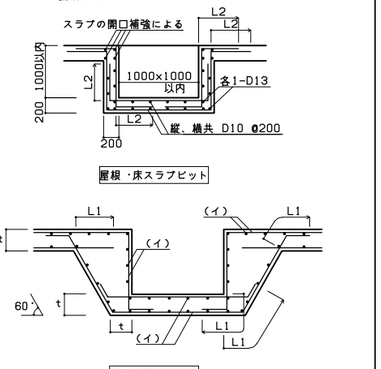
図5.11　スラブ中間に段差がある場合



（注）1．＊1に示すスラブ上端筋の水平投影長さがLbかつB/2以上確保できない場合は②による。
2．t2の厚さは200又はt1のいずれか大きい値とする。
3．（イ）配筋は壁配筋表による（縦、横共）．（ロ）は壁配筋より1サイズ太い鉄筋とする。
4．（ハ）配筋はスラブと同径・同間隔（縦、横共）とし（ニ）はスラブ筋と同径かつD13以上とする。

図5.12　梁片側のスラブが梁よりも上がる場合

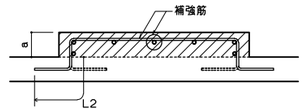
（e）スラブピットの配筋要領



（注）1．基礎スラブピット配筋（イ）は接続する基礎スラブと同径・同間隔とする。

図5.13　スラブピットの配筋要領

（f）スラブの打増補強配筋
スラブの打増補強配筋は、図5.14により、打増厚さaが70以上の場合に適用する。



打増寸法	補強筋	備　考
70≦a<200	D10@200縦横	
200≦a<400	D13@200縦横	

図5.14　スラブの打増補強要領

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E，F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h,L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ				

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

（構）（通し番号　56）
6 － 6

標準配筋要領図（6）

No. J－240623－D

J240623D 623SDR-06.DWG 26/05/19 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1（統一ルール） 1/1 A1YFPC
＊25.05.21 RC・PC研究会 作成

780×570

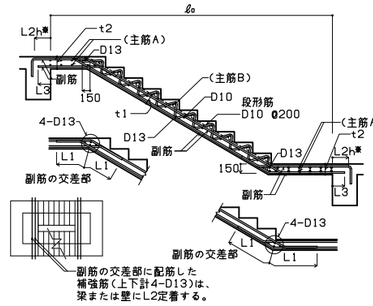
標準配筋要領図（7）

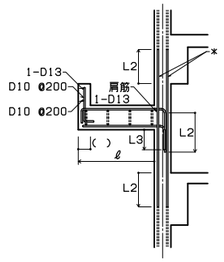
注）1．図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2．図中の（常）は本標準配筋要領図を示す。（例えば（常）0．3「組立」は、標準配筋要領図0．3「組立」の項を示す。）
3．図中の（標）は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、（標）表5．3．2は、標準仕様書の表5．3．2を示す）

6節　階段の配筋

6．1　片持スラブ形階段（KA型）

片持スラブ形階段の基準配筋は図6．1により、寸法及び配筋種別は記入による。





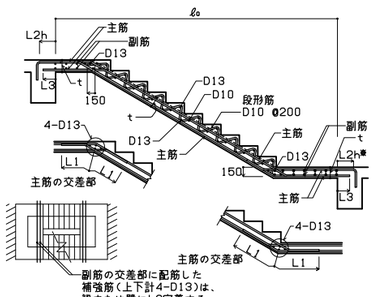
（注）1．階段主筋は、壁の中心線を超えてから下向きに定着する。
2．段形筋のスラブへの定着の長さは、150mmとする。
3．片持スラブ形階段で壁厚が250未満の場合は、壁配筋表にかかわらず*印筋（縦筋）は、断面表に示す縦筋以上かつD13 @200以上の配筋とする。
＊ L2hを確保できない場合は、（常）0．4(d)(2)によることができる。

階段記号	形状種別	厚さ t1	厚さ t2	配筋 主筋A	配筋 主筋B	配筋 副筋	片持長さ ℓ
K1	KA	200	200	D16 @200	2-D16	D13 @200	ℓ ≦ 1900
K2	KA	250	250	D16 @100	2-D16	D13 @200	ℓ ≦ 2500
K3	KA	150	150	D13 @200	2-D13	D13 @200	主筋は先端の壁にもL2定着とする。

図6．1　片持スラブ形階段配筋の定着

6．2　一方向スラブ形階段（KB型）

一方向スラブ形階段の基準配筋は図6．2により、寸法及び配筋種別は記入による。



踊り場のある場合

（注）＊ L2hを確保できない場合は、（常）0．4(d)(2)によることができる。

階段記号	形状種別	厚さ t	配筋 主筋	配筋 副筋	備考
K11	KB	150	D13 @100	D13 @200	
K12	KB	250	D16 @200	D13 @200	

図6．2　一方向スラブ形階段配筋

7節　梁貫通孔その他の配筋

7．1　梁貫通孔

（a）梁貫通孔は、次による。
（1）梁貫通孔補強筋の名称等は、図7．1による。
（2）孔の径及び間隔は、以下による。孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
1．貫通孔径φは、
（RCの場合）　大梁φ≦H/5　小梁φ≦H/4
（SRCの場合）　φ ≦ H/3　かつ　鉄骨せい　Hs/2
とし、設計図に示されない個所については監理者の指示に従う。
2．貫通孔の中心間隔は、
（RCの場合）　4x（隣接する貫通孔径の平均）　かつ　500以上
（SRCの場合）　3x（隣接する貫通孔径の平均）　かつ　500以上
を原則とする。
（3）孔の上下方向の位置の限度は、
（RCの場合）　Ho ≧ 250
（SRCの場合）　Ho ≧ 250　かつ　H1，H2≧100を満たすこと。
（4）孔の中心位置の限度は、柱の面から、原則として1．2H以上離す。
ただし、基礎梁の場合は下記○印で示す寸法以上とする。
・1．2H　・柱せいD　⊖（基礎の面から孔面まで1000以上）
（5）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。（@100）
（6）補強筋は主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監理者の承認を得て外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、図7．3による。
（7）孔の径が100mm以下のものは、所定のあばら筋組数を確保したうえで補強を省略することができる。
（8）鉄骨梁貫通孔補強要領とその数量は（＊鉄骨標準要領図　・　）による。
（9）SRC梁の貫通孔補強要領については（＊本図　・　）による。

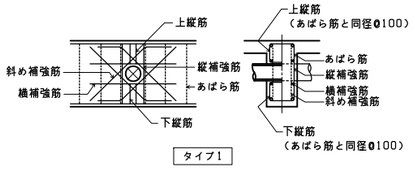


図7．1　梁貫通孔補強筋の名称等

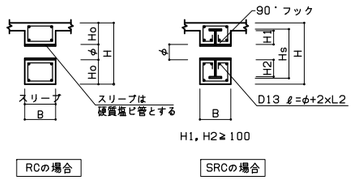


図7．2　孔の上下方向の位置の限度

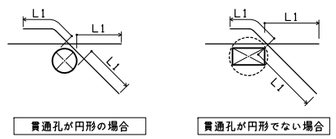


図7．3　補強筋の定着長さ

（b）梁貫通孔の補強形式は表7．1による。
（1）表7．1の標準補強は前記7．1(a)の条件のもとで算定したものであり、現場施工に当ってはシャースパン比 ℓ/2dを考慮し、終局耐力計算書を作成のうえ監理者の承認を得る。
（2）あばら筋がD16以上の時は、縦補強筋をあばら筋と同径とする。
（3）基礎梁用の欄にない貫通孔径の補強筋は大梁用と同じとする。
（4）縦補強筋の1巻とは、梁断面表に示すあばら筋形状を1巻とみなす。
（5）既製の補強筋を用いる場合には、監理者の承認を得たうえで、前記7．1(a)の条件によらず当該製品が取得している評定の適用範囲内で使用する。
ただし、孔径が200mmを超える場合は上縦筋及び、下縦筋を省略しない。
（6）貫通スリーブの材種・規格等は特記仕様書の記載による。

（c）設備貫通個数は表7．2による。
（1）設計図図示（ピット平面図、鉄骨梁伏図等）以外に表7．2に記載の数量を見込む。同表には建築用開口及び基礎梁渦水連通管等の個数は含まれていない。これらの位置及び個数は意匠図による。
（2）壁床スラブの貫通孔で鉄筋を切断しない場合は、開口補強筋は不要。
（3）貫通孔を設ける部位には各要領図に従い開口補強を設ける。

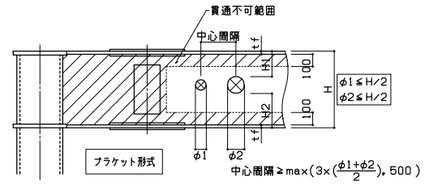
表7．1　梁貫通孔の補強

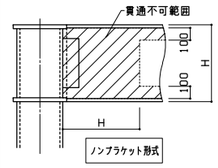
	貫通孔径 D(mm)	タイプ1 縦補強筋	タイプ1 横補強筋	タイプ1 斜め補強筋	SRC(STK400) 貫通スリーブ(mm)	備考
大梁用	100φ以下	—	—	—		
	125φ	1巻-D13	各2-D13	各2-D13		
	150φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D16		
	175φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D16	190．7φx5．3	
	200φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D19	216．3φx5．8	
	250φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D19	267．4φx6．6	
	300φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D25	318．5φx7．9	
	350φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D25	355．6φx7．9	
小梁用	100φ以下	—	—	—		
	125φ	1巻-D13	各2-D13	各2-D13		
	150φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D13		
	175φ	2巻-D13	各2-D13	各2-D13	190．7φx5．3	
	200φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D16	216．3φx5．8	
	250φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D19	267．4φx6．6	
	300φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D22	318．5φx7．9	
	350φ	2巻-D13	各2-D16	各2-D22	355．6φx7．9	
基礎梁用	700φ	5巻-D16	各4-D22	各5-D32		人通孔、梁幅1200未満
	700φ	5巻-D16	各4-D22	各10-D32		人通孔、梁幅1200以上

鉄骨梁貫通孔補強要領図

1．本図は在来工法による貫通孔補強要領を示す。
注）2．既製品の鉄骨梁貫通孔補強工法を採用する場合は事前に監理者の承認を得る。
また、採用出来る工法は、補強部材の全周を母材と溶接して取付けるものに限る。
但し、その場合においても貫通孔の範囲、孔間隔及び梁成に対する孔径の規定は本図の規定に倣うことを原則とする。

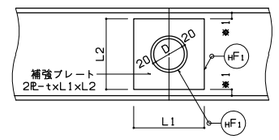
鉄骨梁貫通孔基準事項



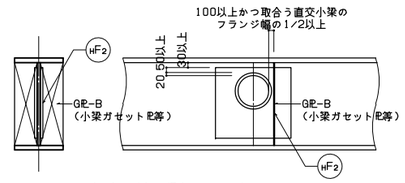


（注）1．記入なき限り、貫通孔径φ1，φ2はφ1，φ2≦H/2とする。
2．記入なき限り、貫通孔の中心ピッチは3X(隣接する貫通孔径の平均)かつ500以上とする。
3．貫通孔の上下位置は梁せいの中心を原則とし、かつ(H1-tf)≧100，(H-2yf)≧100とする。
4．原則として柱付きの大梁ブラケット部分及び柱面から梁せい(H)の範囲に該当する大梁部分には梁貫通孔を設けない。
5．ジョイント付近に梁貫通孔を設ける場合は、ジョイント位置より梁せい(H)以上離す。
6．原則として、梁貫通補強は当て板補強を採用するものとする。
7．補強プレート寸法はL1=L2かつ＊1=30として上図より設定する。
8．補強プレート板厚は母材ウェブ板厚に応じて以下より定める。
母材ウェブ板厚16mm以下：　t=9mm
25mm以下：　t=12mm
ただし、3φがHを超える場合は断面積が等価となる板厚とする。
9．補強プレートの鋼材材質は、特記なき限り母材と同材質とする。

補強プレート位置は原則として
補強プレート芯＝貫通孔芯とする。



ガセットプレートが取合う場合



GPL-Bと取合う梁が大梁の場合やGPL-Bの板厚がPL-Aよりも2サイズアップ以上大きい場合は監理者との協議による。

スリーブ補強の場合

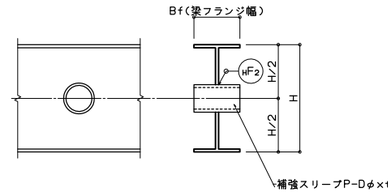


表7．2　設備貫通個数表（電気及び空調衛生用貫通孔）

		円形（φ）										矩形（m²以下）											
梁貫通孔	寸法 / 梁構造	100φ	120φ	125φ	150φ	200φ	300φ	400φ	500φ	600φ	700φ	200x200	300x300	400x400	500x500	600x600	1000x1000	1200x1200	1000x500	600x300	800x300	1200x300	1200x300
	基礎梁		100		90						80												
	RC梁	40	680																				
	S梁										10												
壁貫通孔	寸法 / 壁厚	100φ	120φ	125φ	150φ	200φ	300φ	400φ	500φ	600φ	700φ	200x200	300x300	400x400	500x500	600x600	1000x1000	1200x1200	1000x500	600x300	800x300	1200x300	1200x300
	180	60	20	10	30		20	10							10		10				10		
	200	20	10	10							5										10		10
	250	70			60		10														10		10
	300	70	30	10	30		10	10								10				10	20		
	380	80	20	10	10		20	10			5												
	450	120	140															10	10	10	10		
	500	10	20		10		20										10			10	10		
	600	40	50		20		10								10								
	650	90	30		20																10		
床スラブ貫通孔	寸法 / スラブ厚	100φ	120φ	125φ	150φ	200φ	300φ	400φ	500φ	600φ	700φ	200x200	300x300	400x400	500x500	600x600	1000x1000	1200x1200	1000x500	600x300	800x300	1200x300	1200x300
	150	60		40	360	20	20	10	90					20	10	20	10		20	10	10	20	20
	200	20		20	90	10	20		40					10	20	20	20		10	10			10
	250	20		10	20		10		30							10	10	10	10				
	300	10							10														
	400	2																					

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	壁筋・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E，F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx，ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h，L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ				

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生　悟

日建設計
2026．06．30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

（構）（通し番号　57）
6 － 7

標準配筋要領図（7）

No. J－240623－D

J240623D 623SDR-07.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC

*25.05.21 RC・PC研究会 作成

78.0x570

標準配筋要領図（8）

注）1.図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2.図中の㊫は本標準配筋要領図を示す。（例えば㊫0.3「組立」は、標準配筋要領図0.3「組立」の項を示す。）
3.図中の㊕は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和4年版」を示す。（例えば、㊕表5.3.2は、標準仕様書の表5.3.2を示す）

7節　梁貫通孔その他の配筋

7.2　コンクリートブロック帳壁との取合い

（a）控壁
（1）控壁の配置は、意匠図による。
（2）配筋は、図7.4による。

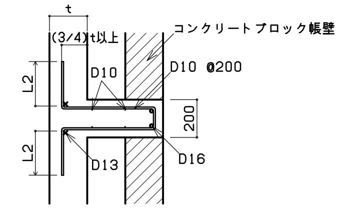


図7.4 控壁の配筋（水平、垂直とも）

（b）帳壁の配筋は、図7.5による。

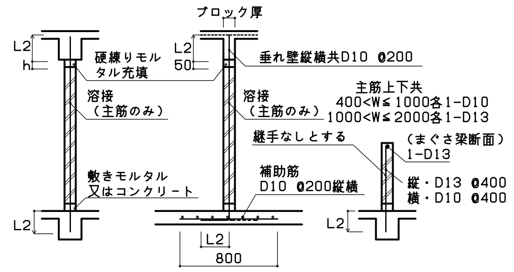


図7.5 帳壁の配筋要領

（注）1.コンクリートブロック内の配筋は、縦横共D10 @400とする.
（一般の場合）
2.h=50を越える場合はコンクリートブロック厚の垂れ壁をつける。
3.主筋の溶接長は、表0.5による。

7.3　機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは、表7.3及び図7.6による。

表7.3 機械吊上げ用フック

種　別	A　種	B　種	C　種
フック筋	φ25又はD25	φ22又はD22	φ19又はD19
曲げ内法直径（mm）	100		
補強かんざし筋	2-D16		
補強腹筋　（mm）	D16，ℓ=900	D16，ℓ=750	D16，ℓ=600
吊上げ荷重（kN）	70≧W>50	50≧W>40	40≧W

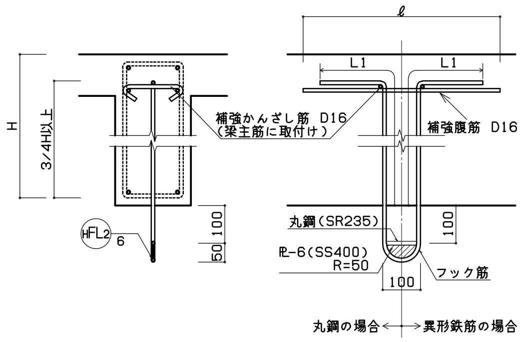
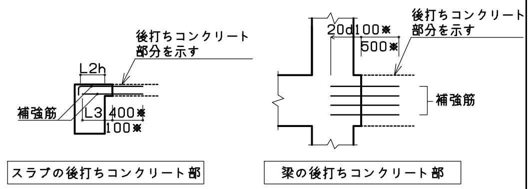


図7.6 機械吊上げ用フック

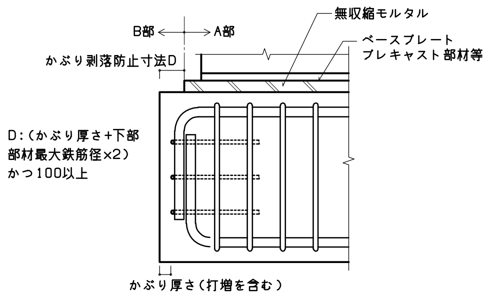
7.4　後打ち接合部の補強要領

・後打ち接合部：工区境界や仮設開口等で3か月程度コンクリートの打設時期が異なる場合の接合部



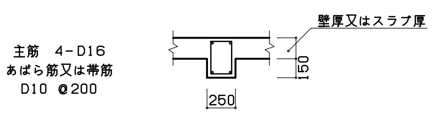
（注）1.後打ちコンクリート部分の鉄筋は監理者と協議の上、養生を行う。
2.梁の補強筋は下記○印で示すものを適用する。補強筋が不要の場合であっても、規定の腹筋について上図の定着長さを確保する。
・補強筋不要
・腹筋をD13@150とする
3.スラブの補強筋は下記○印で示すものを適用する。
・補強筋不要
・鉄筋量が規定鉄筋の50%増しとなるよう補強鉄筋を挿入する
4.※印の寸法は参考とし、工事計画により定める。
5.増築予定の場合は設計図による。

7.5　RC部材端部に設けられた鉄骨ベースプレート下部のかぶり剥落防止配筋要領



（注）RC部材上に無収縮モルタルを打設する場合、下部部材の無筋部分（B部）に荷重がかからない様にA部範囲に打設する。B部範囲の打設は不可とする。

7.6　リブ配筋要領



（注）1.構造伏図又は軸組図に表示されるもので断面表に表示されていないものに適用する。
2.主筋の定着は小梁の定着にならう。
3.スラブリブ内にはスラブ筋を定着させてはならない。

8節　補強コンクリートブロック造の配筋

8.1　交差部及び端部（開口部）

交差部及び端部（開口部）の配筋は、図8.1による。

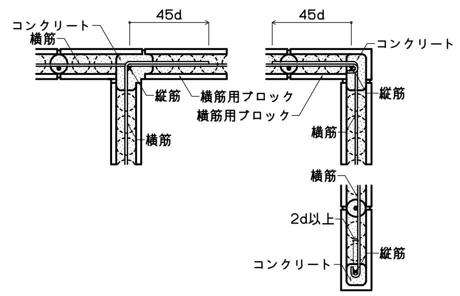
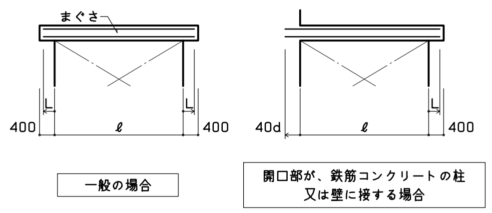


図8.1 交差部及び端部の配筋

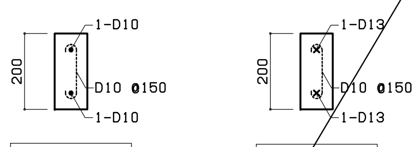
8.2　まぐさ

まぐさは鉄筋コンクリート造とし、配筋はリストによる。ただし、記入がなければ、図8.2及び図8.3による。なお、既製まぐさを使用する場合は、監理者の承認を得る。



（注）Lは、かぶり厚さを除いた長さ

図8.2 まぐさの配筋（その1）



（注）まぐさの幅は、ブロック厚さと同じとする。

図8.3 まぐさの配筋（その2）

9節　コンクリートブロック帳壁及び塀の配筋

9.1　壁

壁の配筋は、表9.1による。

表9.1 壁の配筋

縦　筋	横　筋	開口補強筋（縦横）	端部補強筋
D10 @400	D10 @400	1-D13	1-D13

9.2　帳壁の交差部及び端部（開口部）

帳壁の交差部及び端部（開口部）の配筋は、図9.1による。

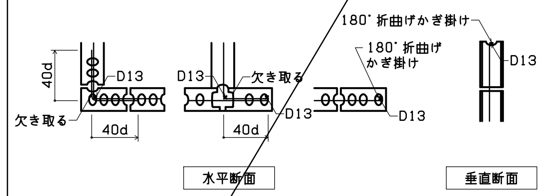


図9.1 帳壁の交差部及び端部の配筋

9.3　土間コンクリートとの取合い

帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、㊫7.2（b）による。

9.4　ブロック塀の控壁

1.記入なき限り、ブロック塀の高さは、2.2m以下とする。
2.ブロック塀の控壁は、RC造又は型枠状ブロックを用いたRC造とし、3.4m以下ごとに設け、取合い及び配筋方法は、図9.2による。

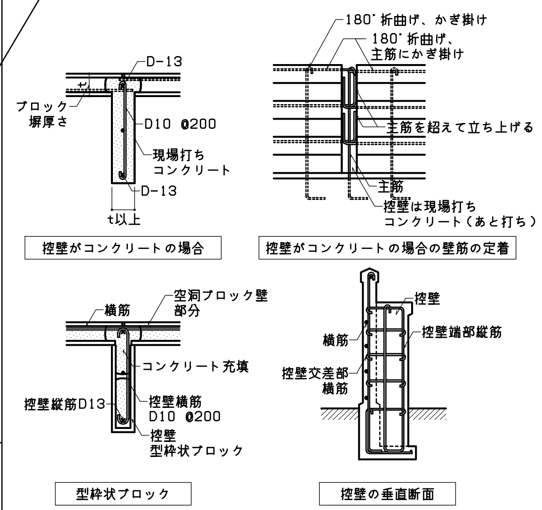


図9.2 ブロック塀と控壁との取合い及び配筋

9.5　ブロック塀の交差部及び端部

ブロック塀の交差部及び端部の配筋は、図9.3による。

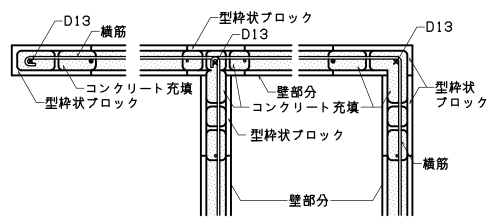


図9.3 ブロック塀の交差部及び端部の配筋

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

本標準配筋要領図に使用される記号

記号	内容	記号	内容	記号	内容	記号	内容
B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E,F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h,L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ				

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生　悟

日建設計

木更津市吾妻公園文化芸術施設新築工事（建築）

㊮（通し番号 58）6 － 8

2026.06.30　検図者：山本　裕

標準配筋要領図（8）

No. J－240623－D

J240623D 623SDR-08.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1（統一ルール）1/1 A1YFPC

'25.05.21 RC・PC研究会 作成

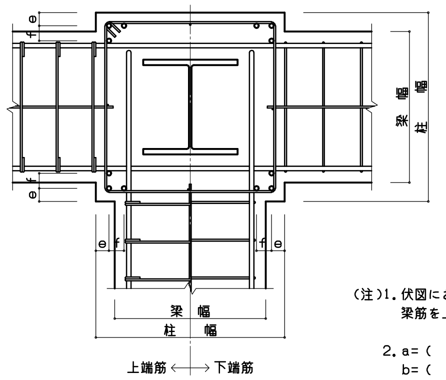
780×570

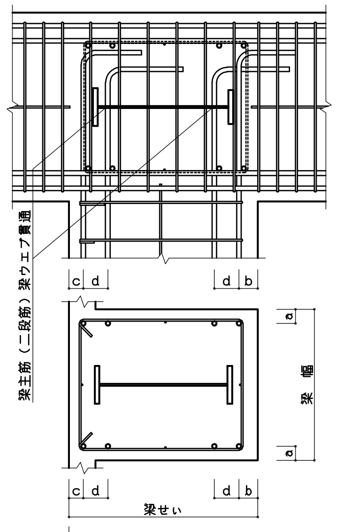
標準配筋要領図(9)

注)1.図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2.図中の㊖は本標準配筋要領図を示す。(例えば㊖0.3「組立」は、標準配筋要領図0.3「組立」の項を示す。)
3.図中の㊕は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」を示す。(例えば、㊕表5.3.2は、標準仕様書の表5.3.2を示す)

10節 SRC配筋要領図

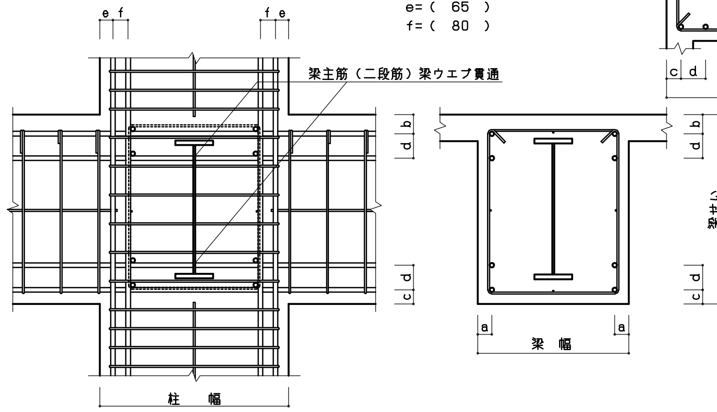
10.1 SRC柱梁接合部の配筋要領(1)



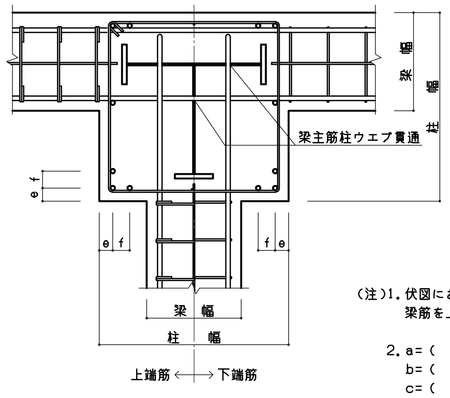


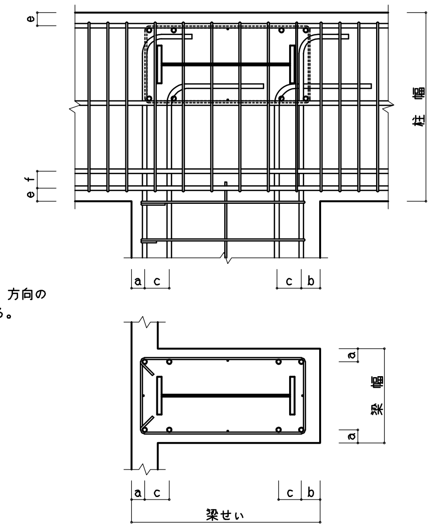
(注)1.伏図における(Y)方向の梁筋を上側配筋とする。

2. a=(90)
b=(70)
c=(105)
d=(70)
e=(65)
f=(80)



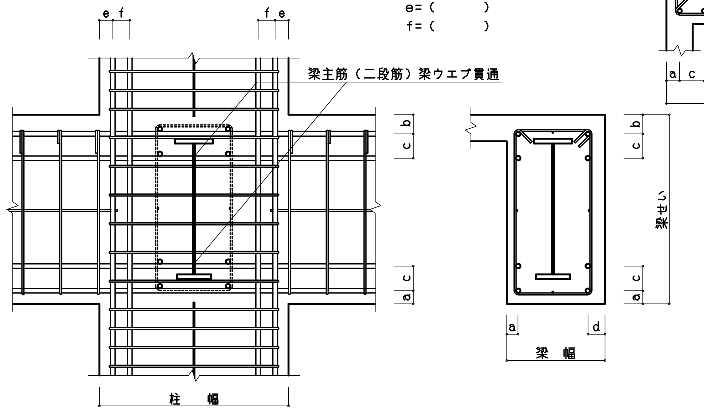
10.3 SRC柱梁接合部の配筋要領(3)



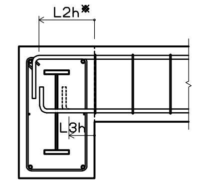


(注)1.伏図における( )方向の梁筋を上側配筋とする。

2. a=( )
b=( )
c=( )
d=( )
e=( )
f=( )



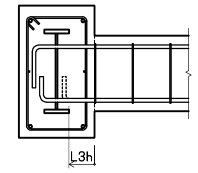
10.6 小梁主筋定着要領



(注)1.下端筋がウェブに当たる場合は、手前に定着してよい。

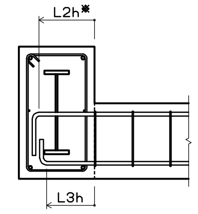
※L2hを確保できない場合は、㊖0.4(d)(2)によることができる。

小梁筋が梁筋の上にある場合



(注)下端筋がウェブに当たる場合は、手前に定着してよい。

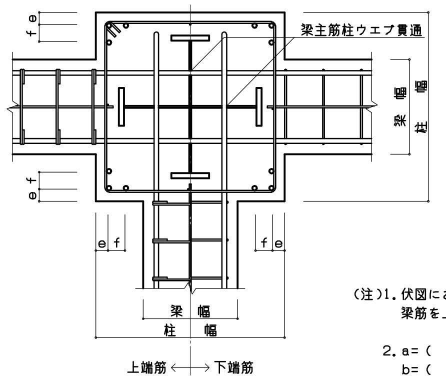
段差のある場合(1)

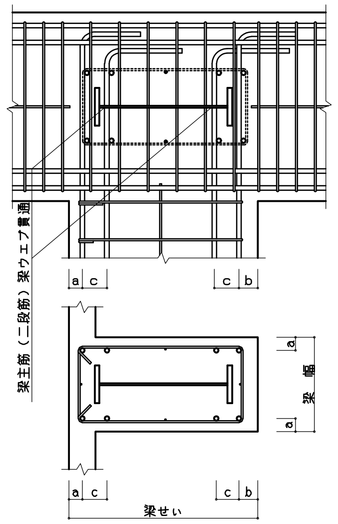


※L2hを確保できない場合は、㊖0.4(d)(2)によることができる。

段差のある場合(2)

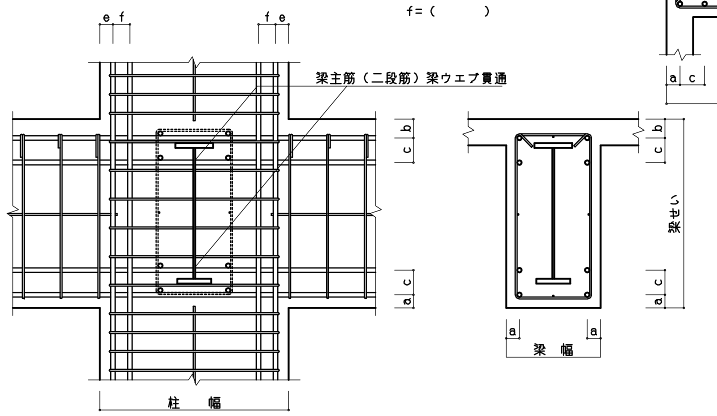
10.2 SRC柱梁接合部の配筋要領(2)





(注)1.伏図における( )方向の梁筋を上側配筋とする。

2. a=( )
b=( )
c=( )
e=( )
f=( )

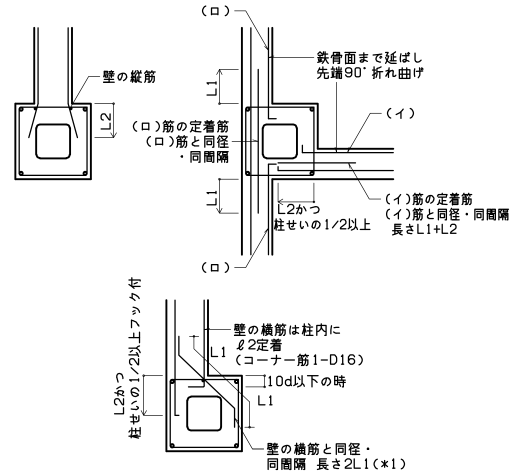


10.4 鉄筋貫通孔標準

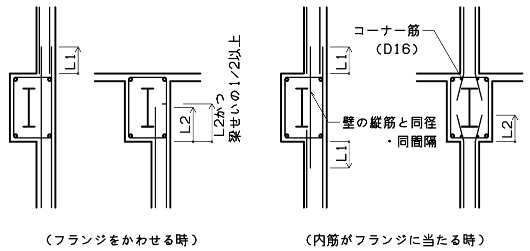
(注)1.柱ウェブ、梁ウェブに鉄筋貫通孔を設ける場合の孔径は本表の値以下とする。
2.柱フランジ、梁フランジには原則として鉄筋貫通孔を設けない。

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
貫通孔径	21	24	28	31	35	38	43	46	50	53	56

10.5 壁筋定着要領

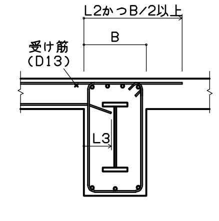


柱内への定着 (*1)の配筋による定着ができない場合は別途協議のうえ定着方法を定める。

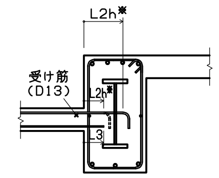


梁内への定着

10.7 スラブ筋定着要領



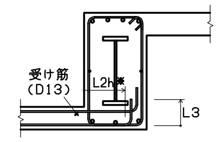
下端筋が鉄骨フランジに当たる場合



(注)1.ウェブに当たる場合は、手前に定着してよい。

※L2hを確保できない場合は、㊖0.4(d)(2)によることができる。

スラブ段差のある場合



※L2hを確保できない場合は、㊖0.4(d)(2)によることができる。

梁下端に合わせてスラブが取り合う場合

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	
		. .	

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口(長辺方向)の大きさ	ℓ	梁のスパン,片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E,F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h,L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口(円孔)の大きさ				

高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026.06.30 検図者: 山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事(建築)

標準配筋要領図(9)

構 (通し番号 59)
6 - 9

No. J-240623-D

J240623D 623SDR-09.DWG 26/01/09 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC
'25.05.21 RC・PC研究会 作成
780×570

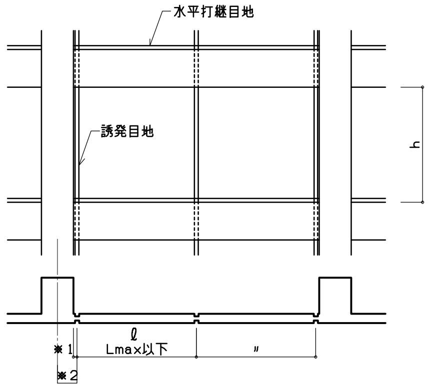
ひび割れ対策要領図

注)1. ⊙印の付いたものを適用する。この場合※印があってもそれは適用しない。ただし、⊙印のない場合は※印の付いたものを適用する。

1. 誘発目地

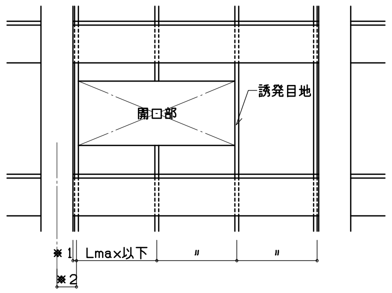
1.1 誘発目地位置

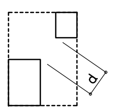
(a) 誘発目地位置の原則
壁の誘発目地の位置は原則以下による。



(注)1. 誘発目地の間隔は、Lmax(※3000 ・2000 ・)以下とする。
2. 目地は柱際に設けることを原則とする。柱際から離す場合にも※1が500以下かつ※2が1500以下とする。
3. 目地に囲まれる壁内法面積は25m² 以下とする。
4. 面積が小さい壁を除き辺長比(ℓ/h)は1.25以下とする。
5. 梁には目地は設けない。

(b) 開口がある壁
開口がある壁の場合の誘発目地の位置は原則以下による。

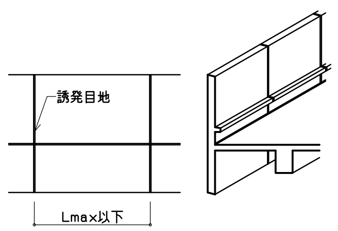




d(開口間の最小寸法)が500mm以下は一つの開口として扱う。

(注)1. 誘発目地間隔Lmaxは(a)による。
2. 誘発目地は、開口部のコーナーを通るように配置する。開口長さがスパンの1/4以上の場合は原則両側に設ける。

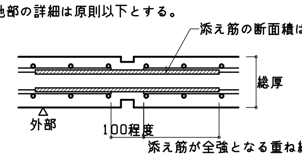
(c) 手すり壁、垂れ壁
手すり壁、垂れ壁の誘発目地の位置は原則以下による。



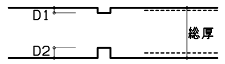
(注)1. 誘発目地間隔Lmaxは(a)による。

1.2 耐震壁(EW)誘発目地詳細

(a) 壁厚(総厚)250以下の場合
目地部の詳細は原則以下とする。

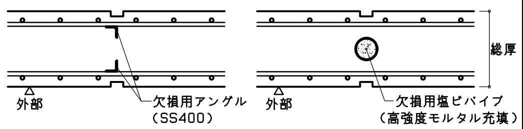


(注)1. 欠損率は(※25% ・)とする。



2. 外壁の場合の添え筋は(※エポキシ樹脂塗装鉄筋 ・普通鉄筋 ・目地部塗装普通鉄筋 ・溶融亜鉛めっき鉄筋) とし、重ね継手長さは(※1.2L1 ・L1)とする。
3. 内壁の場合の添え筋は(※普通鉄筋 ・)とし、重ね継手]長さは(※L1 ・)とする。
4. 鉄筋格子については誘発目地に沿って切断(※する ・しない)
5. 開口補強筋については誘発目地に沿って切断しない。
6. かぶり厚さは、目地部分でも最小かぶり厚さ以上を確保する。
7. 横筋と添え筋の位置を平面的にずらす場合は、横筋を縦筋の内外に変える、縦に捨て筋を流す等により対処する。
8. 添え筋に目地部塗装普通鉄筋を使用する場合の塗装範囲は、目地中央から両側100程度とする。

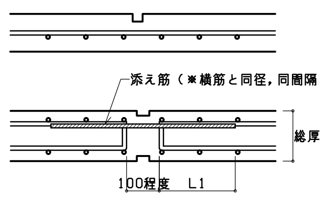
(b) 壁厚(総厚)250を超える場合
外壁の目地部には欠損材を(※使用する。 ・使用しない。)
外壁の目地部の欠損率は、
(※欠損材を含み25% ・規定せず打増し厚さ+10mmの目地深さ
・)とする。
内壁の目地部には欠損材を(・使用する。 ※使用しない。)
内壁の目地部の欠損率は、
(・欠損材を含み25% ※規定せず打増し厚さ+10mmの目地深さ
・)とする。
目地部に欠損材を使用しない場合の詳細は1.2(a)に準ずるが、横筋の切断は行わない。
目地部に欠損材を使用する場合の詳細は原則以下のどちらか、又は同等の方法とする。



(注)1. 目地部の鉄筋及び欠損用アングルは防錆塗装(※する。 ・しない。)
目地部鉄筋の塗装範囲は目地中央から両側100程度とする。
2. 鉄筋格子については誘発目地に沿って切断(※する。 ・しない。)
3. 開口補強筋については誘発目地に沿って切断しない。
4. かぶり厚さは、目地部分でも最小かぶり厚さ以上を確保する。
5. 欠損材にアングルを用いる場合は以下の部材断面とする。
なお、記載の断面は監理者との協議の上、承認を得られたものについては変更することができる。
・250<t≦350:L-20x20x3
・350<t≦500:L-40x40x3
・500<t≦700:L-70x70x6

1.3 非耐力壁の誘発目地詳細

目地部の詳細は原則以下とする。



(注)1. 欠損率は(※25% ・)とする。
2. 外壁の場合の添え筋は(※エポキシ樹脂塗装鉄筋 ・普通鉄筋 ・目地部塗装普通鉄筋 ・溶融亜鉛めっき鉄筋) とする。
3. 内壁の場合の添え筋は(※普通鉄筋 ・)とする。
4. 鉄筋格子については誘発目地に沿って切断する。
5. 開口補強筋については、誘発目地に沿って切断(※する。・しない。)

1.4 地下外壁の誘発目地

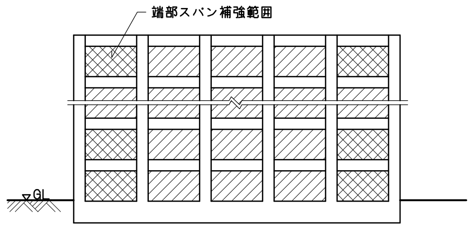
地下外壁においてコンクリート打継部に設ける目地以外に、誘発目地を
(※設けない。 ・設ける。)

(注)1. 誘発目地部には
(※非加硫ブチルゴム製止水板幅200程度を打ち込む。・)

2. ひび割れ補強

2.1 端部スパン補強筋

外壁に端部スパン補強筋を(※設ける。 ・設けない。)
内壁に端部スパン補強筋を(※設ける。 ・設けない。)
補強筋を設ける場合の範囲及び方法は以下とする。



(注)1. 補強筋を設ける範囲は(※地上1,2階及び最上階の両端1スパン
・)とする。
2. 補強方法は、
(※壁筋の間隔が縦筋・横筋共に1/2となるように壁筋と同径により補強する。
・壁筋と合わせて壁筋比1.0%以上とする。
・壁筋に加えD @ を追加する。)

2.2 外壁大梁の腹筋補強

外壁大梁の外壁側腹筋補強を(※行わない。 ⊙行う。)
補強を行う場合の腹筋は(※断面表の腹筋を@200とする。 ・)
補強を行う場合の腹筋の定着長さはL2、重ね長さはL1とする。

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	
		. .	

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口(長辺方向)の大きさ	ℓ	梁のスパン,片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E,F	柱梁の打増寸法	L1h	フック有り継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h,L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口(円孔)の大きさ				

髙橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026.06.30 検図者: 山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事(建築)

ひび割れ対策要領図

構 (通し番号 60)
6 -10

No. J-240623-D

J240623D 623SDR-10.DWG 26/05/19 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC

'25.05.21 RC・PC研究会 作成

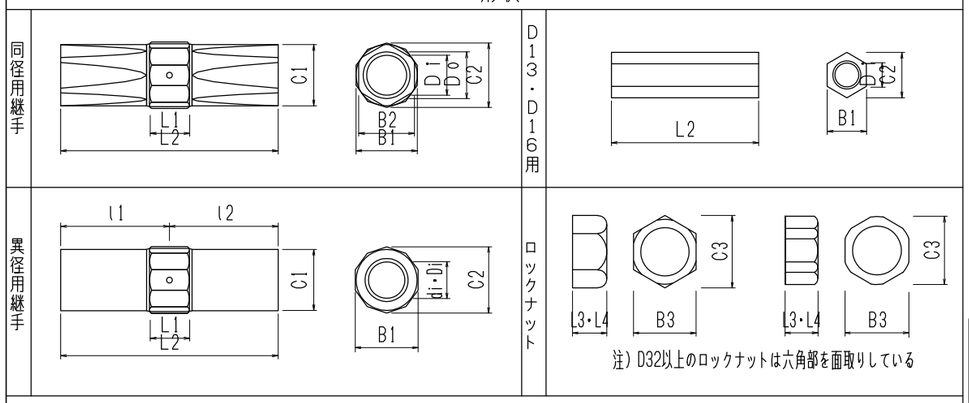
780×570

機械式継手標準書

無機グラウト継手・樹脂グラウト継手

評定番号（SD490以下）	日本建築センターＡ級　ＢＣＪ評定－ＲＣ００２１－１０同等品
適用サイズ	Ｄ１３～Ｄ５１
適用鋼種	ＳＤ２９５～ＳＤ４９０

形状



注）D32以上のロックナットは六角部を面取りしている

寸法表（カプラー・ロックナット）

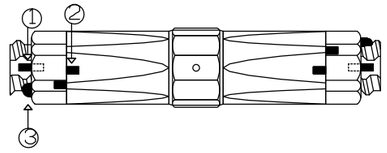
同径用継手

呼び名	カプラーナット 円形部 直径 C1	カプラーナット 十角部(D13・D16は全て六角) 対辺 B1	対角 C2	長さ L1	六角部 対辺 B2	ロックナット 六角部 対辺 B3	対角 C3	継手長さ カプラー L2	ロックナット L3	ネジ部形状寸法 ピッチ P	内径 D1	谷径 D0
D13		20	23.1			20.0	23.1	75	15	7	12.4	14.7
D16		26	30.0			26.0	30.0	110	30	8	15.7	18.6
D19	29	31	32.6	30	28.3	28.2	32.6	110	20	8	18.9	22.3
D22	34	36	37.9	30	31.6	32.8	37.9	125	20	9	21.8	25.6
D25	38	40	42.1	30	36.0	36.5	42.1	140	20	10	24.8	29.0
D29	43	45	47.3	30	40.0	41.0	47.3	155	20	12	28.2	33.0
D32	48	50	52.6	40	44.6	45.6	48.0	190	30	13	31.4	36.6
D35	53	55	57.8	40	48.0	50.1	53.0	200	30	14	34.4	40.0
D38	57	59	62.0	40	51.5	53.7	57.0	215	30	15	37.5	43.5
D41	62	64	67.3	40	56.3	58.3	62.0	220	30	16	40.5	47.3
D51	76	80	84.0	60	66.8	70.0	76.0	240	40	20	49.2	57.8

異径用継手

	呼び名	カプラーナット 円形部 直径 C1	十角部 対辺 B1	対角 C2	長さ L1	継手長さ 細径ロックナット L3	カプラーナット 細径 l1	太径 l2	全長 L2	太径ロックナット L4	内径 細径 d1	太径 D1
1サイズ異径	D19×D22	34	36	37.9	30	20	55	63	118	20	18.9	21.8
	D22×D25	38	40	42.1	30	20	63	70	133	20	21.8	24.8
	D25×D29	43	45	47.3	30	20	70	78	148	20	24.8	28.2
	D29×D32	48	50	52.6	40	20	78	95	173	30	28.2	31.4
	D32×D35	53	55	57.8	40	30	95	100	195	30	31.4	34.4
	D35×D38	57	59	62.0	40	30	100	108	208	30	34.4	37.5
	D38×D41	62	64	67.3	40	30	108	110	218	30	37.5	40.5
	D41×D51	76	80	84.0	60	30	110	120	230	40	40.5	49.2
2サイズ異径	D19×D25	38	40	42.1	30	20	55	70	125	20	18.9	24.8
	D22×D29	43	45	47.3	30	20	63	78	141	20	21.8	28.2
	D25×D32	48	50	52.6	40	20	70	95	165	30	24.8	31.4
	D29×D35	53	55	57.8	40	20	78	100	178	30	28.2	34.4
	D32×D38	57	59	62.0	40	30	95	108	203	30	31.4	37.5
	D35×D41	62	64	67.3	40	30	100	110	210	30	34.4	40.5
	D38×D51	76	80	84.0	60	30	108	120	228	40	37.5	49.2

無機グラウト継手



・施工管理項目（目視確認）

① かん合長さ検査

鉄筋のマーキング範囲内にロックナットの両端が入っている事を確認する。

② 締付け完了検査

ロックナットとカプラーのマークのずれを確認する。

③ グラウト材注入完了検査

ロックナットの両端からグラウト材が溢れ出ている事を確認する。

※ロックナットを使わない場合
（単体施工で直筋に対応）

① かん合長さ検査

鉄筋のマーキング範囲内にカプラーの両端が入っている事を確認する。

② 締付け完了検査

鉄筋とカプラーのマークのずれを確認する。

③ グラウト材注入完了検査

カプラーの両端からグラウト材が溢れ出ている事を確認する。

マーキングの長さ	
Ｄ１３	１５mm
Ｄ１６～Ｄ２９※	２０mm
Ｄ３２～Ｄ５１	３０mm

鉄筋突合せ間隔許容範囲	
Ｄ１３	０～１５mm
Ｄ１６～Ｄ２９※	０～２０mm
Ｄ３２～Ｄ５１	０～３０mm

※ロックナットを使わない場合の鉄筋突合せ間隔許容範囲は全サイズ0mmとする。

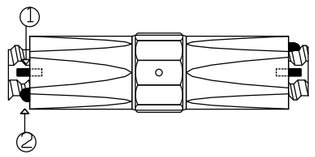
締付けトルク値	
Ｄ１３	６０Ｎ・ｍ
Ｄ１６	１００Ｎ・ｍ
Ｄ１９～Ｄ５１	１８０Ｎ・ｍ

グラウト材	
簡易フロー合格値	120mm～200mm
使用水量	1800ｇ～2000ｇ

グラウト材可使時間	
０℃	６０分
２０℃	１２０分
４０℃	１２０分

※D29 GLタイプのみ、マーキング長さ30mm
鉄筋突合せ間隔許容範囲を0～30mmまでとする。

樹脂グラウト継手



・施工管理項目（目視確認）

① かん合長さ検査

鉄筋のマーキング範囲内にカプラーの両端が入っている事を確認する。

② エポキシ剤注入完了検査

カプラーの両端からエポキシ剤が溢れ出ている事を確認する。

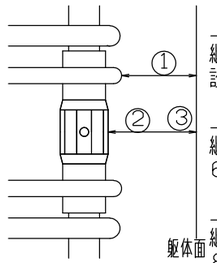
注）エポキシ剤の耐火性能を確保するため、継手表面よりのかぶり厚さを定める（右表参照）。

※D29 GLタイプのみ、マーキング長さ30mm
鉄筋突合せ間隔許容範囲を0～30mmまでとする。

マーキングの長さ	
Ｄ１３	１５mm
Ｄ１６～Ｄ２９※	２０mm
Ｄ３２～Ｄ５１	３０mm

鉄筋突合せ間隔許容範囲	
Ｄ１３	０～１５mm
Ｄ１６～Ｄ２９※	０～２０mm
Ｄ３２～Ｄ５１	０～３０mm

必要かぶり厚（継手表面より）	
１時間耐火構造	設計図書以上
２時間耐火構造	６０mm以上
３時間耐火構造	８０mm以上



必要かぶり厚

① １時間耐火構造
継手部せん断補強筋より設計図書以上のかぶり厚

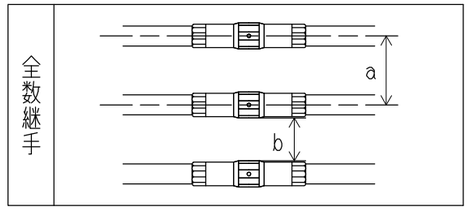
② ２時間耐火構造
継手部表面（十角部）より６０mm以上のかぶり厚

③ ３時間耐火構造
継手部表面（十角部）より８０mm以上のかぶり厚

機械式継手仕様

隣り合う継手の位置

全数（同列）継手で施工してよいものとする。

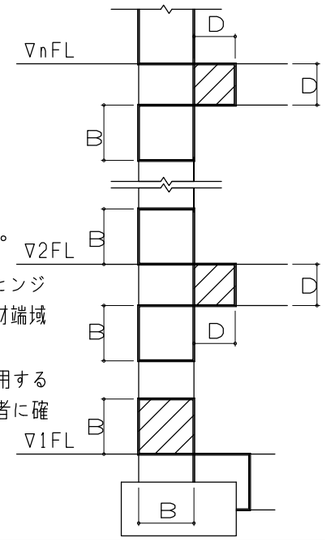


鉄筋の間隔

a：鉄筋中心間隔はJASS5の呼び名の1.5倍+最外径以上。

b：継手と継手のあきは粗骨材の最大寸法以上。

継手の使用位置



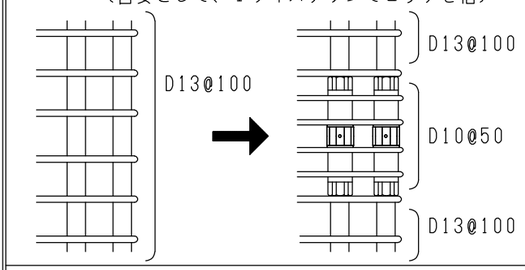
：材端域を示す。

：一般的に降伏ヒンジが想定される材端域を示す。

※材端域で継手を使用する場合は、構造設計者に確認が必要。

継手部のせん断補強筋

継手部のせん断補強筋のサイズを下げても、枚数を増やすことによって必要せん断補強筋量を満たす。
（目安として、１サイズダウンでピッチを倍）



継手作業資格

継手工事責任者・継手作業者および工事管理者は、東京鉄鋼（株）による仕様書の内容及び実技の講習を受け、継手作業資格認定証を取得しなければならない。

継手引張試験

継手施工前に引張試験を行うこととする。
試験詳細については、設計施工指針を参照のこと。

書工	. .	. .	
検工	. .	. .	
監理		. .	
施工		. .	

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

構　（通し番号　61）
6－11

機械式継手標準書

No. J－240623－D

J240623D 623SDR-11.DWG 26/03/02 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC

780×570

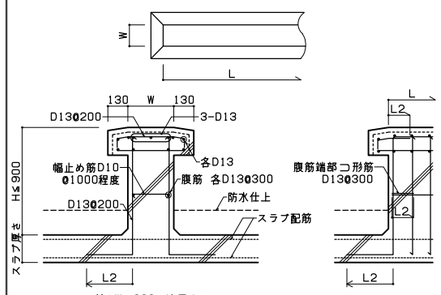
各部配筋詳細図（1）

機械基礎要領図

注記）当該部の施工に先立ち機器と基礎の重量、および配筋情報を構造設計者に提出し確認を受けること。

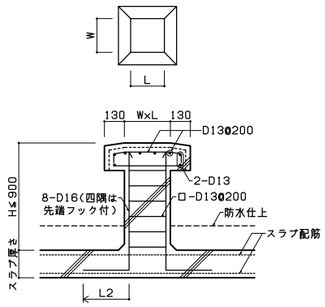
本要領は、スラブにより支持される基礎を対象としたものであり、異なる支持方法とする場合は別図による。

タイプ A -梁形基礎（躯体一体式）



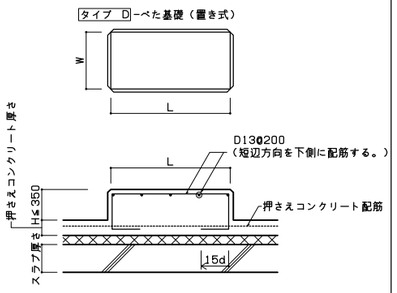
（注）W≦600に適用する。

タイプ B -独立基礎（躯体一体式）



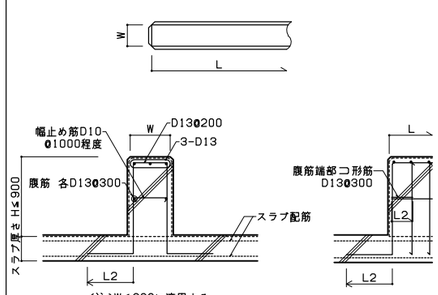
（注）W≦600に適用する。

タイプ D -べた基礎（置き式）



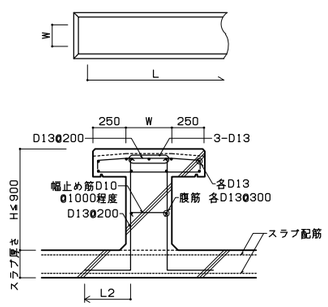
本要領は、スラブにより支持される基礎を対象としたものであり、異なる支持方法とする場合は別図による。

タイプ E -梁形基礎



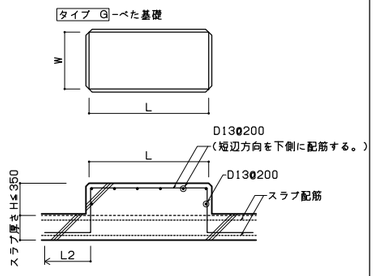
（注）W≦600に適用する。

タイプ F -梁形基礎（躯体一体式）



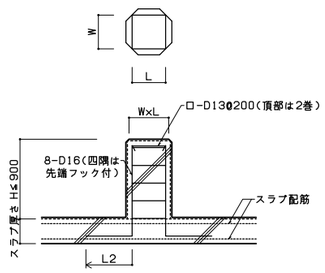
（注）W≦600に適用する。

タイプ G -べた基礎



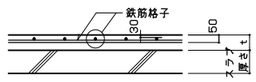
（注）タイプ I べた基礎（排水溝付き）も本図にならう

タイプ H -独立基礎



（注）W≦600に適用する。

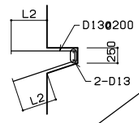
床スラブ増打ち・嵩上げコンクリート・押えコンクリート要領図



(t)	配筋補強
t≦150	溶接金網 6φ 100x100

土間コンクリート受け要領図

A1=1/30
A3=1/60



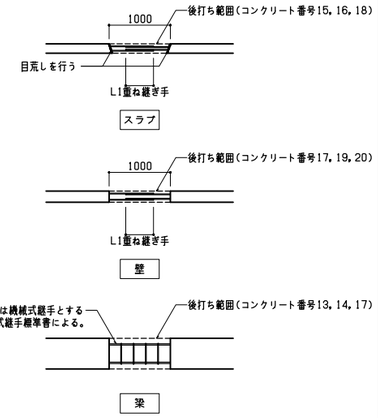
土間コンクリート受け要領図

配筋は意匠図の17-5標準配筋詳細図(5)を参照すること。

コンストラクションジョイント要領図

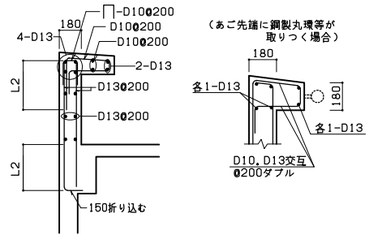
A1=1/ 50
A3=1/100

注記）
1. コンストラクションジョイント後打ち部分は先行コンクリート打設後3か月以上経過してから打つことを原則とし、具体的な時期については監理者の承認を得ること。



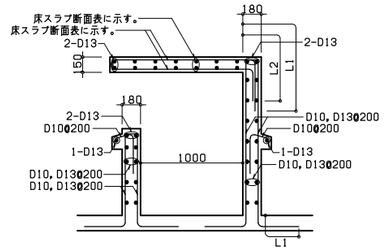
パラペット配筋要領図

A1=1/30
A3=1/60



ハト小屋配筋要領図

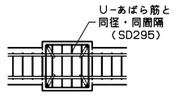
A1=1/30
A3=1/60



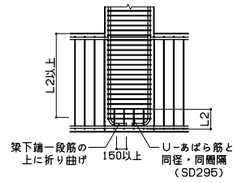
陸立ち柱配筋要領

陸立ち柱の柱脚部は、下記○印で示す納まりとする。
⊙受け梁の配筋を通す　・陸立ち柱の配筋を通す

受け梁の配筋を通す場合で梁幅の方が大きい場合の柱脚部の配筋は、
(要) 1.6（d）に準ずる。陸立ち柱の配筋を通す場合の配筋は、次による。



平面（下端筋位置）



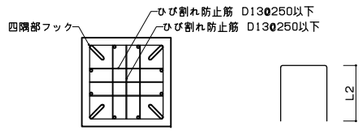
立面

陸立ち柱の配筋を通す場合
（両側の柱主筋が梁主筋の外側）

（注）1. 柱主筋の定着長さはL2かつ下端一段筋までとする。
柱主筋の定着長さL2が確保できない場合は、柱内へ折り曲げ全長でL2を確保する。

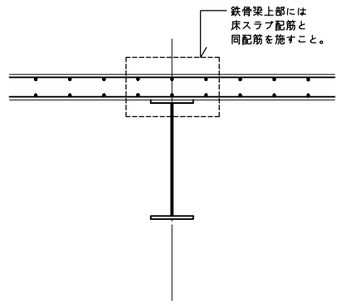
柱頭を立ち上げる場合の補強

柱頭部に梁が取り合わない場合、または柱頭部を取り合う梁天端よりも70以上立ち上げる場合には、次に示す柱頭ひび割れ防止筋を設ける。



（注）1. 最上階の柱頭に定着版を用いない場合、ひび割れ防止筋としてD13@250を設ける。
2. 最上階の柱頭に定着版を用いる場合の補強方法は、メーカー仕様による。

鉄骨梁上部床スラブ補強配筋要領図

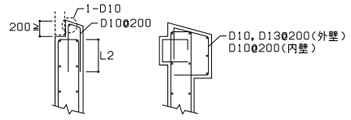


RC立上がり配筋要領

(a) RC立ち上がり壁を設ける必要がある部位・箇所範囲については意匠図による。
(b) RC立ち上がり壁高さささは、意匠図によるものほか、原則として、各種乾式壁が中間支点を設けることなく支持可能となるように、RC立ち上がり壁高さhを調整する。
(c)

	h(mm)	厚さt	配筋要領	備考
内壁	h≦400	160	たて筋：D10@200 ダブル千ドリ よこ筋：D10@200 ダブル千ドリ	
	400<h≦750	180	たて筋：D13@200 ダブル よこ筋：D13@200 ダブル	
	750<h≦1500	200	たて筋：D13@200 ダブル たて筋：D13@200 ダブル	
	1500<h≦2000	200	たて筋：D13@150 ダブル よこ筋：D13@200 ダブル	
外壁	h≦400	180	たて筋：D10, D13@200 ダブル よこ筋：D10, D13@200 ダブル	
	400<h≦750	180	たて筋：D13@200 ダブル よこ筋：D13@200 ダブル	
	750<h≦1500	200	たて筋：D13@200 ダブル たて筋：D13@200 ダブル	
	1500<h≦2000	200	たて筋：D13@150 ダブル よこ筋：D13@200 ダブル	

（注）1. h>2000となる場合は、監理者と協議の上、詳細を検討し、仕様を決定すること。
2. hは、スラブまたはRC・SRC大梁上端からの寸法とする。



(d) (c)に示す厚さtは構造上の寸法であり、仕上げを含んだ総厚は意匠図による。ただし、仕上げ・平面詳細納まりおよび壁接合アンカー・プレートとの納まり検討を行い監理者の承認が得られたものについては、厚さtおよび配筋を変更することができる。
(e) 本要領は意匠図にのみ記載があるRC立上りについての配筋要領であり、構造図上で符号が振られているものについては、記載している符号の配筋を正とする。

著工	. .	. .	
検工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	
		. .	

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026. 06 . 30　検図者： 山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

各部配筋詳細図（1）

構　（通し番号　62）
7 － 1

No. J－240623－D

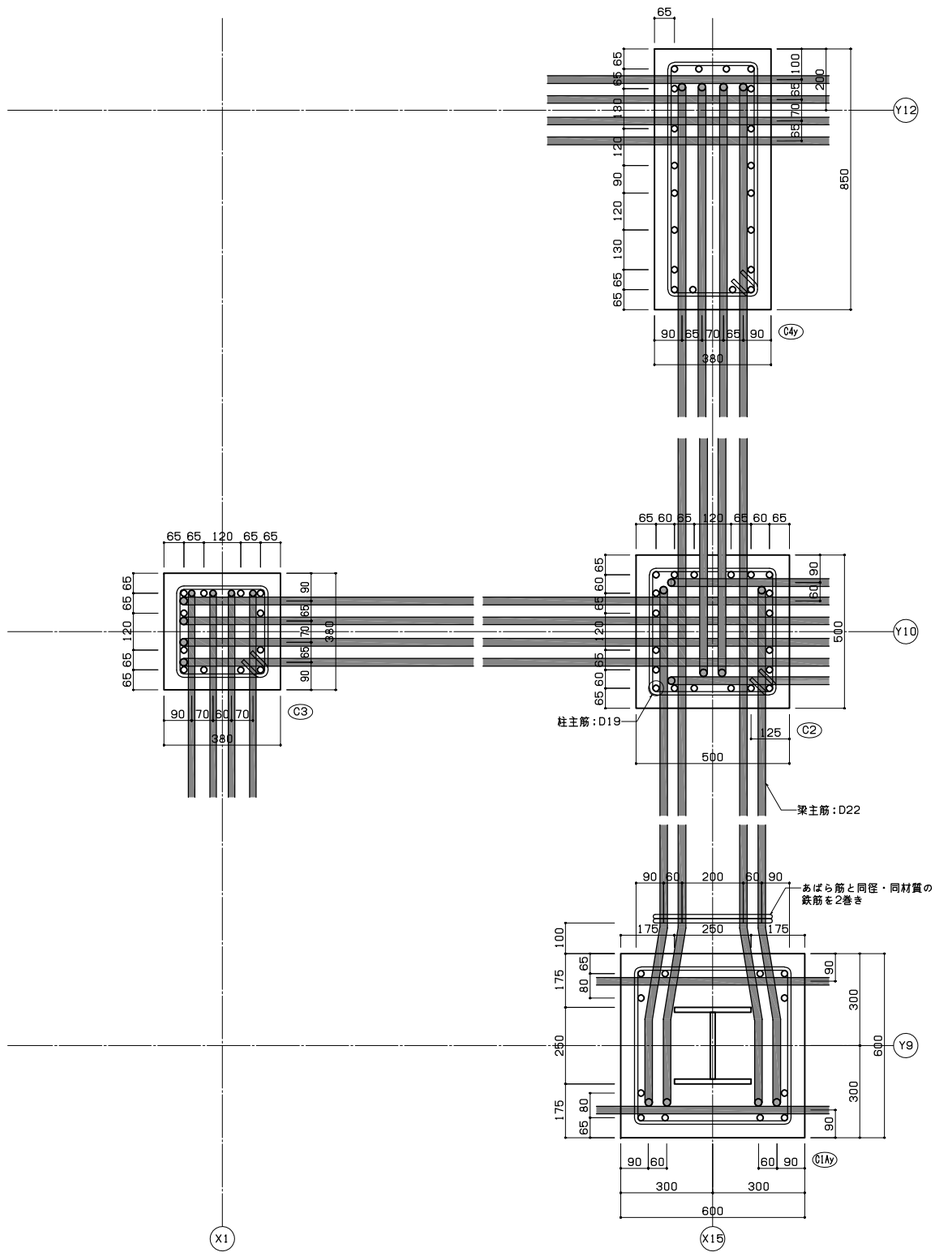
J240623D 623DR-01.DWG 26/04/10 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(続一ルール) 1/1 A1YFPC

*25.05.21 RC・PC研究会 作成

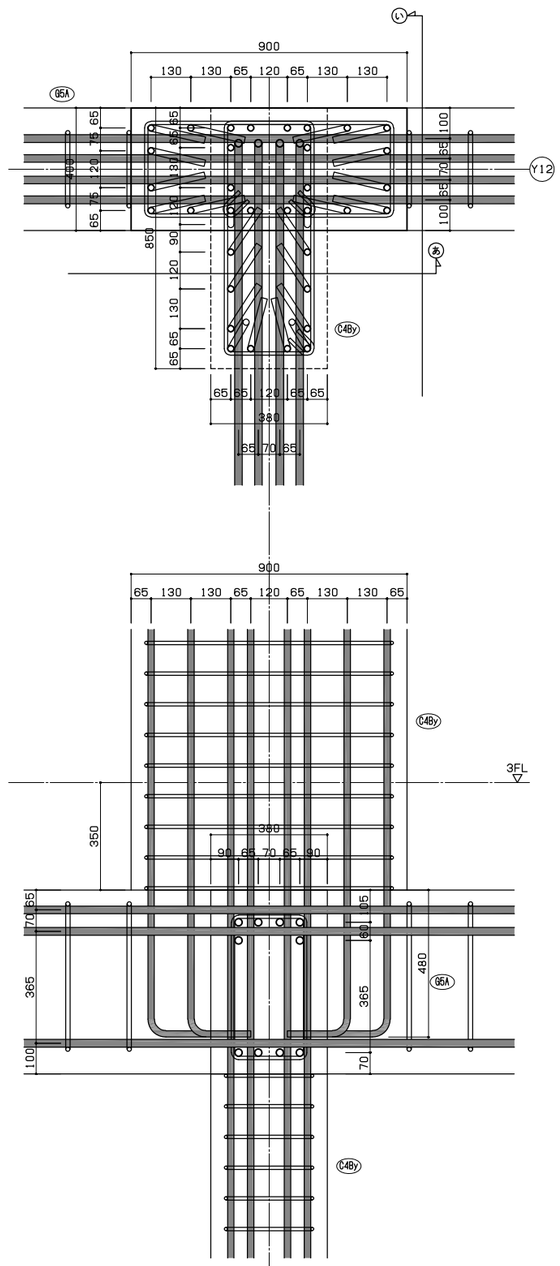
78 0×570

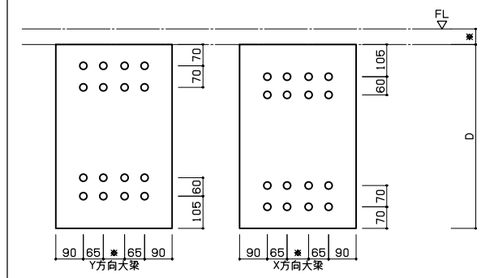
各部配筋詳細図（2）	A1:1/10 A3:1/20	注記）　記入なき限り下記による。

一般部柱梁配筋要領図

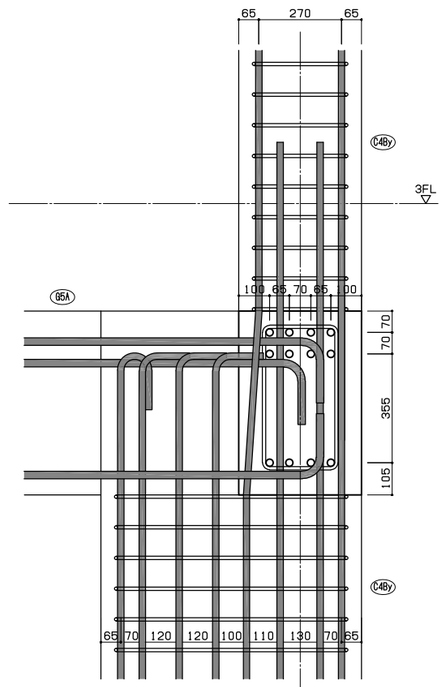


C4By配筋要領図





大梁主筋位置図



あ矢視図　い矢視図

着工			
竣工			
監理			
施工			

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

各部配筋詳細図（2）　A1=1/10　A3=1/20

構　（通し番号　63）
7 － 2

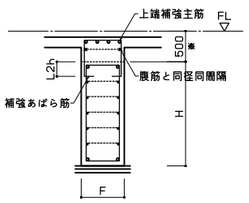
No. J－240623－D

J240623D 623DR-02.DWG 26/06/17 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/10 A1YFPC

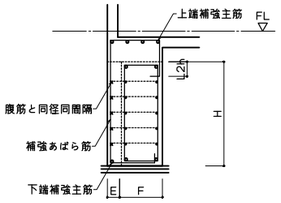
78 0 × 5 7 0

各部配筋詳細図（3）	A1:1/50 A3:1/100	注記）　記入なき限り下記による。

基礎梁打増補強



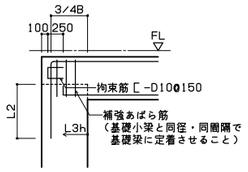
梁上の打増



梁上・横の打増

梁幅F	上端補強主筋	打増寸法E	下端補強主筋
700≦F＜900	4-D19	E≦200	1-D19
900≦F＜1100	5-D19		
1100≦F＜1400	6-D19	200＜E≦400	2-D19
1400≦F＜1600	7-D19		

（注）1. 補強あばら筋は、基礎梁あばら筋と同径・同間隔とする。
2. 梁上打増しが200mmを越える場合、腹筋および
幅止め筋を設けること。ともに基礎梁と同径・同間隔とする。
3. 補強主筋は、基礎内に折り下げ定着させること、定着長は基礎
天端からL2確保すること。ただし、通し配筋ができる場合は
この限りではない。また、折り下げ部は、拘束筋［-D100150を
鉛直方向に設けること。
4. 直交方向から基礎小梁が段違いで取り合う場合は下図による。



小梁主筋は取り合う基礎梁幅の3/4以上飲み込ませたうえで
基礎梁内にL2定着させること。

5. 基礎梁上端レベルと床上端レベルと床上端レベルの差が
800を超える場合、上記に記載されている補強主筋はD22に読み替えるものとする。

着工	. .	. .
竣工	. .	. .
監理		. .
		. .
施工		. .
		. .

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026. 06. 30　　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

各部配筋詳細図（3）　A1=1/50　A3=1/100

構　（通し番号　64）
7 － 3

No. J－240623－D

J240623D 623DR-04.DWG 26/04/13 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1（統一ルール） 1/50 A1YFPC

78 0×570

鉄骨柱梁仕口基準詳細図

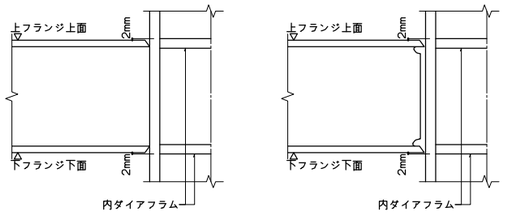
基本事項

（注）記入無き限り次による。

1. 使用する鋼板の板厚は原則として、6, 9, 12, 16, 19, 22, 25, 28, 32, 36, 40とし、40mmを超えるものは40mmから5mm毎とする。
2. 鋼材の板厚については「1サイズアップ」,「2サイズアップ」,「3サイズアップ」と表現してある場合は1.の板厚から厚いものを選択する。
3. 形鋼の板厚については「1サイズアップ」を「形鋼の板厚+2mm以上の鋼板」,「2サイズアップ」を「形鋼の板厚+5mm以上の鋼板」,「3サイズアップ」を「形鋼の板厚+9mm以上の鋼板」と読み換えるものとし、1.の板厚から選択する。
4. 板厚が40mmを超える鋼板はTMCP鋼（大臣認定品）とする。
5. 工場溶接部の仕口フランジ完全溶込み溶接部で裏当て金形式とする場合はノンスカラップ工法とし鋼製エンドタブを用いる。
6. 工事現場溶接部の完全溶込み溶接部は、裏当て金付き溶接とする。
   スカラップの形状は、構造特記7. 6. 7溶接施工　d. 完全溶込み溶接部のスカラップ形状の項による。
   反転スカラップの詳細は、「反転スカラップ梁端工事現場接合工法標準仕様書」による。

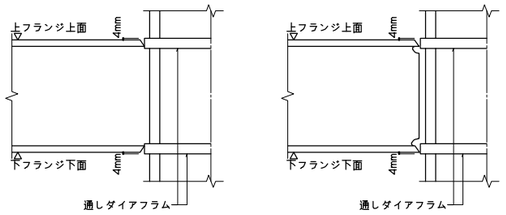
仕口部に関する基準

1. 柱通しタイプの梁フランジと内ダイアフラムのレベル設定



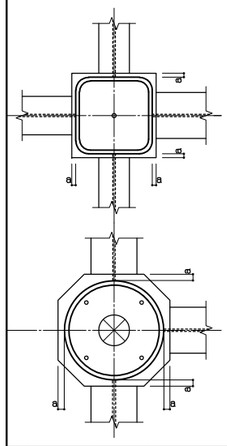
梁端部工場溶接の場合　　梁端部現場溶接の場合

2. 通しダイアフラムタイプの梁フランジとダイアフラムのレベル設定



梁端部工場溶接の場合　　梁端部現場溶接の場合

3. 通しダイアフラムの出寸法について
   通しダイアフラムの出寸法は特記なき限り下式下表により、柱板厚から求まるa1とダイアフラム板厚から決まるa2のうち大きい方と同寸法とする。



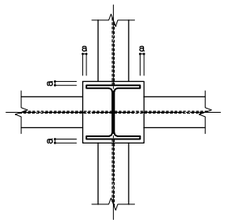
a=max（a1, a2）

表1. a1寸法

柱板厚	9~32	33~50	55~70	75~90	95~100
a1	30	35	40	45	50

表2. a2寸法

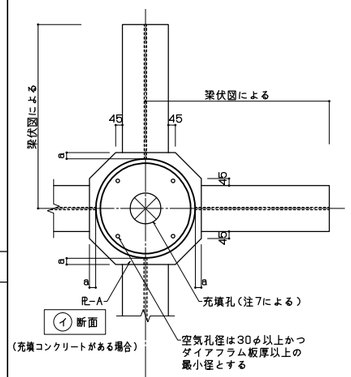
ダイアフラム板厚	~50	55~65	70~85	90~100
a2	30	35	40	45

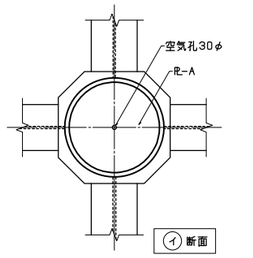


鋼管柱仕口部要領

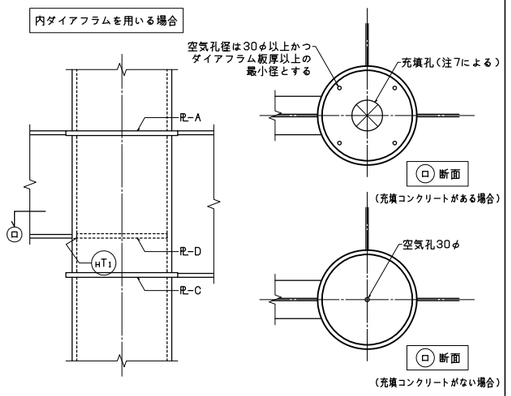
注）1. 本図の適用範囲は、仕口部の柱材質が取合う梁材質と同強度以上である場合とする。
2. 「通しダイアフラムの場合」と「内ダイアフラムを用いる場合」の適用は記入なき限り「通しダイアフラムの場合」を適用し、図中のf寸法が規定を満足しない場合は中間ダイアフラムを内ダイアフラムとする。

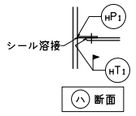
通しダイアフラムの場合

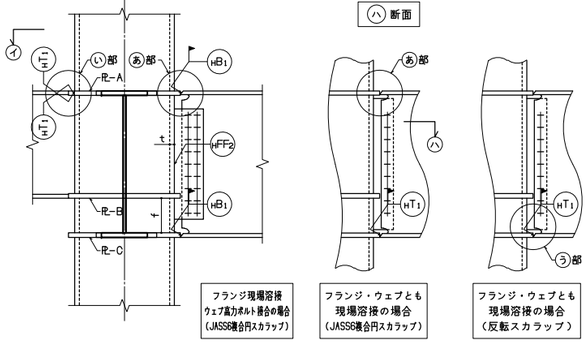




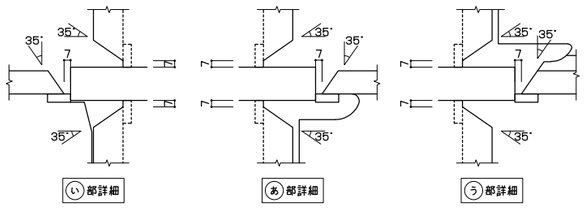
内ダイアフラムを用いる場合







フランジ現場溶接 ウェブ高力ボルト接合の場合（JASS6適合円スカラップ）　　フランジ・ウェブとも現場溶接の場合（JASS6適合円スカラップ）　　フランジ・ウェブとも現場溶接の場合（反転スカラップ）



（注）仕口部の溶接は原則としてノンスカラップ工法とする。
詳細は溶接開先基準図による。

（注）以下1~7は通しダイアフラムの場合に適用する。

1. PL-A, B, Cの材質は柱部材と同強度以上のC材とする。
2. PL-A, B, Cの板厚は次による。
   ＊取合う梁フランジ板厚の+8mmアップ以上かつ取合う柱の最大板厚の3サイズダウン以上
   ・（　　）
3. f寸法は下式満足する。満足しない場合はP-Bを内ダイアフラムとし、右図「内ダイアフラムを用いる場合」による。
   $f \geq 2t \times \tan\alpha + 15 + 2 \times (7 + t \times \tan 35^\circ)$
   t：柱板厚
   α：屈折角（65°又は70°）
4. a寸法は「仕口部に関する基準　3. 通しダイアフラムの出寸法について」による。
5. ダイアフラム形状は、監理者の承認を得られた場合、四角形形状とすることが出来る。
6. 仕口部内鋼管の板厚は上下階柱のうち最大厚と同厚以上とし、材質は上下階柱のうち上位材質と同じとする。
7. 充填孔は内法面積の15%以上かつ圧入の場合は圧入管以上、落し込みの場合はトレミー管が入るサイズ以上とし、10mm単位で丸めた最小寸法とする。それを超える孔径となる場合は監理者との協議による。

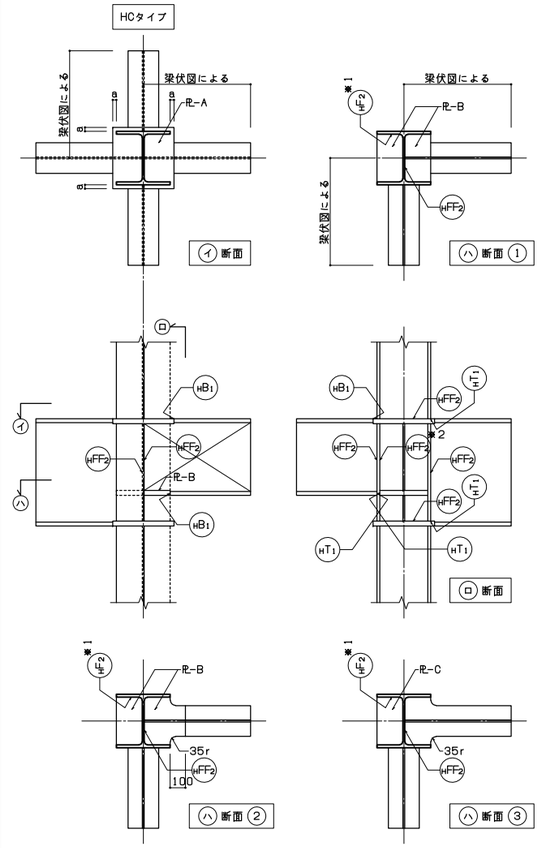
以下8~10は内ダイアフラムを用いる場合に適用し、これ以外は上記1, 2, 4, 5, 7による。

8. ダイアフラムPL-Dの板厚は次による。
   ＊柱に取付く梁フランジの最大板厚の1サイズアップ以上
   ・（　　）
9. PL-Dの材質は梁と同強度以上のB材とする。
10. 仕口部内鋼管の板厚及び材質は次による。
   ・柱断面表による。
   ・上下階の鋼管柱と同厚以上とし、材質は（＊上下階柱のうち上位材質と同材質　・　　）とする。但し、取合う大梁フランジ板厚が柱板厚の3サイズアップを超える場合は、監理者との協議による。
   ・上下階の鋼管柱と同厚以上で、かつ内ダイアフラムと取合う梁フランジ板厚以上とし、材質は（＊上下階柱のうち上位材質と同材質　・　　）とする。

H形柱仕口基準図

基本事項
注）記入無き限り下記による。
1. 下記に示す各仕口タイプの適用は柱断面表等による。

HCタイプ



（注）1. ハ断面の適用は次による。
   ・断面表等に記入なき限りハ断面①を適用する。
   ・断面表等に記入のある場合、又は監理者の承認が得られた場合はハ断面②を適用する。
   ・断面表等に記入がある場合、又は監理者の承認が得られた場合はハ断面③を適用する。
   但し、柱弱軸に取合う梁フランジ板厚が、同レベルで柱強軸に取合う梁フランジの1サイズアップ以上となっていることを前提とする。これを満足しない場合は監理者との協議による。
2. PL-Aの材質は柱と同強度以上のC材とする。
   板厚は次による。
   ＊取合う梁フランジの最大板厚の+8mmアップ以上かつ柱フランジ板厚の3サイズダウン以上
   ・（　　）
3. PL-Bの材質は梁と同強度以上のB材とする。
   板厚は次による。
   ＊柱強軸方向に取合う梁フランジの最大厚の1サイズアップ以上かつ弱軸方向から取合う梁フランジと食い違いが生じない板厚
   ・（　　）
4. PL-Cの材質は梁と同強度以上のB材とする。
   板厚は次による。
   ＊柱強軸方向に取合う梁フランジの最大板厚の1サイズアップ以上かつ弱軸方向から取合う梁フランジと同厚以上
   ・（　　）
5. 仕口部内柱の板厚・材質は次による。
   ・柱断面表による。
   ・上下階の柱のうち、フランジ・ウェブともそれぞれの最大板厚と同厚以上とし、材質は（＊上下階柱のうち上位材質と同材質　・　　）とする。但し、取合う大梁フランジ板厚が柱板厚の3サイズアップを超える場合は、監理者との協議による。
   ・上下階の柱のうち、フランジ・ウェブともそれぞれの最大板厚と同厚以上とし、かつフランジ板厚はPL-Bと取合う梁フランジの板厚以上とする。
   材質は（＊上下階柱のうち上位材質と同材質　・　　）とする。
6. a寸法は「仕口部に関する基準　3. 通しダイアフラムの出寸法について」による。
7. ＊1は大梁フランジが取合う場合はHT1とする。
8. ＊2はWH部材の場合とする。

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026. 06. 30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

鉄骨仕口基準標準図　A1=1/20　A3=1/40

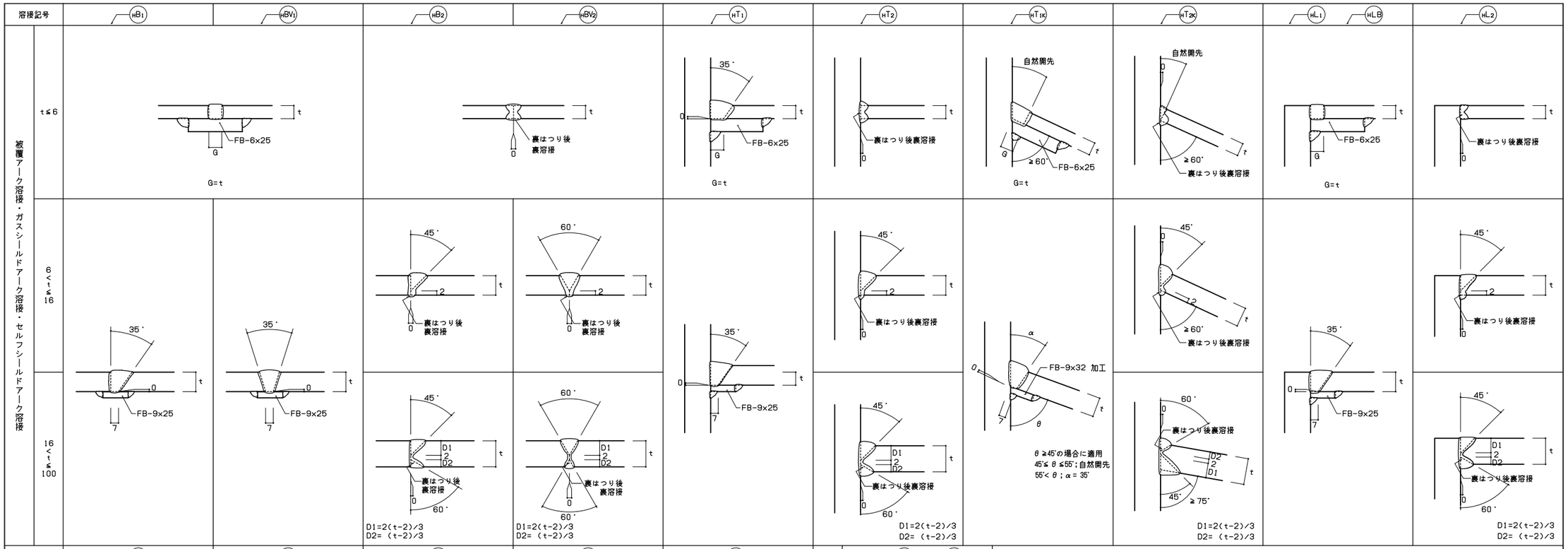
構　（通し番号　65）
8 － 1

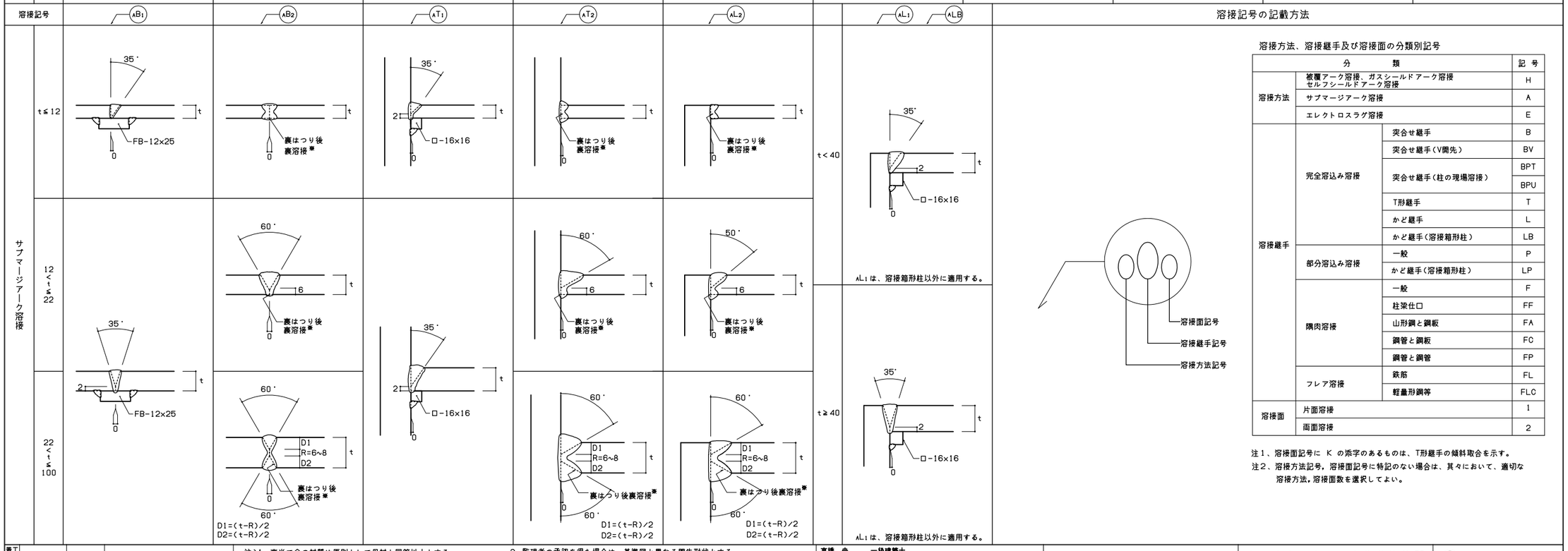
No. J－240623－D

J240623D 623DSJ-03.DWG 26/02/16 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1（統一ルール） 1/20 A1YFPC

*25. 02. 14 金属研標準要領図編集委員会 作成

780×570





溶接記号の記載方法

溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類別記号

分類			記号
溶接方法	被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接 セルフシールドアーク溶接		H
	サブマージアーク溶接		A
	エレクトロスラグ溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合せ継手	B
		突合せ継手（V開先）	BV
		突合せ継手（柱の現場溶接）	BPT
			BPU
		T形継手	T
		かど継手	L
		かど継手（溶接箱形柱）	LB
	部分溶込み溶接	一般	P
		かど継手（溶接箱形柱）	LP
	隅肉溶接	一般	F
		柱梁仕口	FF
		山形鋼と鋼板	FA
		鋼管と鋼板	FC
		鋼管と鋼管	FP
	フレア溶接	鉄筋	FL
		軽量形鋼等	FLC
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

注1、溶接面記号に K の添字のあるものは、T形継手の傾斜取合を示す。
注2、溶接方法記号，溶接面記号に特記のない場合は、其々において、適切な溶接方法，溶接面数を選択してよい。

着工	. .	. .
竣工	. .	. .
監理		. .
施工		. .

注）1. 裏当て金の材質は原則として母材と同等以上とする。
ただし、母材材質が520N級以上の場合は、監理者と協議の上、490N級とすることが出来る。また、板厚・サイズは参考とする。
2. サブマージアーク溶接にて完全溶込溶接を両面溶接とする場合、完全な溶込が得られたことが確認できる場合は、監理者の承認を得て，裏はつり（※印）を省略することができる。
3. 監理者の承認を得た場合は、基準図と異なる開先形状とすることが出来る。
4. 余盛高さは、特記なき限りJASS6による。

高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026. 06. 30　検図者： 山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

構　（通し番号 66）
8 － 2

溶接開先基準図（1）

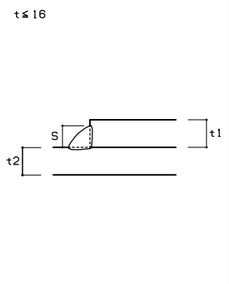
No. J－240623－D

J240623D 623SDW-01.DWG 26/01/14 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC

'02.09.25訂正 仕様書委員会 作成
'20.08.06 改定 金属研究会 作成
'24.12.24 改定 金属研究会 作成

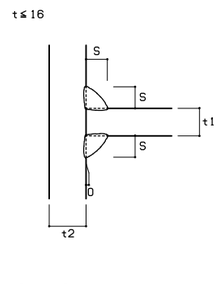
780×570

HF1



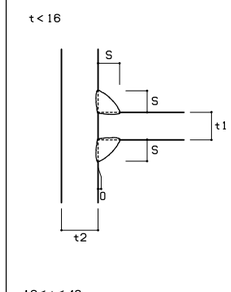
注）tはt1，t2の薄い方の板厚とする。

HF2



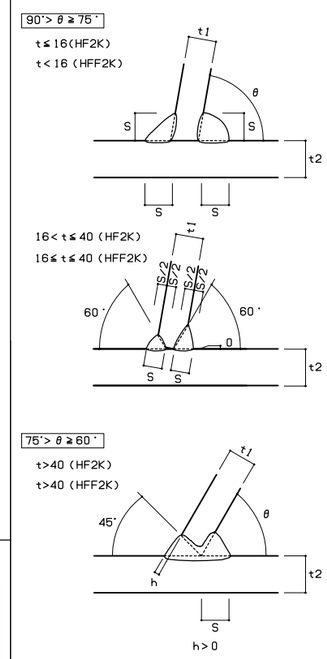
注）tはt1，t2の薄い方の板厚とする。

HFF2



注）tはt1，t2の薄い方の板厚とする。

HF2K HFF2K



SはHF2、HFF2による。

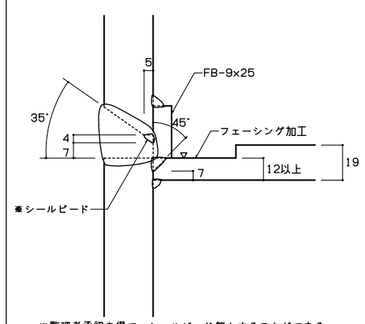
注）tはt1，t2の薄い方の板厚とする。

隅内溶接のサイズ

サイズ＼t		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	F	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	12	13	15	17	19	21	24
	FF	−	−	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	15	18	20	21	23	25	27	29

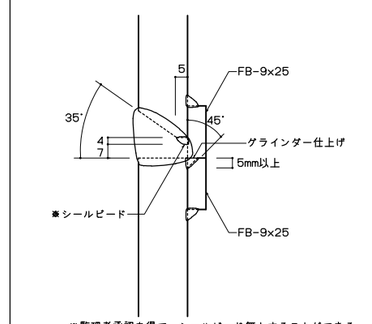
注） 特記なき場合は柱・梁仕口部の溶接は ＦＦ とする。
注） サブマージアーク溶接で施工する場合のルートフェイスは、溶接方法に応じた寸法とし事前に監理者の承認を得る。

BPT 柱の現場溶接（溶接箱形柱、鋼管、角形鋼管）



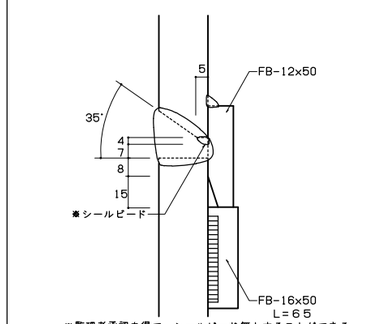
※監理者承認を得て、シールビード無とすることができる

BPU 柱の現場溶接（鋼管、角形鋼管、H形鋼）



※監理者承認を得て、シールビード無とすることができる

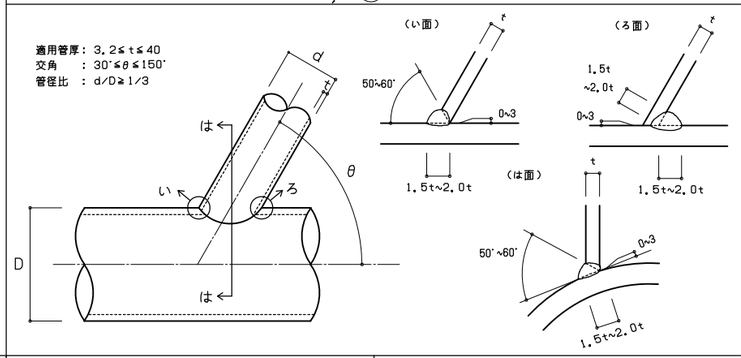
BPS 柱の現場溶接（鋼管、角形鋼管）



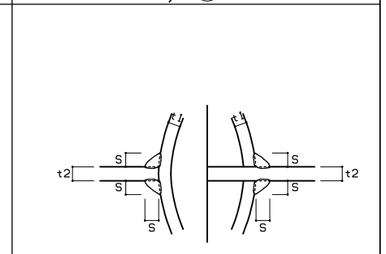
※監理者承認を得て、シールビード無とすることができる

HFP 鋼管と鋼管

適用管厚：3.2≦t≦40
交角　：30°≦θ≦150°
管径比　：d/D≧1/3

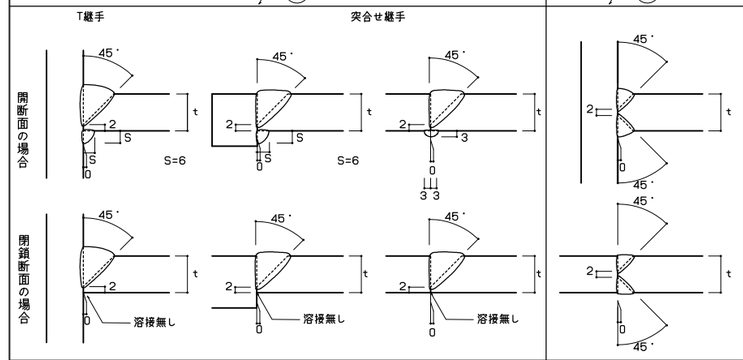


HFC 鋼管と鋼板

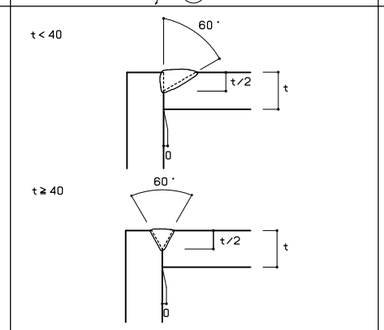


t1>6	S=t1
4≦t1≦6	S=6

HP1 HP2

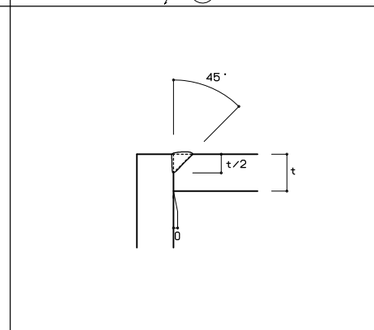


ALP 溶接箱形柱（部分溶込み溶接）

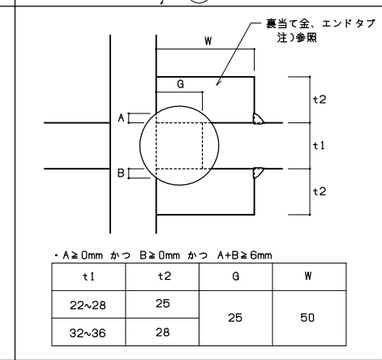


注） ALPとALBを連続させる場合は、
ALBの開先幅を考慮して開先角度を決定する。

HLP 溶接箱形柱（部分溶込み溶接）



ET エレクトロスラグ溶接



・A≧0mm かつ B≧0mm かつ A+B≧6mm

t1	t2	G	W
22~28	25	25	50
32~36	28		

裏当て金、エンドタブ

裏当て金の厚さ

溶接方法	厚さt(mm)
被覆アーク溶接	6以上
ガスシールドアーク溶接	9以上
サブマージアーク溶接	12以上

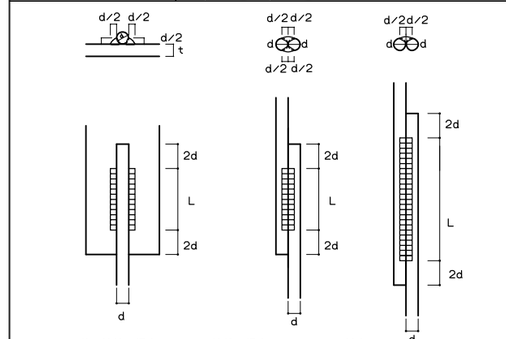
裏当て金のサイズ（S）

裏当て金の厚さ	サイズS(mm)
t≦9	6
t>9	7

エンドタブの長さ

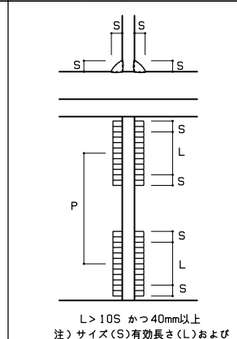
溶接方法	L(mm)
被覆アーク溶接	35以上
ガスシールドアーク溶接	38以上
サブマージアーク溶接	150以上

HFL1 HFL2 棒鋼と棒鋼，鋼板



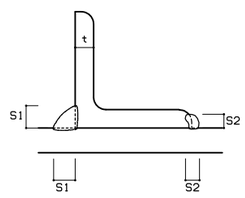
注）Lは片面溶接の場合10d、両面溶接の場合5dかつ100mm以上とする。

HF2 L-P



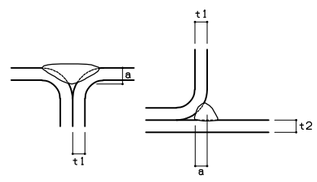
L>10S かつ40mm以上
注）サイズ（S）有効長さ（L）および溶接ピッチ（P）は特記する。

HFA 山形鋼と鋼板



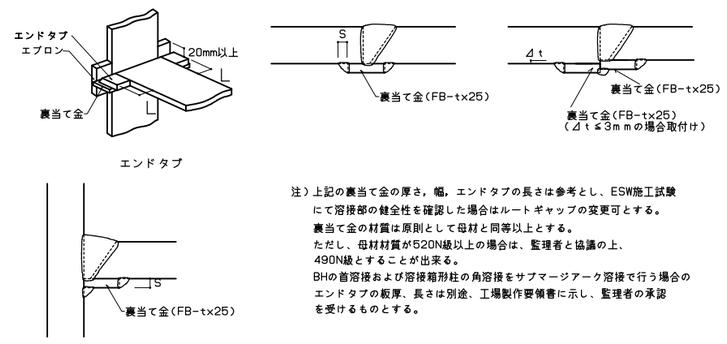
サイズ＼t	6	7	9	10	12	13
S1	8	10	14	14	17	17
S2	4	5	7	7	10	10

HFLC 軽量形鋼等



t≧3のとき　a=t
t<3のとき　a=3

注） tはt1，t2の薄い方の板厚とする。



注）上記の裏当て金の厚さ，幅，エンドタブの長さは参考とし、ESW施工試験にて溶接部の健全性を確認した場合はルートギャップの変更可とする。
裏当て金の材質は原則として母材と同等以上とする。
ただし、母材材質が520N級以上の場合は、監理者と協議の上、490N級とすることが出来る。
BHの首溶接および溶接箱形柱の角溶接をサブマージアーク溶接で行う場合のエンドタブの板厚、長さは別途、工場製作要領書に示し、監理者の承認を受けるものとする。

注）1. 裏当て金の材質は原則として母材と同等以上とする。
ただし、母材材質が520N級以上の場合は、監理者と協議の上、490N級とすることが出来る。また、板厚・サイズは参考とする。
2. 監理者の承認を得た場合は、基準図と異なる開先形状とすることが出来る。
3. 余盛高さは、記入なき限りＪＡＳＳ6による。

施工			
監理			
検工			
施工			

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

溶接開先基準図（2）

構　（通し番号　67）
8 － 3
No. J－240623－D

J240623D 623SDW-02.DWG 26/01/14 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC

'02.09.25訂正 仕様書委員会 作成
'20.08.06 改定 金属研究会 作成
'24.12.24 改定 金属研究会 作成

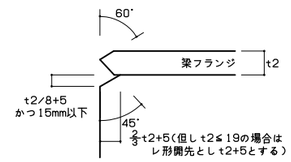
780×570

工　場　溶　接

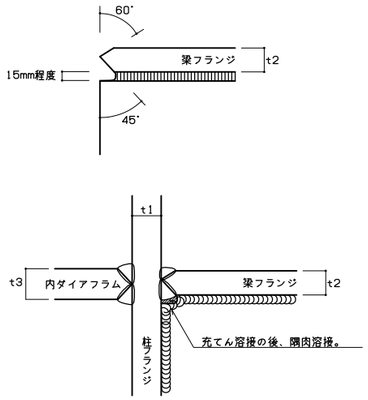
柱通しタイプノンスカラップ工法

（1）裏はつり方式の場合

（a）同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合



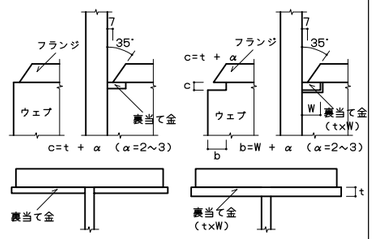
（b）先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合



（2）裏当て金方式の場合

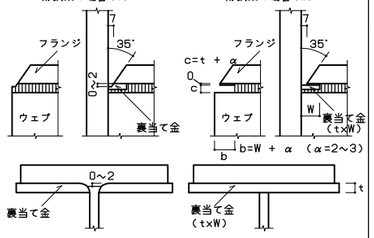
（a）同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合（1）

（b）同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合（2）

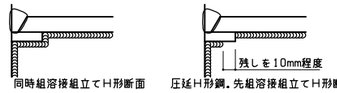


（c）先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合（1）

（d）先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合（2）



・柱フランジと梁の隅肉溶接要領

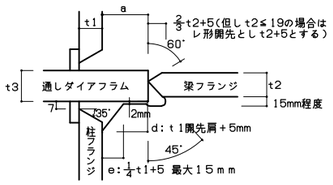


同時組溶接組立てH形断面　　圧延H形鋼、先組溶接組立てH形断面

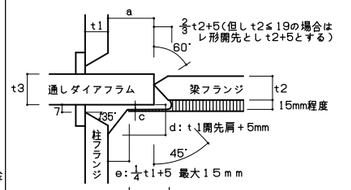
梁通しタイプノンスカラップ工法

（1）裏はつり方式の場合

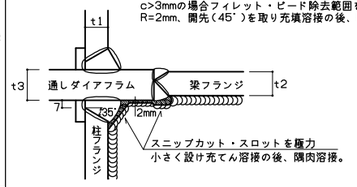
（a）同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合



（b）先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合

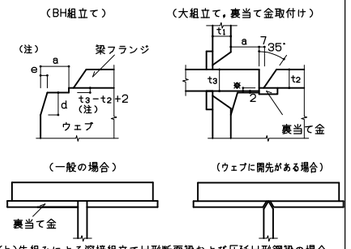


フィレット・ビード除去範囲
c>3mmの場合フィレット・ビード除去範囲を
R=2mm、開先（45°）を取り充填溶接の後、HFF2とする

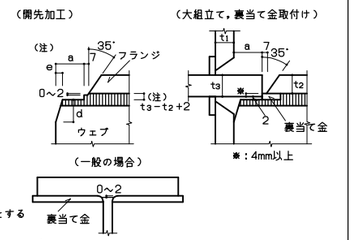


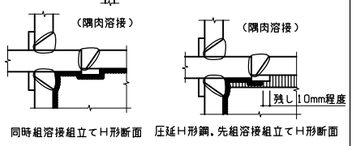
（2）裏当て金方式の場合

（a）同時組みによる溶接組立てH形断面梁の場合



（b）先組みによる溶接組立てH形断面梁および圧延H形鋼梁の場合

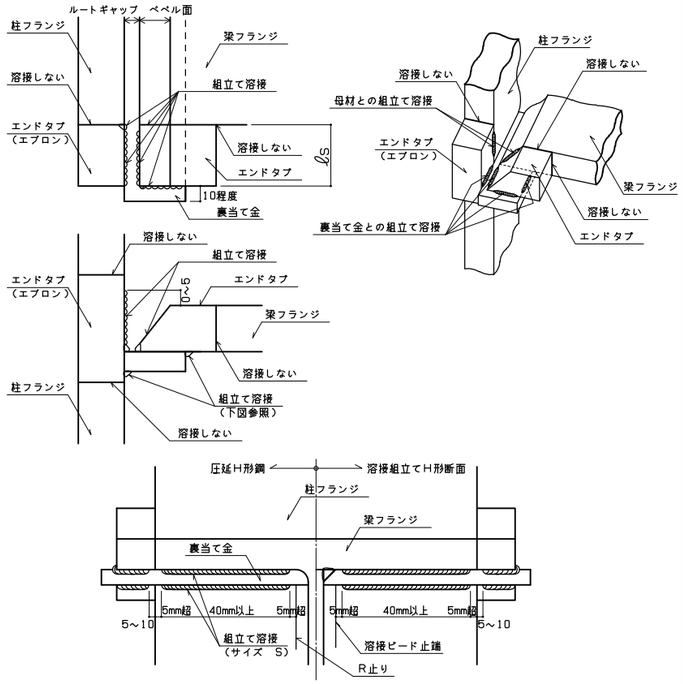




同時組溶接組立てH形断面　　圧延H形鋼、先組溶接組立てH形断面

a寸法は別図「鉄骨仕口基準標準図」による

エンドタブ・裏当て金溶接要領

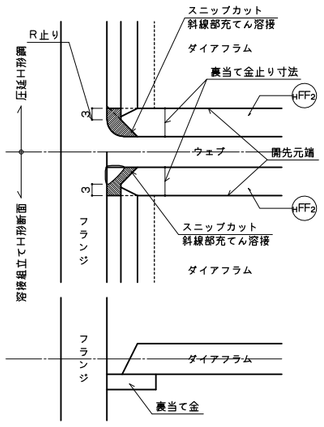


工　場　溶　接

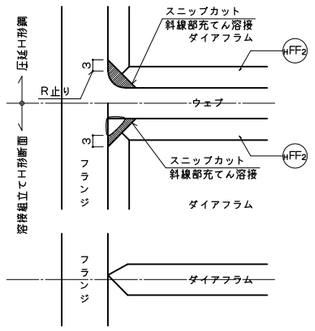
ダイアフラム溶接要領

a．裏当て方式の場合
ダイアフラムの圧延H形鋼フィレット
R部（溶接組立てH形断面の場合は
隅肉溶接部）をスニップカット
し充てん溶接とする。

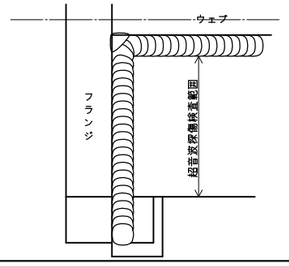
裏当て金の止り寸法は、HFF2
開先元端または圧延H形鋼フィレ
ットR止り（溶接組立てH形断面の
場合は隅肉溶接脚長）のどちら
か大きい寸法とする。



b．裏はつり方式の場合



c．超音波探傷検査の範囲
超音波探傷検査の範囲は
ウェブの隅肉溶接（HFF2）
ビード端までとする。

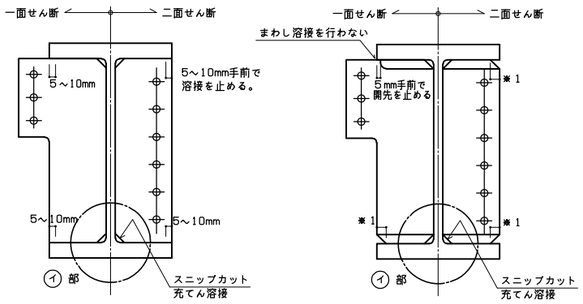


ガセットプレート溶接要領

a．ガセットプレート、スティフナーのフランジ端部側

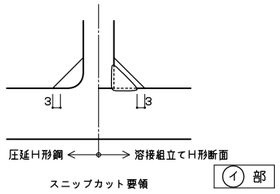
1、開先無の場合
フランジ端部より5mm～10mmひかえ溶接を止める。

2、開先有りの場合
スニップカットを設けまわし溶接を行う。



b．ガセットプレート、スティフナーのウェブ側

ガセットプレートの圧延H形鋼フィレットR部
（溶接組立てH形断面の場合は隅肉溶接部）を
スニップカットし充てん溶接とする。



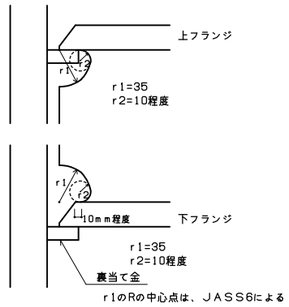
スニップカット要領

※1　スニップカットの大きさは、開先高さとする。

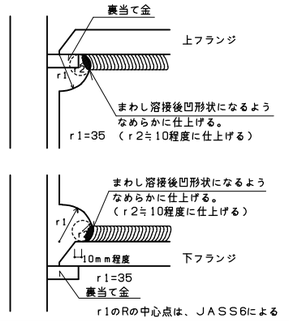
工事現場溶接部スカラップ形状

JASS6複合円スカラップ

圧延H形鋼、先組み溶接組立てH形断面

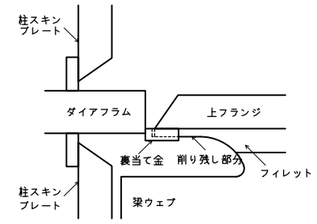


同時組溶接組立てH形断面

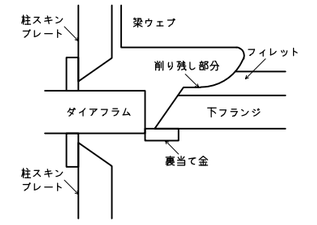


反転スカラップ

・詳細は『反転スカラップ梁端工事現場接合工法標準仕様書』による。
梁端部のスカラップ形状（通しダイアフラム形式の例）は、下図に示す反転スカラップとする。



【上フランジ】



【下フランジ】

着工			
竣工			
監理			
施工			

注）1．この基準図は、記入なき限り被覆アーク溶接及びガスシールドアーク溶接による標準溶接継手の形状を示す。
2．裏当て金の材質は原則として母材と同等以上とする。
ただし、母材材質が520N級以上の場合は、監理者と協議の上、490N級とすることが出来る。

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026．06．30　　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

溶接開先基準図（3）

構　（通し番号　68）
8 － 4

No. J－240623－D

J240623D 623SDW-03.DWG 26/01/14 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/1 A1YFPC

'02．09．25訂正　仕様書委員会　作成
'20．08．06 改定　金属研究会　作成
'24．12．24 改定　金属研究会　作成

780×570

溶融亜鉛めっき部材仕様及び要領図

1. 基本事項

1.1 総則

1.1.1 本要領は、鉄骨工事におけるめっき部材に適用する。

1.1.2 特殊な形状、材質によりめっき割れ、めっきだまり等の問題が発生しないよう、受注者・めっき工場・鉄骨製作工場で十分検討し、めっき施工要領書を提出し監理者の承認を得る。

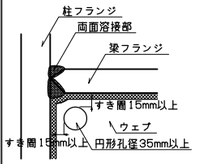
1.1.3 本要領に記載無き項目については、建築用溶融亜鉛めっき構造物の手引き（日本鋼構造協会編）による。

1.2 加工・工作・溶接

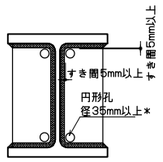
1.2.1 めっき抜きは、閉鎖型断面部材端部又は隅角部によらず孔による。

1.2.2 溶接は隙間が生じないように全周溶接とする。

めっき抜き孔要領例

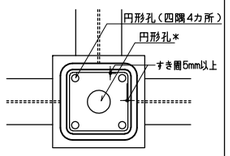


柱梁仕口部



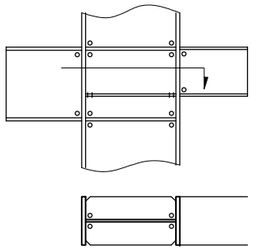
H形断面部材

*ただし、梁せい又はフランジ幅が小さい場合は監理者と協議のうえ、小さくすることができる。

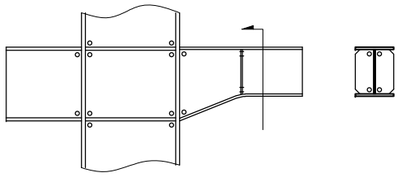


閉鎖断面部材

*開口率は、めっき工場と協議のうえ、決定する。



梁段差部



梁ハンチ部

1.3 補修

1.3.1 不めっき部は高濃度亜鉛粉末塗料２回塗りを行う。ただし、広範囲（5cm以上）にわたる場合は再めっきとする。

1.3.2 摩擦接合面以外のめっきの垂れ、めっき溜まり等の外観上不良箇所は、指示無き限りそのままとする。
ただし、指示により補修を行う場合は、めっきを削りすぎないよう十分注意をする。

1.4 溶融亜鉛めっき高力ボルトの摩擦面の処理
摩擦接合面は、ブラスト処理を原則とする。ただし、屋上工作物・目隠し鉄骨・設備架台等の主架構部材以外の軽微な部材は、監理者との協議により、りん酸塩処理とすることができる。その場合の、処置は次による。

1.4.1 摩擦接合面のたれ、かす引き等を除去し平滑に仕上げる。

1.4.2 クロメート処理を行った部材は摩擦接合面のクロメート被覆をシンナー等により除去した後、りん酸塩を塗布する。

1.5 検査

1.5.1 溶融亜鉛めっき施工完了後、施工者による受入検査を行う。
受入検査の内容はめっき施工要領書に示し、監理者の承認を得る。

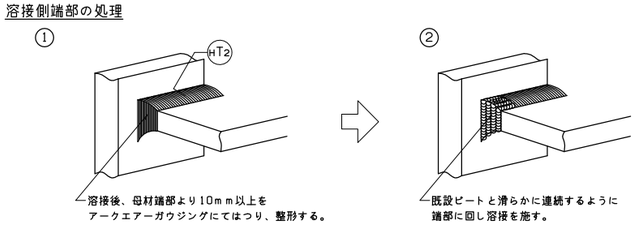
2. 工場溶接部

2.1 溶接

2.1.1 完全溶込み溶接部の溶接方法は裏はつり方式とする。

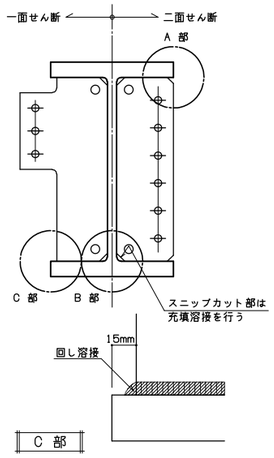
2.1.2 ノンタブ方式とし、溶接後に溶接部両端をはつり、回し溶接を行う。

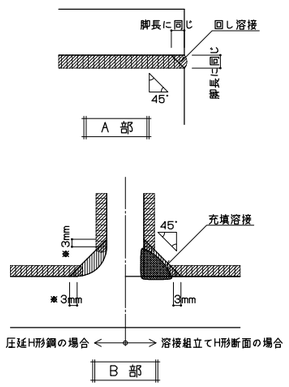
溶接側端部の処理



2.2 ガセットプレートの溶接要領

2.2.1 ガセットプレートは1面せん断用，2面せん断用共に端部をカット（溶接脚長に同長）し、回し溶接を行う。

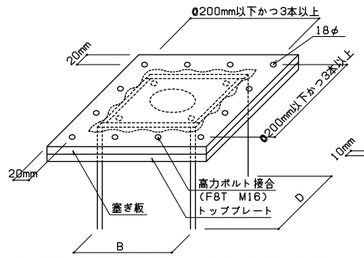




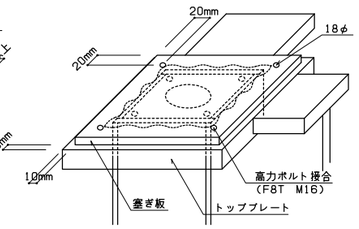
*圧延H形鋼の場合はフィレット始端より3mmの位置以上のスニップカットとする。

2.3 閉鎖型断面柱における柱頭部の要領例

2.3.1 閉鎖型断面柱において雨がかりとなる柱頭部には下図に示す通りフランジプレートを設けるか、又は、トッププレート四隅に孔明けし、塞ぎ板にて柱内部へ水が浸入しないように密閉する。



<トッププレートがない場合又は、トッププレート板厚が薄い場合>



<トッププレートがある場合　t≧19　>

① フランジプレート及び塞ぎ板は記入なき限り以下とする。大きさ ： PL-12×(B+100)×(D+100) 鋼材材質 ： SS400
トッププレートタイプの塞ぎ板は記入なき限りトッププレートと同サイズで、板厚12mm 鋼材材質 ： SS400とする。

② フランジプレートと塞ぎ板の接合に用いる溶融亜鉛めっき高力ボルトは各辺ごとにφ200mm以下の配置かつ3本以上用いる。

③ フランジプレート又は、トッププレートと塞ぎ板の間は防水上有効なプロロプレンゴム系シーリング材もしくは同等品を板全面にはさみ込み、板間が湿潤状態となることを防止する。

3. 現場溶接部

3.1 溶接部の防錆処理仕様

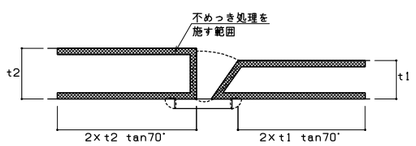
3.1.1 現場溶接部の防錆処理はJIS H 8300 亜鉛アルミニウム及びそれらの合金溶射による。

3.1.2 溶射被膜は亜鉛アルミ合金又は亜鉛アルミ擬合金とする（Zn:85%、Al:15%）膜厚は150μmとし、溶射被膜には封孔処理を行う。

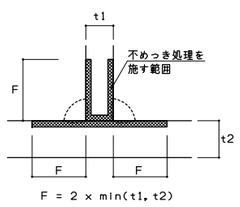
3.1.3 溶射は溶融亜鉛めっき部に50mm以上重なるように施工する。

3.2 不めっき処理とする範囲

3.2.1 下図に示す範囲においては不めっき処理を施す。



完全溶込み溶接部



隅肉溶接部

3.3 現場溶射部の下地処理

3.3.1 現場溶射部の下地処理はグリッドブラスト処理又は、ショットブラスト処理を基本とする。
その際、隅角部は2～3Rの面取りを施す。

3.4 エンドタブの処理

3.4.1 エンドタブは（裏当て金のある場合は裏当て金共）端部を切断し、表面をグラインダー等を用いて不陸の少ない丸面仕上げとする。

着工	. .	. .	
竣工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

本線準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持スラブのスパン
D	リストに示す柱幅・柱せい	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E, F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着の長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h, L3h	フックあり定着の長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着の長さ	P	壁開口（円孔）の大きさ				

高橋 央　一級建築士
小板橋 裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野 悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生 悟

日建設計

2026. 06. 30　検図者： 山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

溶融亜鉛めっき部材に関する仕様・要領図

構　（通し番号 69）
8 － 5

No. J－240623－D

J240623D 623SDR-11.DWG 25/12/26 <FNS>SNK0210
PS NS-構造A1（統一ルール） 1/20 A1YFPC

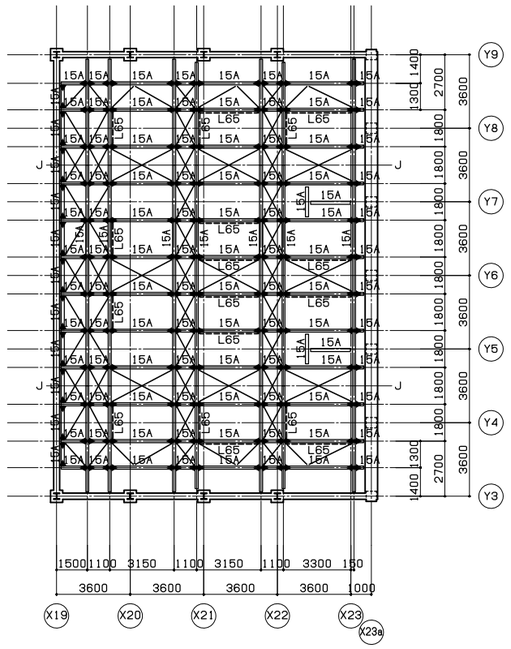
'16.01.18 金属研究会
'17.10.02 金属研究会

780×570

ホール上部鉄骨伏図

A1:1/150
A3:1/300

注記）　記入なき限り下記による。
1. 柱符号 MC15A:H-150x150x7x10(SS400)
2. 梁符号 15A:H-150x150x7x10(SS400)
3. 水平ブレース L65:L-65x65x6(SS400) GPL-12 HTB 3-M20(S10T)
4. ═╪═ 印は剛接を示す。
5. Jは現場継手位置を示す。
6. ----- 印は鉛直ブレースを示す。

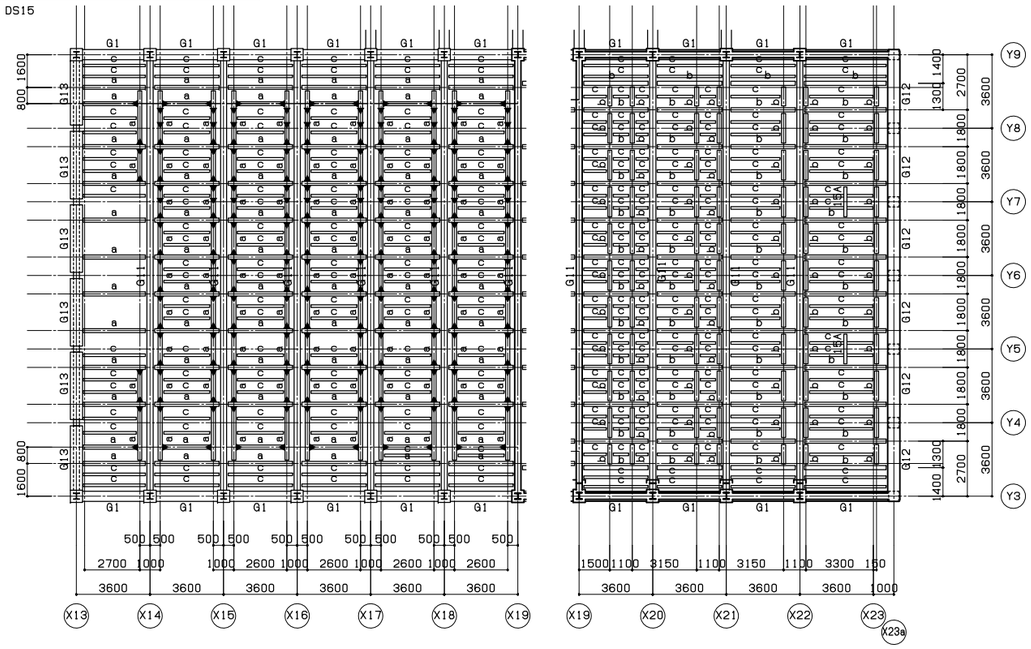


ろ 伏図(4FL+2250)

注記）　記入なき限り下記による。
1. FLからの床スラブ、梁上端レベルは下表とする。

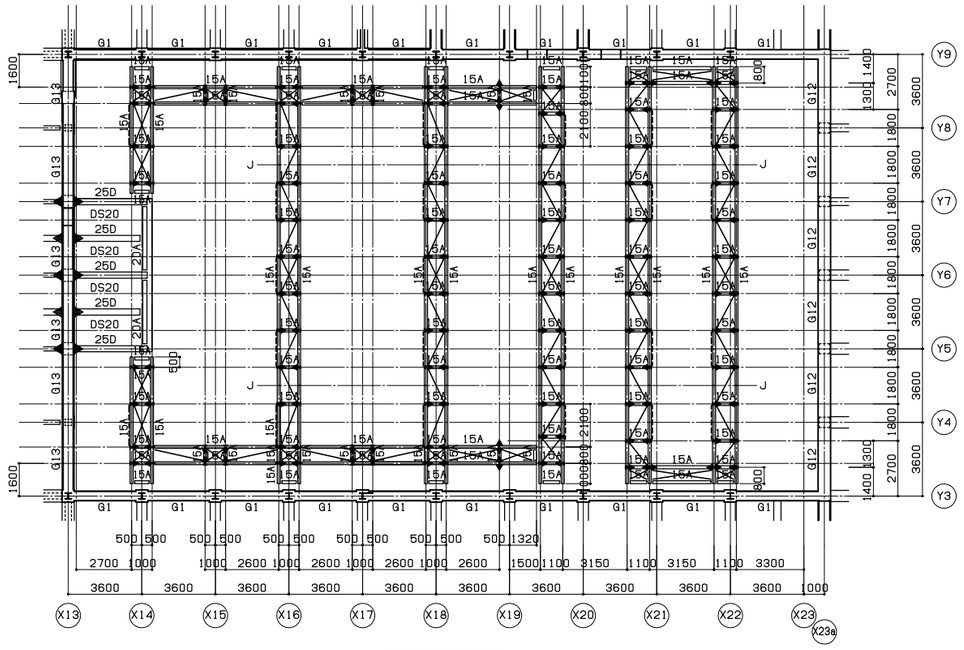
記 号	床スラブ上端	鉄骨小梁上端	備 考
▭	RFL-1650	RFL-1800	c材天端:FL-1875
▭	RFL+1050	RFL+ 900	c材天端:FL+725

2. 床スラブ DS15
3. 伏図に記載されている部材符号は次の部位材を示す。
a:20A H-200x200x8x12　c: C-125x5-x20x3.2 2-M20@60(S10T) GPL-9(SS400)
b:30B H-294x150x8x12　(躯体取り合い)2-M20@60 GPL-9 BPL-9x150x150 A.BOLT 2-M20 L=450

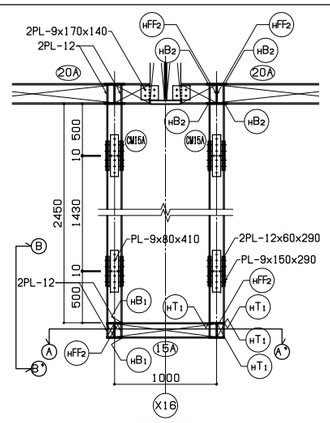


い 伏図(RFL-1650, +1050)

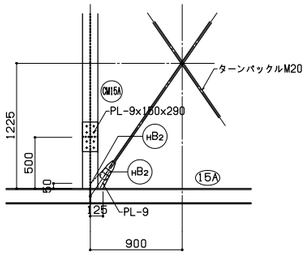
注記）　記入なき限り下記による。
1. 柱符号 MC15A:H-150x150x7x10(SS400)
2. 梁符号 15A:H-150x150x7x10(SS400)
3. ╲╱ 印は水平ブレース L65:L-65x65x6(SS400)
4. ----- 印は鉛直ブレース:2-M20 GPL-9 HTB. S10T
1-M22 ターンバックル付き JIS規格品
5. ═╪═ 印は剛接を示す。
6. Jは現場継手位置を示す。



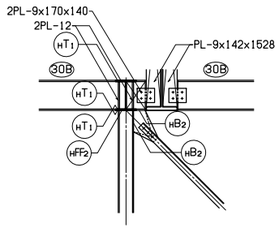
は 伏図(4FL-350)



a部詳細図 A1:1/30 A3:1/60

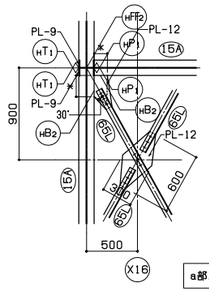


a部B-B'矢視図 A1:1/30 A3:1/60

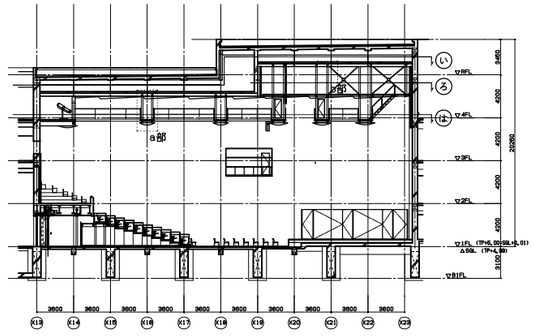


b部詳細図 A1:1/30 A3:1/60

*ボルト第1孔から部材端部に向け、30°勾配を確保した線とフランジ交点を下回らないこと。



a部A-A'断面図 A1:1/30 A3:1/60



keyプラン

書工	. .	. .	
検工	. .	. .	
監理		. .	
施工		. .	

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
絹生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

ホール上部鉄骨伏図　A1=1/150 A3=1/300

構　（通し番号　70）
8 － 6

No. J－240623－D

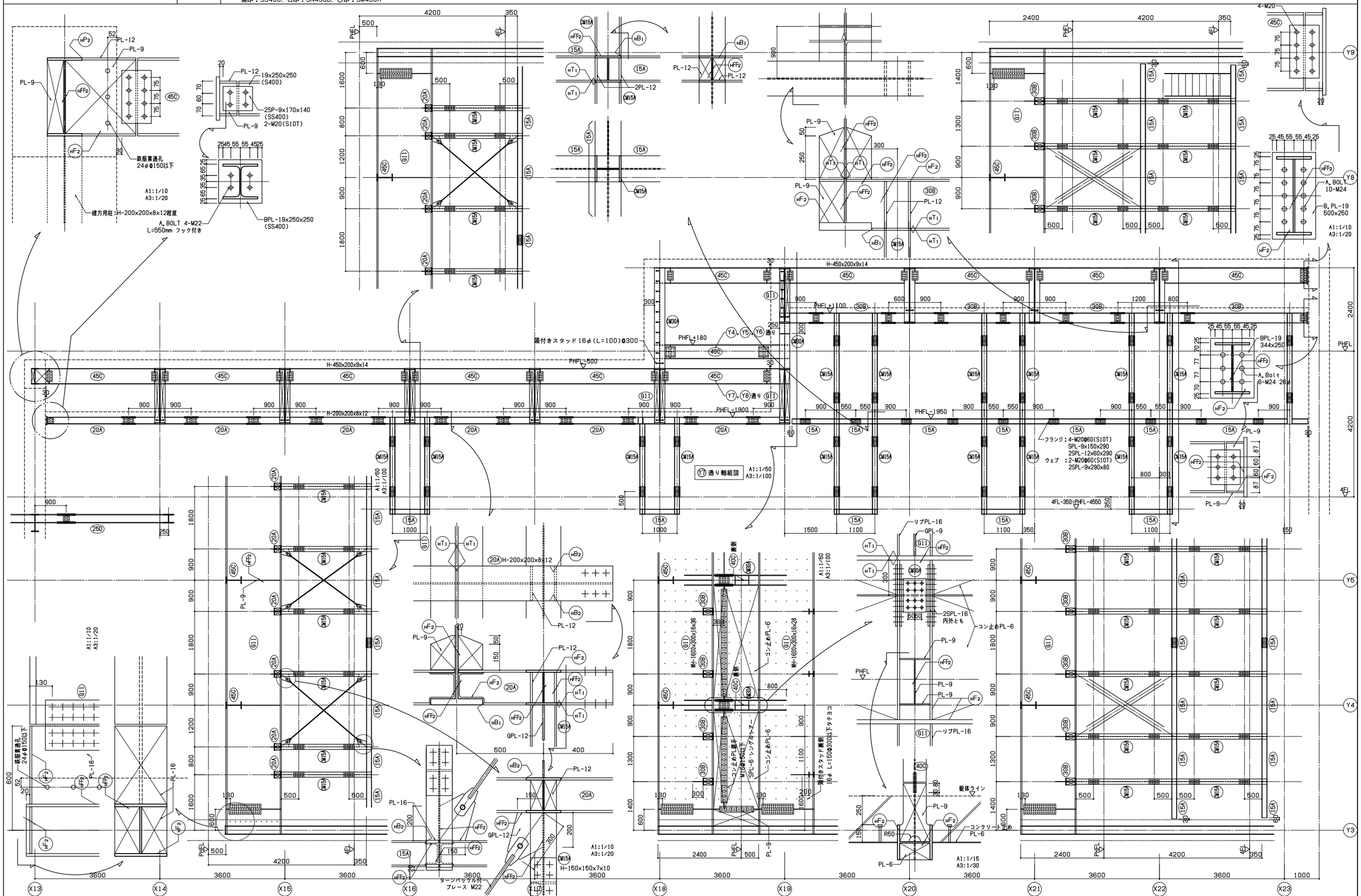
J240623D 623DS-02.DWG 26/04/14 <FNS>SNK0202
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/150 A1YFPC

78 0X 5 7 0

ホール上部鉄骨詳細図

A1:1/ 50
A3:1/100

注記）　記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質は次による。
無印：SS400、□印：SN490B、○印：SM490A
2. ◀▶ 印は剛接合を示す。



審査			
検査			
監理			
施工			

高橋　央　　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

ホール上部鉄骨詳細図　A1=1/ 50　A3=1/100

構　（通し番号　71）
8 － 7

No. J－240623－D

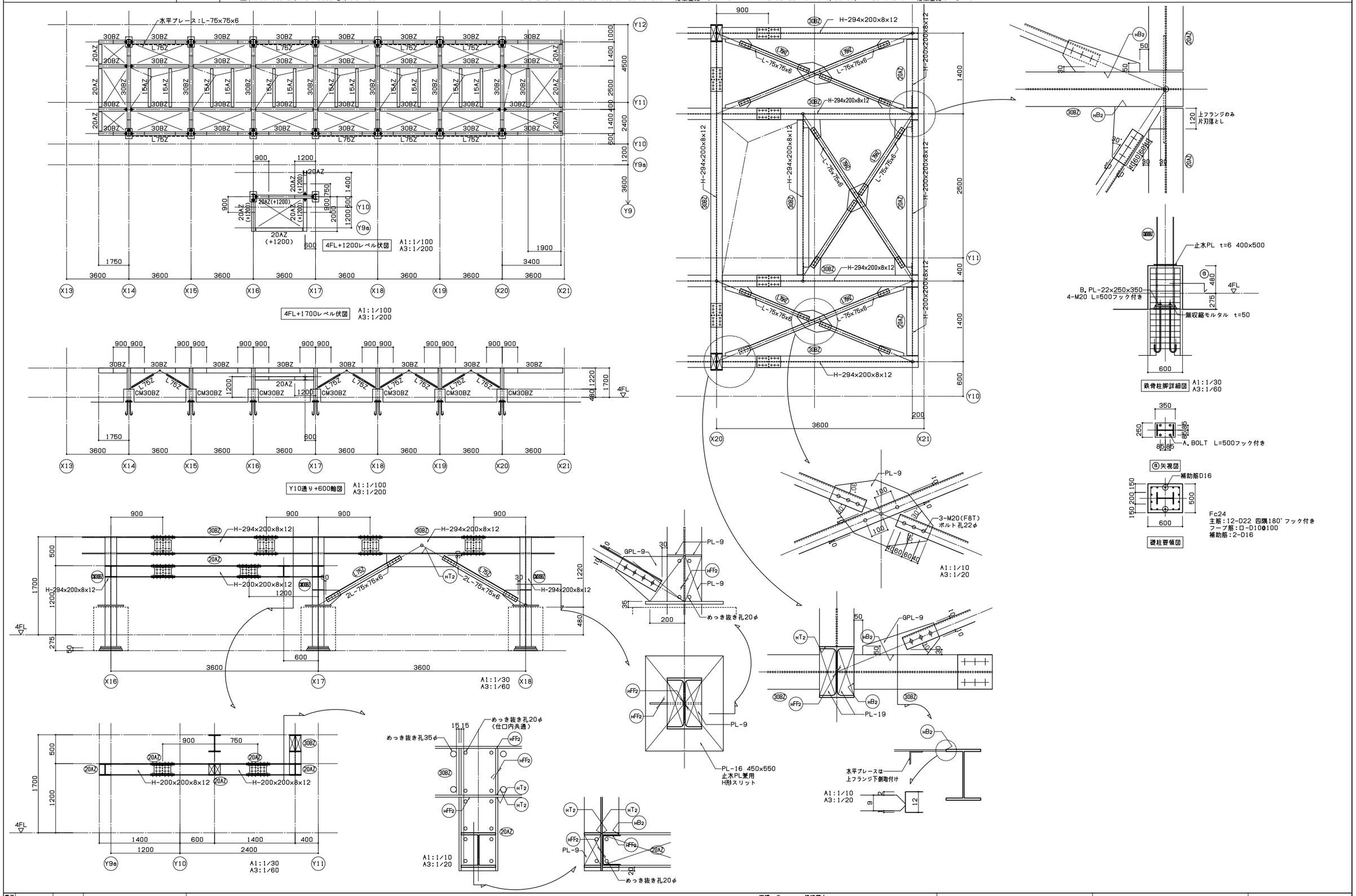
J240623D 623DS-04.DWG 26/04/14 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC

780×570

屋上設備架台鉄骨詳細図（1）

A1:1/100
A3:1/200

注記）　記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質は次による。
無印：SS400、□印：SN490B、○印：SM490A
2. ◀▶ 印は剛接合を示す。
3. 水平面ブレースは次の部材とする。
L75HZ:L-75x75x6、SS400、3-M20　GPL-9mm 溶融亜鉛メッキ　F8T
4. ═══ 印は鉛直面ブレースを示し、次の部材とする。
L75Z:2L-75x75x6、SS400、4-M20 GPL-9mm 溶融亜鉛めっき　F8T



審査			
検査			
監理			
施工			

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

屋上設備架台鉄骨詳細図（1）　A1=1/100　A3=1/200

構　（通し番号　72）
8 － 8
No. J－240623－D

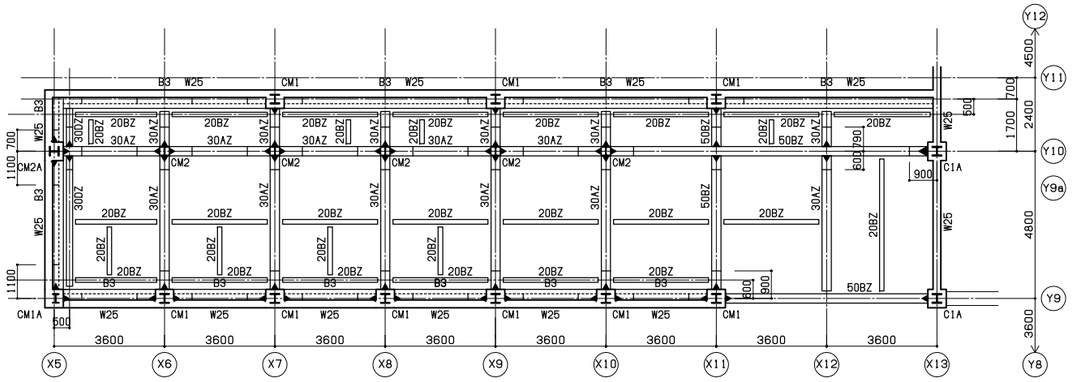
J240623D 623DS-01.DWG 26/05/19 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/100 A1YFPC

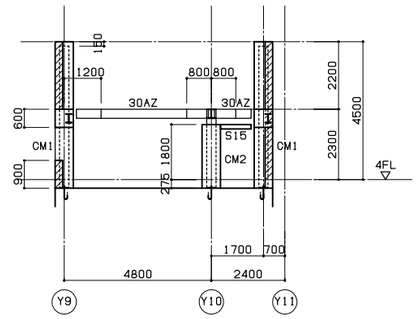
780×570

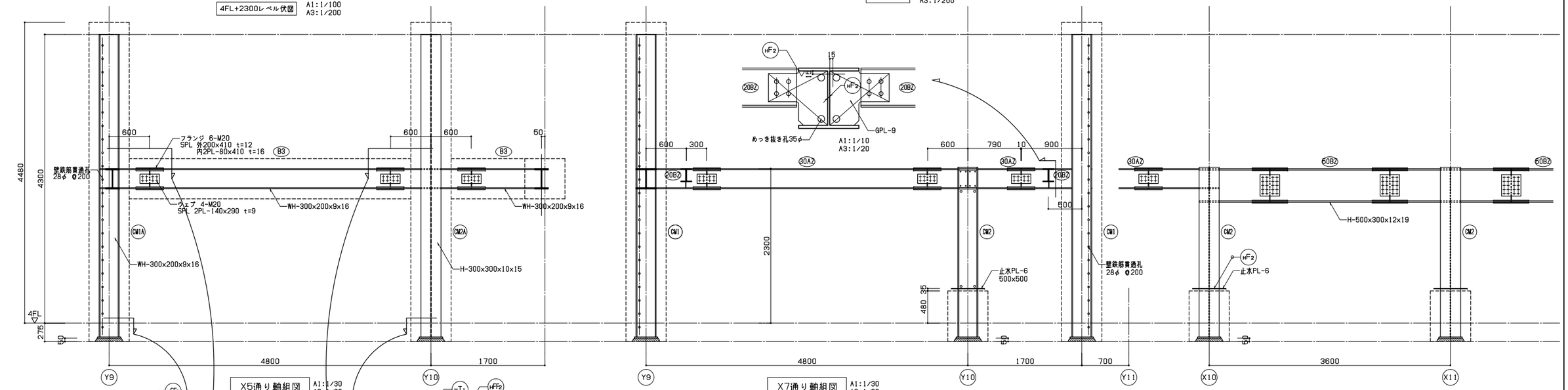
屋上設備架台鉄骨詳細図（2）

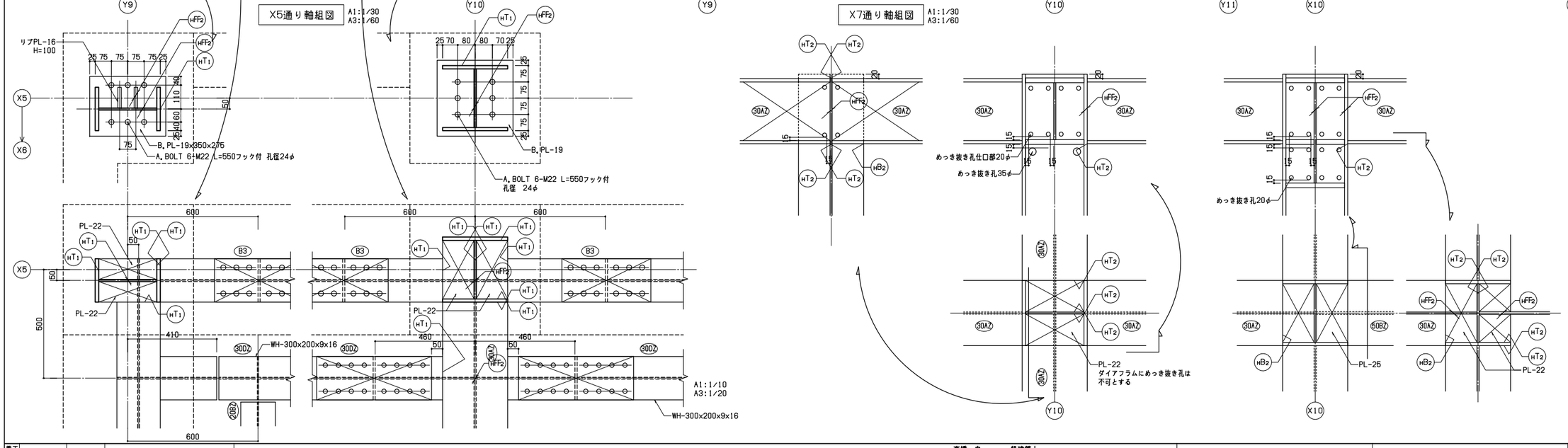
A1:1/100
A3:1/200

注記）　記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質は次による。
　無印：SS400、□印：SN490B、○印：SM490A
2. ◀▶ 印は剛接合を示す。









書工			
検工			
監理			
施工			

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
桐生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

屋上設備架台鉄骨詳細図（2）　A1=1/100　A3=1/200

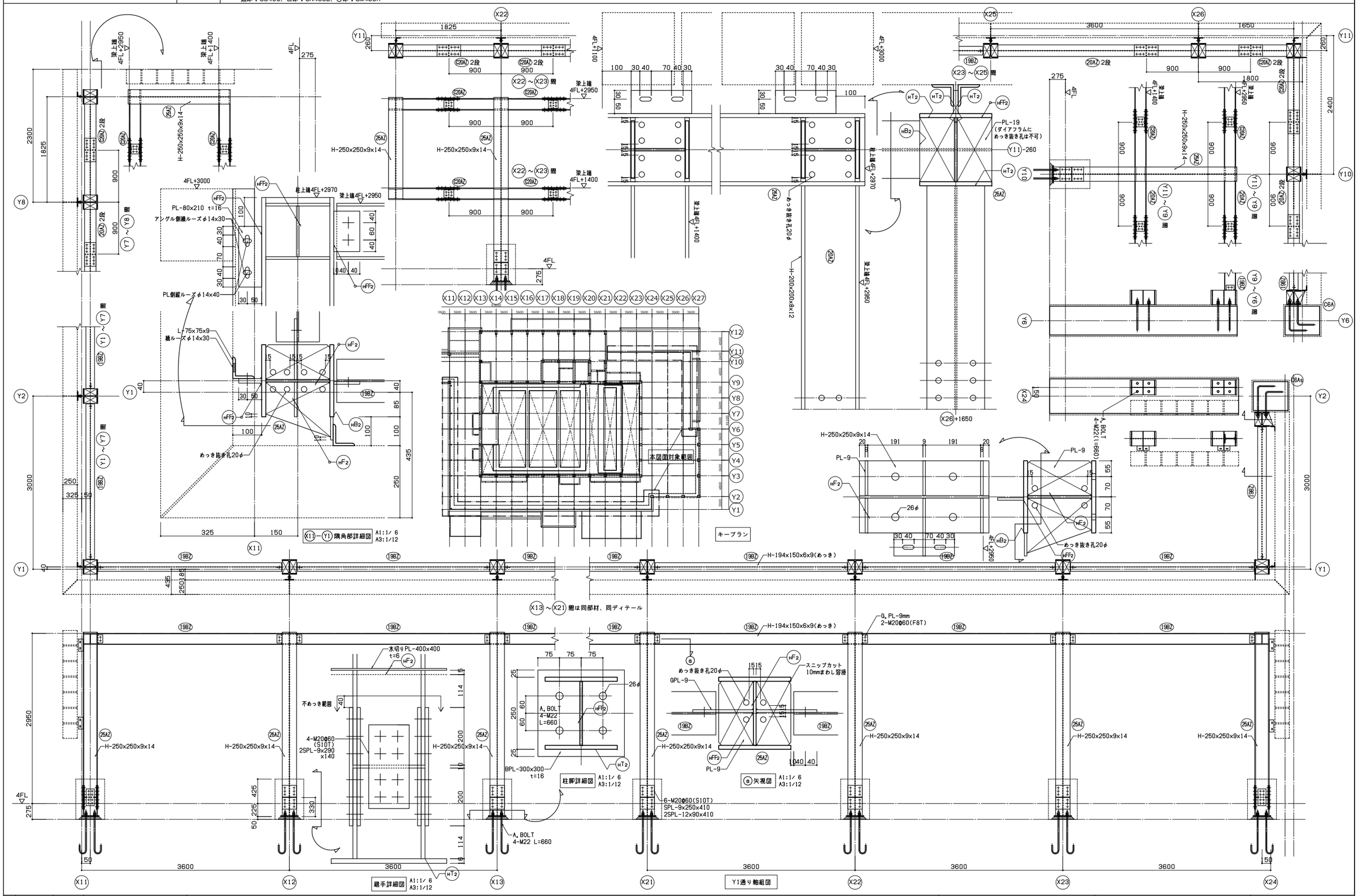
構　（通し番号　73）
8 － 9
No. J－240623－D

J240623D 623DS-06.DWG 26/04/21 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/100 A1YFPC

目隠し壁下地鉄骨詳細図

A1:1/100
A3:1/200

注記）　記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質は次による。
無印：SS400、□印：SN490B、○印：SM490A
2. ◀▶ 印は剛接合を示す。



番工			
検工			
監理			
施工			

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

目隠し壁下地鉄骨詳細図　A1=1/30 A3=1/60

構　（通し番号　74）
8 － 10

No. J－240623－D

J240623D 623DS-03.DWG 26/03/04 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/30 A1YFPC

780X570

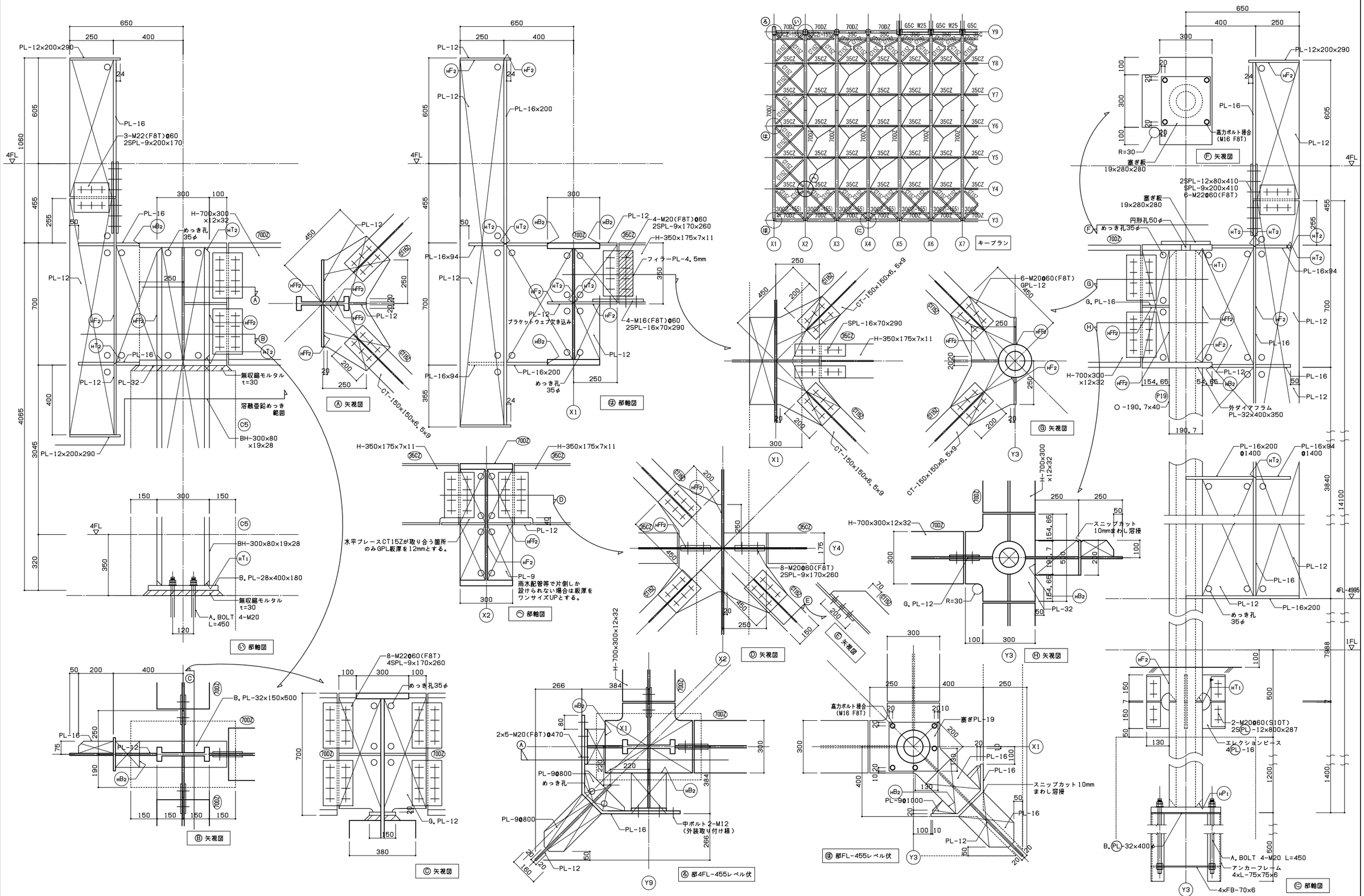
大屋根鉄骨詳細図（1）

A1:1/10
A3:1/20

注記）　記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質は次による。
無印：SS400、□印：SN490B、○印：SM490A

2. CT15ZのGPLを隅肉溶接で他PLと取り合わせる場合、
溶接のサイズは、CT15ZのGPL板厚に対応したサイズとする。

3. P19の有効細長比：178



看工			
現工			
監理			
施工			

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
綱生　悟

日建設計

2026.06.30　検図者：山本　裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

大屋根鉄骨詳細図（1）　A1=1/10　A3=1/20

構　（通し番号　75）
8 － 11

No. J－240623－D

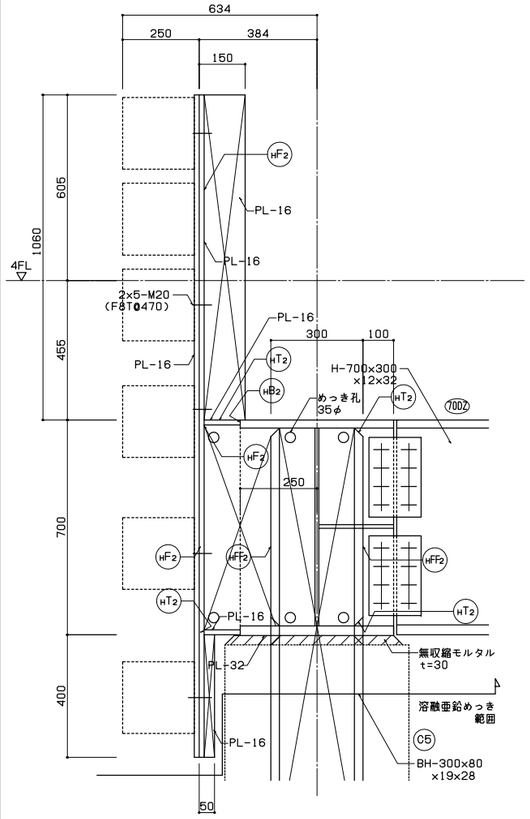
J240623D 623DS-05.DWG 26/05/19 <FNS>SNK0233
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/10 A1YFPC

780×570

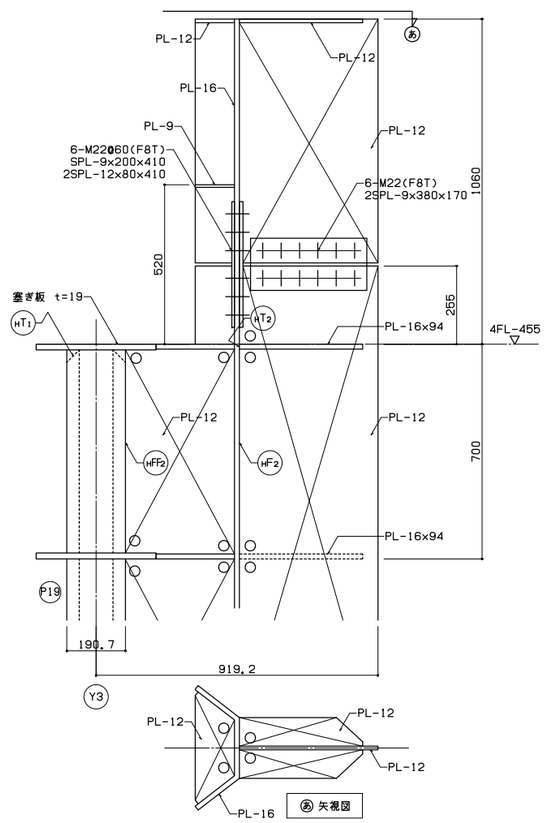
大屋根鉄骨詳細図(2)・P13詳細図

A1:1/10
A3:1/20

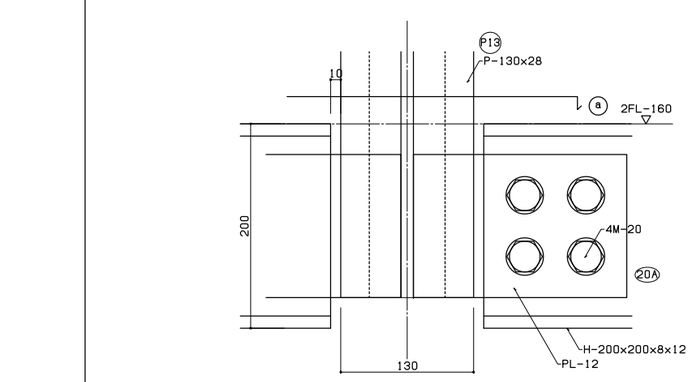
注記） 記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質は次による。
無印：SS400、□印：SN490B、○印：SM490A
2. CT15ZのGPLを隅肉溶接で他PLと取り合わせる場合、
溶接のサイズは、CT15ZのGPL板厚に対応したサイズとする。



ろ 部軸図

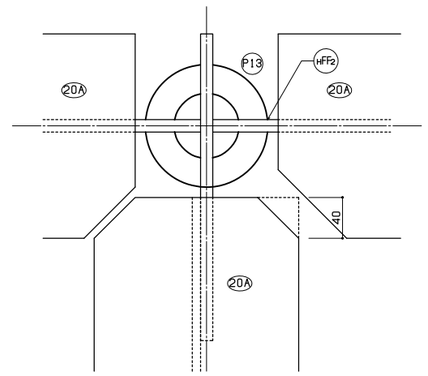


い 部軸図

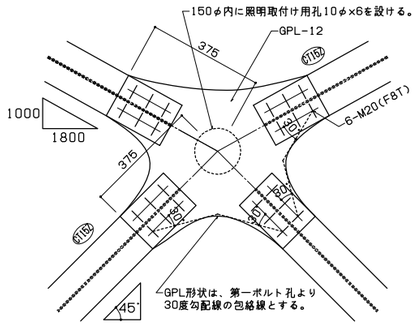


イ部拡大図

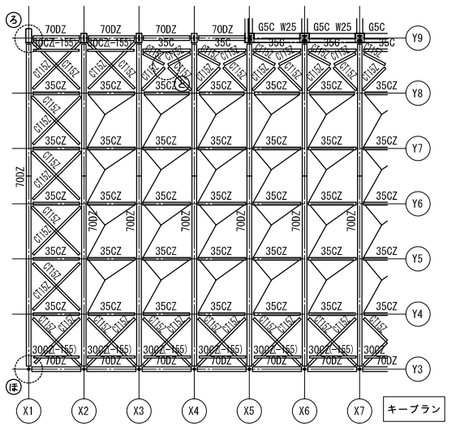
ⓑ 部矢視図



ⓐ 部矢視図



と 部詳細図



キープラン

P13接合部詳細図

A1:1/3
A3:1/6

注記） 記入なき限り下記による。
1. 鋼材品質は次による。
無印：SS400、□印：SN490B、○印：SM490A

番工	. .	. .	
現工	. .	. .	
監理		. .	
		. .	
施工		. .	

高橋 央 一級建築士
小板橋 裕一 一級建築士・構造設計一級建築士(法的合確認)
上野 悟 一級建築士・構造設計一級建築士
綱生 悟

日建設計

2026.06.30 検図者：山本 裕

木更津市吾妻公園文化芸術施設
新築工事（建築）

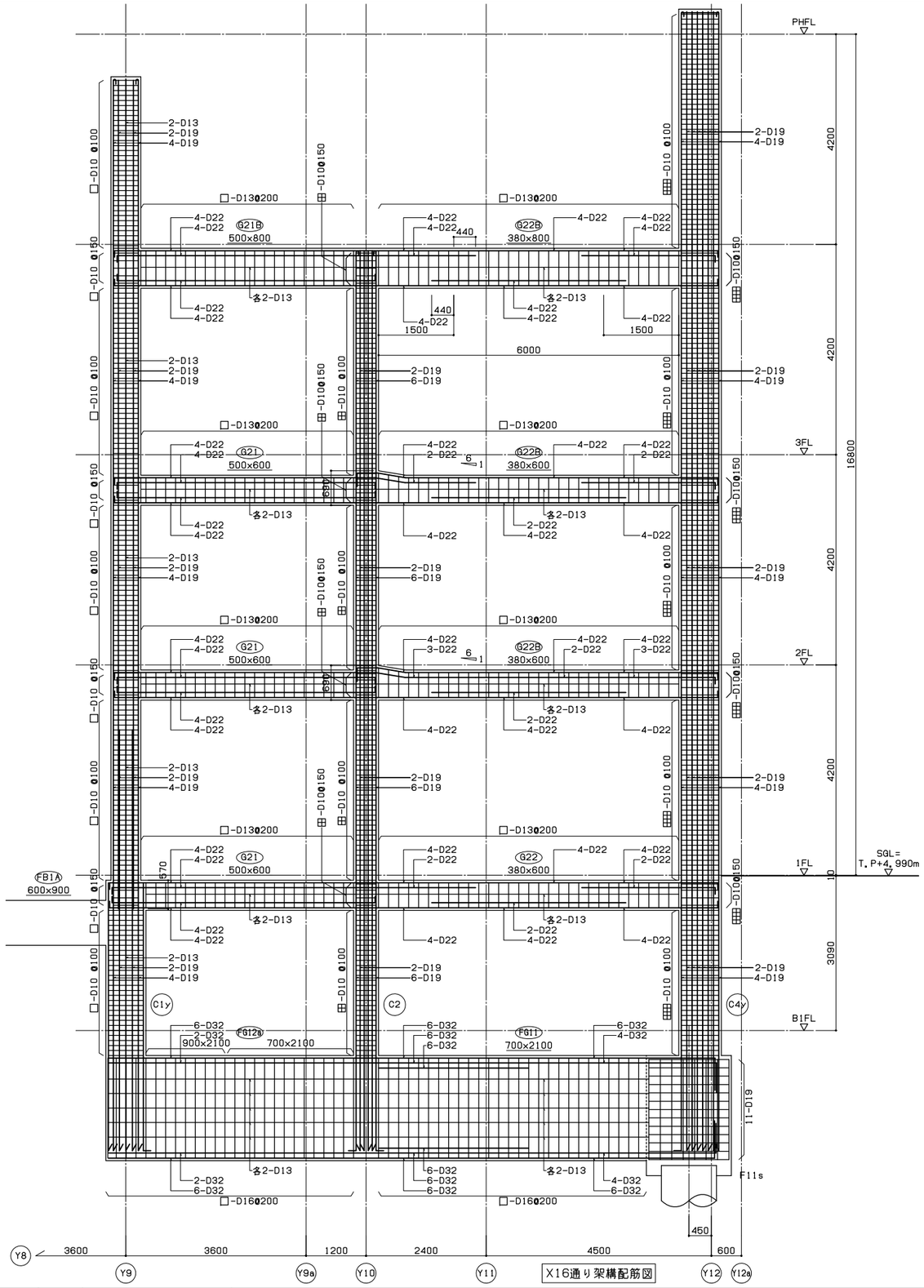
大屋根鉄骨詳細図(2)・P13詳細図 A1=1/10 A3=1/20

構 （通し番号 76）
8 － 12
No. J－240623－D

J240623D 623DS-05.DWG 26/04/14 <FNS>SNK0231
PS NS-構造A1(統一ルール) 1/10 A1YFPC

78 0 X 5 7 0

架構配筋図	A1:1/50 A3:1/100	注記） 記入なき限り下記による。



X16通り架構配筋図

書工	. .	. .	
検工	. .	. .	
監理		. .	
施工		. .	

高橋　央　一級建築士
小板橋　裕一　一級建築士・構造設計一級建築士（法的合確認）
上野　悟　一級建築士・構造設計一級建築士
絹生　悟

日建設計	木更津市吾妻公園文化芸術施設 新築工事（建築）	構	（通し番号　77） 9 － 1
2026.06.30　検図者：山本　裕	架構配筋図　A1=1/50　A3=1/100	No.	J－240623－D

J240623D 623DS-07.DWG 26/05/14 <FNS>SNK0202
PS-NS-構造A1(統一ルール) 1/50 A1YFPC